

おはなしレストラン

事業成果報告書

島根県立大学松江キャンパス

おはなし レストラン

事業成果報告書

平成 21 年度文部科学省選定大学教育推進プログラム
「おはなしレストラン、はじまるよ! ~読み聞かせによる人間力の育成~」
事業成果報告書

はじめに

この度、島根県立大学短期大学部松江キャンパスで取り組んで参りました大学教育推進プログラム（GP）「おはなしレストラン、はじまるよ! ~読み聞かせによる人間力の育成~」が無事終了しましたので、ここに事業の成果をとりまとめ、関係各位に報告いたします。

絵本の読み聞かせを学生の総合的な人間力の育成に活かす試みは、平成 17 年末から始めた、松江市立病院小児科病棟に入院する子どもたちに読み聞かせを行う学生有志のボランティア活動に端を発します。その翌年の平成 18 年度には、「読み聞かせの実践」として授業化に踏み切り、その後、読み聞かせの受け入れ先を変更したり授業の進め方に改良を加えるなど、授業の継続と改善に努めて参りました。「おはなしレストラン」という名称は、読み聞かせを授業化した当初から使っており、宮沢賢治が自分の書いた童話を「すきとおったほんとうのたべもの」（童話集『注文の多い料理店』序）と呼んでいるのに因んで付けた名前です。

平成 21 年度には、それまでの活動をベースに申請した読み聞かせの取組が文部科学省より大学教育推進プログラムに選定され、これを契機に取組の内容や規模を飛躍的に向上させることができました。「読み聞かせの実践」は、従来総合文化学科の学生のみを対象としておりましたが、平成 22 年度からは松江キャンパスにあります 3 学科の共通基礎科目に位置づけ、キャンパス全体をあげて読み聞かせ活動を推進しています。平成 23 年度の実績では、学生が子どもたちに読み聞かせを行った回数は日数で 112 日、3 日に 1 回のペースで実践を行った勘定になります。読み聞かせの資源である絵本を専門に集めた図書館「おはなしレストランライブラリー」も新たに設置しました。学生はもとより、一般の方にも絵本の貸出しを行い、学生・一般を合わせて毎月 1,000 名以上の利用があります。1 台のスチール棚に絵本をこつこつと集めていた、「読み聞かせの実践」を始めた頃に比べると、まるで夢のような話です。

夢が現実となるためには、多くの皆さまのご協力が必要でした。本事業の終了に際して、読み聞かせの受け入れ先となっていた松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校、松江市立忌部小学校はじめ各学校・施設の皆さま、おはなしレストランライブラリーをご利用いただいた皆さま、そして読み聞かせを楽しみに待っていた子どもたちに感謝を申し上げるとともに、読み聞かせに真摯に取り組んだ「おはなしレストラン」の学生シェフたちに敬意を表したいと思えます。

平成 24 年 3 月

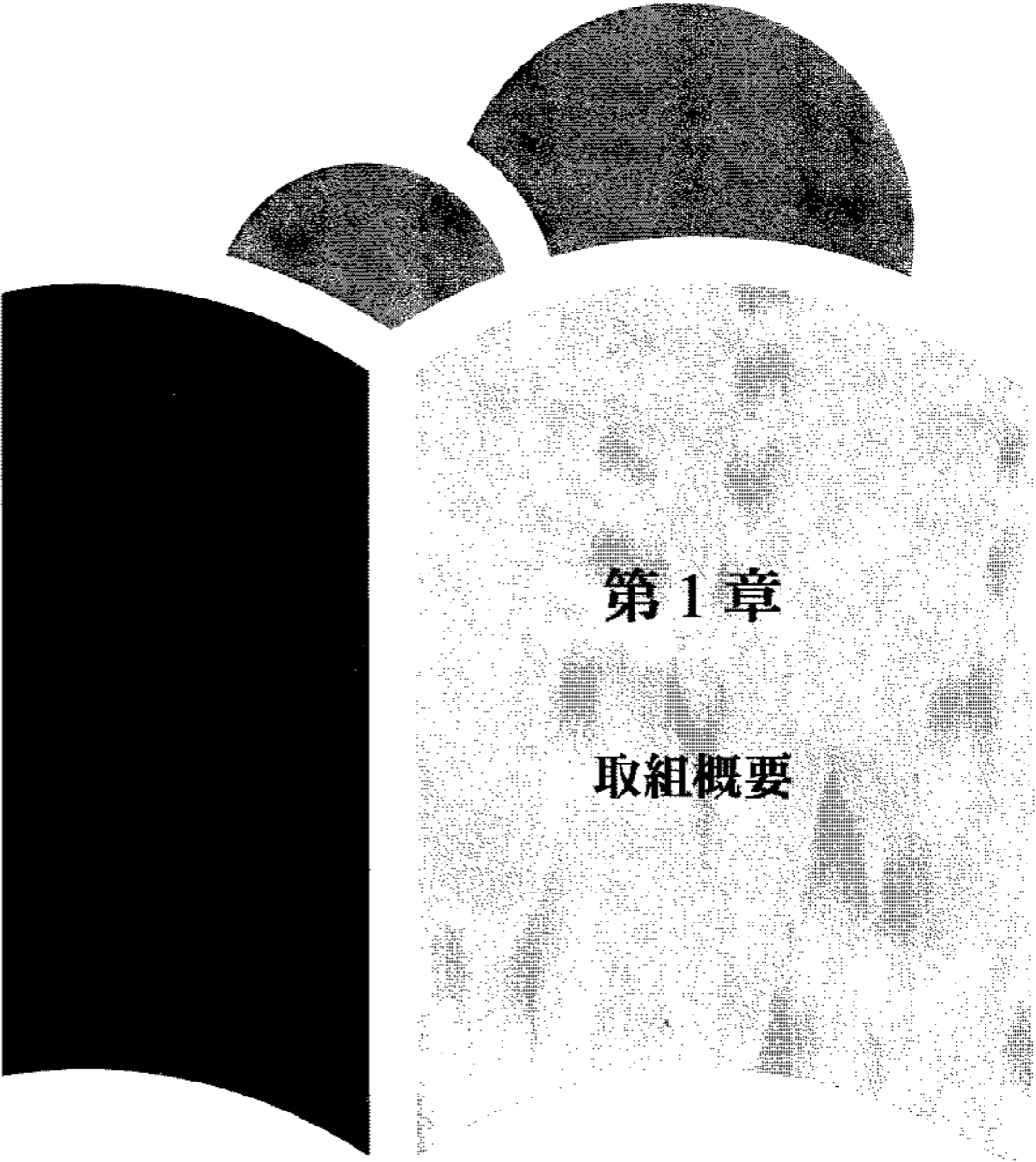
島根県立大学短期大学部松江キャンパス

取組担当者 教授 岩 田 英 作

教授 マユー あ き

文部科学省選定 大学教育推進プログラム
「おはなしレストラン、はじまるよ! ～読み聞かせによる人間力の育成～」事業成果報告書

第1章 取組概要	1
第2章 おはなしシェフの養成	
第1節 1年全学共通科目「読み聞かせの実践」	9
第2節 2年総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	22
第3節 集中講義…谷川俊太郎さんをお迎えして	30
第3章 出前シェフ	41
第4章 レストランのメニューの充実	47
第5章 レストランの素材の充実	
第1節 おはなしレストランライブラリー	51
第2節 司書業務内容	52
第3節 利用実績…入館者数、貸し出し冊数	58
第4節 利用者の声…アンケート結果	61
第5節 学生図書委員会の活動	66
第6章 東日本大震災の支援活動	
第1節 被災地に絵本を届けよう	69
第2節 石巻の避難所で読み聞かせ	71
第7章 委員会・会議	75
資料編	
1. ヒアリング資料	83
2. 報道資料	87
3. 関連広報物掲載記事	92
おわりに	95



第1章

取組概要

第1章 取組概要

本取組は、絵本の読み聞かせを通して、「知識」「技能」「実践」を総合的に学習することにより、キャンパス共通の教育課題である「人間力の育成」を達成しようとするものである。所在地松江市との連携を背景に、キャンパス全体で読み聞かせの実践に取り組むなど、4つの事業を展開。幅広い学びの中で課題を探索し、多面的な評価を加えることによって、質の高い教育と地域への貢献を実現するものである。

おはなしレストラン、はじまるよ!

読み聞かせによる人間力育成

島根県立大学 短期大学部 松江キャンパス

松江市

おはなしレストランの教育/役割

地域における教育研究拠点として、学生の学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育むことにより、課題探究力及び実践力を兼ね備えた人材を育成する。

おはなしレストランの連携/関係

- 包括協定**
- まちづくり
 - 人材育成
 - 保健・医療・福祉の向上
 - 教育・文化の振興 など

【近隣の教育機関との連携】

- 幼稚園、小中高校と教員・学生の交流、出前授業 など

健康栄養学科

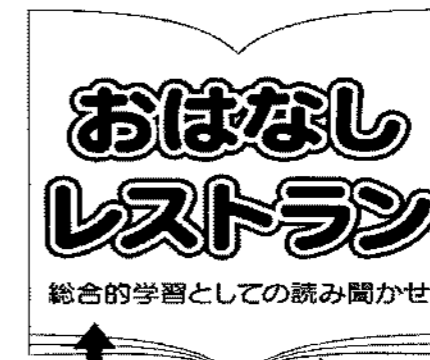
- ・食と健康に関して多面的に取り組む、地域住民の健康づくりに貢献できる栄養士の育成

保育学科

- ・多様な子育て環境に対応できる高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた保育士、幼稚園教諭の養成

総合文化学科

- ・国内外の文化についての知識、国際化・情報化に対応する技能を備え、地域社会の活性化、文化の継承と発展に貢献できる実践力をもつ人材の育成



取組内容

実践を通じた「幅広い学び」と「課題探究」

- ☆おはなしシェフの養成
 - ・「読み聞かせの実践」の全学共通科目化
 - ・集中講義の開催

☆出前シェフ

- ・地域の子育て応援イベントでの読み聞かせライブ
- ・絵本ワゴン車による広域活動

☆メニューの充実

- ・絵本のデータベースの公開
- ・絵本レビューの作成・配布

☆素材(絵本)の充実

- ・地域と共に創る絵本文庫の設置
- ・読み聞かせ活動に活用できる「読書スペース」の設置
- ・「交流スペース」の設置

共通する教育課題 「人間力の育成」

知識 人間・文化に対する知識と理解	技能 Face to Faceのコミュニケーションスキル	実践 社会性・備前能
-----------------------------	--	----------------------

評価・検定

- ・(学生に対する評価)
- ・本人、学生同士、教員、実践先の教員や聞き手による「多面的評価」

学内	●人間力養成検討会議
学外	●おはなしレストラン外部評価委員会

・より高い教育の質保証の実現
・さらなる地域社会への貢献

1. 取組の趣旨・目的・達成目標

①取組を実施するに当たっての背景

社会的背景

地球上を無数の情報が瞬時に行き交う高度情報化社会は、人とつながる可能性を爆発的に広げる一方で、皮肉にも実感に乏しい希薄な人間関係を増大させる危険性を孕んでいる。体験や実感の伴わないバーチャルな世界は現代の我々を否応なく取り巻いており、特に若者たちの多くは子どもの頃からそのような環境にさらされている。

社会を見渡すと、未就労や早期離職、さらには引きこもりなどが問題化しており、若い人たちの人や社会と距離を置きたがる傾向が顕著である。実社会で積極的に人と交わりながら人生を切り拓いていくことのできる逞しい若者の姿が強く求められている。そのため、大学教育においても、学生が様々な人と直接向き合い触れ合いながら社会へ出て行くための力を蓄え得るような場を、積極的かつ継続的に設定していく必要がある。

総合文化学科での取組

本申請に先立ち、総合文化学科では、その前身である文学科の時期を含めて、平成18年度より絵本の読み聞かせを授業に取り入れている。具体的には、1年前期の「読み聞かせの実践」、2年通年の卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の2科目で、平成21年度の場合、前者を46名、後者を11名がそれぞれ受講し、大学近隣の幼稚園と小学校で読み聞かせの実践を行っている。

読み聞かせを受講する学生のほとんどは読み聞かせの初心者であり、子どもの相手をするのに慣れていないわけでもない。絵本をよく味わい、読み聞かせの練習を重ねて実践に臨み、そこから課題を見つけて次の実践に備える。その繰り返しの中で学生は厳しい評価を受けることもあるが、子どもたちの喜ぶ姿に出会い、最後には多くの学生が「読み聞かせをやったよかった」と口をそろえる。幼稚園や小学校からの評価も良好である。

平成20年度には、正規の授業とは別に、読み聞かせのボランティア活動が2つ加わった。このうち、島根県立美術館のエリック・カール展での読み聞かせボランティアは、5日間にわたって21回のセッションを行い、来場者は1500名にのぼった。幅広い世代の人々を前に、最初は戸惑っていた学生たちも、反応やアンケートを参考にしながら読み聞かせや合間の遊びに工夫を加え、次第に自信をもって前に立つことができるようになり、学生にとって貴重な経験の場となった。

なお、これまでの総合文化学科での読み聞かせ活動については、報告書等にまとめて公表し、情報の提供と取組の改善に努めている。

健康栄養学科、保育学科からのニーズ

健康栄養学科で養成する栄養士の重要な能力の1つとして、栄養の教育・指導を適切に行う能力がある。これには栄養の知識に加えて、対象者に応じたコミュニケーション力、プレゼンテーション力などが求められる。特にこの分野は、平成17年の食育基本法の制定に基づく食育指導などで、今日重要性が一層増しており、「紙芝居」「食育カルタ」「ミニ劇場」などを利用した、子ども（幼稚園児や小学生）対象の食育プログラムの開発・実践を授業に取り入れているが、カリキュラム上の時間的制約もあり、十分な学習成果を得るに至っていない。総合文化学科で取組む読み聞かせの実践は、「人間力」の育成を、子どもから大人までとの直接の関わりの中で図るものであり、食育で実践活用できる能力の習得の場として、また人を相手にする栄養士に必要な「豊かな人間性」「人との交流力」を育む場として大いに期待できる。

保育学科における絵本の読み聞かせは、保育士・幼稚園教諭・児童厚生員など専門職養成の中で学習

する内容であり、就職後も必要不可欠な保育スキルである。しかし、専門必修科目で占められる現在の保育学科カリキュラムにおいて、読み聞かせについて十分な学びができていないと断言するのは言い難い。総合文化学科の取組は、読み聞かせを通して「知識」「技能」「実践力」を総合的に身につけ「人間力」を育成しようとするもので、保育学科が目標とする「高度で多岐にわたる専門的知識と技術を持つ人材養成」「人と接触する技術を併せ持つ保育人材養成」と合致する。保育を学ぶ学生ばかりでなく、他学科の学生と共に地域を巻き込んだキャンパスを挙げての取り組みも魅力的で、乳幼児、児童、父母、保護者と関わる中で「人間力」を養う「総合的な学習」は高い学習効果が期待できる。

市や近隣の教育機関との連携協定

松江キャンパスは、松江市との包括協定（平成19年10月締結）、キャンパス近隣の幼稚園、小学校、中学校、高校との教育連携協定（平成19年3月締結）に基づいて、読み聞かせをはじめ出前授業やあいさつ運動など、様々な事業を協力して展開している。本申請では学生の学外活動を事業の一つに掲げているが、その際にもこれらの連携協定が後押しとなって、事業の運営を高い確度で見込むことが可能である。

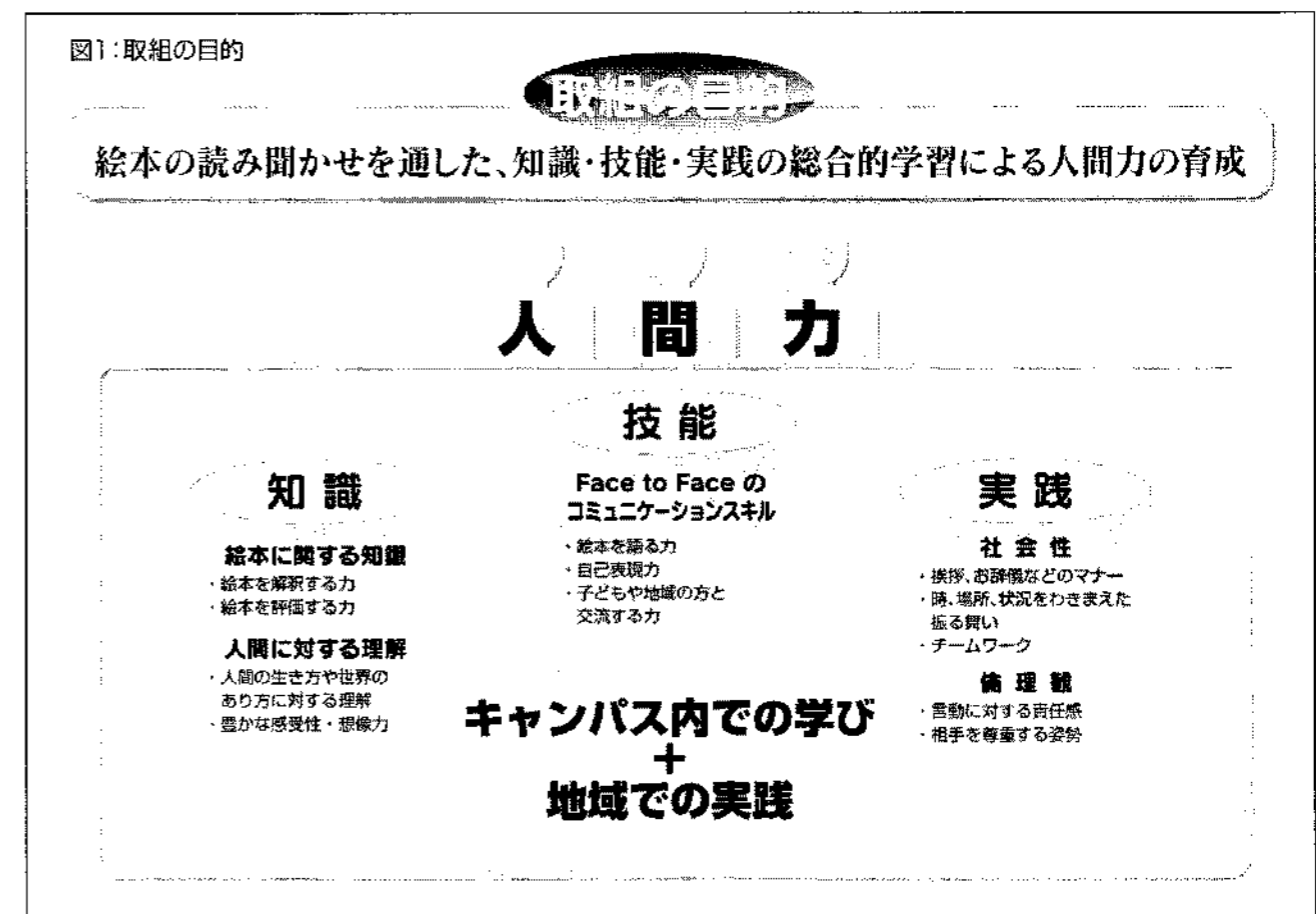
②取組の具体的な目的

知識・技能・実践の総合的学習による人間力の育成（図1参照）

本取組では、読み聞かせを通して、絵本や人間に関する「知識」、コミュニケーションに関する「技能」、地域における「実践」を総合的に学習することによって、総合的な生きる力としての「人間力」を育成する。

この目的は、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」に示された「学士力」の四項目に準じるものである。該当する内容は、「知識・理解」の〈文化に関する知識〉、「汎用的技能」の〈コミュニケーションスキル〉、「態度・志向性」の〈チームワーク、倫理観、社会的責任〉、「総合的な学習経

図1:取組の目的



験と創造的思考力」の〈知識・技能・態度の総合的活用〉である。

③取組による達成目標

本取組による達成目標は、以下の(i)～(iii)の3点である。

(i)絵本や人間に関する知識と理解の育成

絵本について、内容をよく理解するための解釈力、読み聞かせの選書の際に必要とされる評価力を培う。と同時に、絵本に描かれた世界を吟味することを通して、人間の生き方や世界のあり方について理解を深めるとともに、豊かな感受性や想像力を養う。

(ii)Face to Faceのコミュニケーションスキルの育成

読み聞かせの際に必要な絵本を語る力(声の出し方・間の取り方・絵本の見せ方・絵本の持ち方・姿勢)、読み聞かせや合間の指遊びや歌などを人前で演じることによって身につく自己表現力、読み聞かせの活動を通じた子どもや地域の方と円滑に交流する力、これらを総合して、Face to Faceのコミュニケーションスキルを育成する。

(iii)実践を通じた社会性・倫理観の育成

地域での実践を通して挨拶・お辞儀などの基本的マナーや時・場所・状況をわきまえた振る舞い方を身につけると共に、グループによる読み聞かせを行うことを通じてチームワーク及びリーダーシップの力(信頼関係を築く親和力、目標に向けてチームの中で協調すると同時に、役割・責任を果たす協働力、組織全体を把握する統率力など)を培う。また、地域での交流の際には自分の言動に責任を持ち、自分の話に耳を傾けてくれる方々への敬意を忘れず、一市民として必要とされる社会性・倫理観を育成する。

2. 取組の具体的内容・実施体制等

取組の具体的内容 (図2参照)

既に総合文化学科で実施している科目「読み聞かせの実践」をベースに、3学科共通科目に発展させ、全学あがりの取組とすることをはじめ、以下の①～④の4つの事業によって、知識・技能・実践の能力をより深め、「人間力」を育成する。

取組事業の総称は、学生や地域の方に親しみやすく、かつ取組をわかりやすく表現するために、総合文化学科で使用してきた名称「おはなしレストラン」とする。絵本の語り手である学生を「シェフ」として、心の栄養となる「料理」(おはなし)を提供する。

①おはなしレストランのシェフ養成の拡充…キャンパス共通科目化、集中講義の開催

平成18年度より総合文化学科で行ってきた科目「読み聞かせの実践」を、健康栄養学科、保育学科を含めた松江キャンパス全体の共通科目とする。担当教員を現行の総合文化学科2名から3学科4名に増員するとともに、開講期間を半期から1年に延ばし、幼保園・小学校において年間を通して実践を行う。また、集中講義を開催し、国内外から絵本に係わる作家、画家、研究者、読み聞かせの実践者などの講師を招致し、読み聞かせ及び絵本に関する生の情報に触れ学ぶことで、知識や技能をより深める。

②おはなしレストランの出前シェフ…各種催事において読み聞かせライブ

学外(地域)に出かけて読み聞かせを行う「出前シェフ」を設ける。松江市内で子育て中の家庭を対象に毎月1回、松江市の中心市街地で実施されている催し「こっころサンデー」において読み聞かせライブを行う。平成20年度のエリック・カール展で読み聞かせ活動を行ったように、地域の要請に応じて「出前シェフ」を行う。絵本ワゴン車を導入することによって、より広域において、幅広い年代・環境の人々との交流を図る。

③おはなしレストランのメニューの充実…絵本のデータベース化、レビュー作成

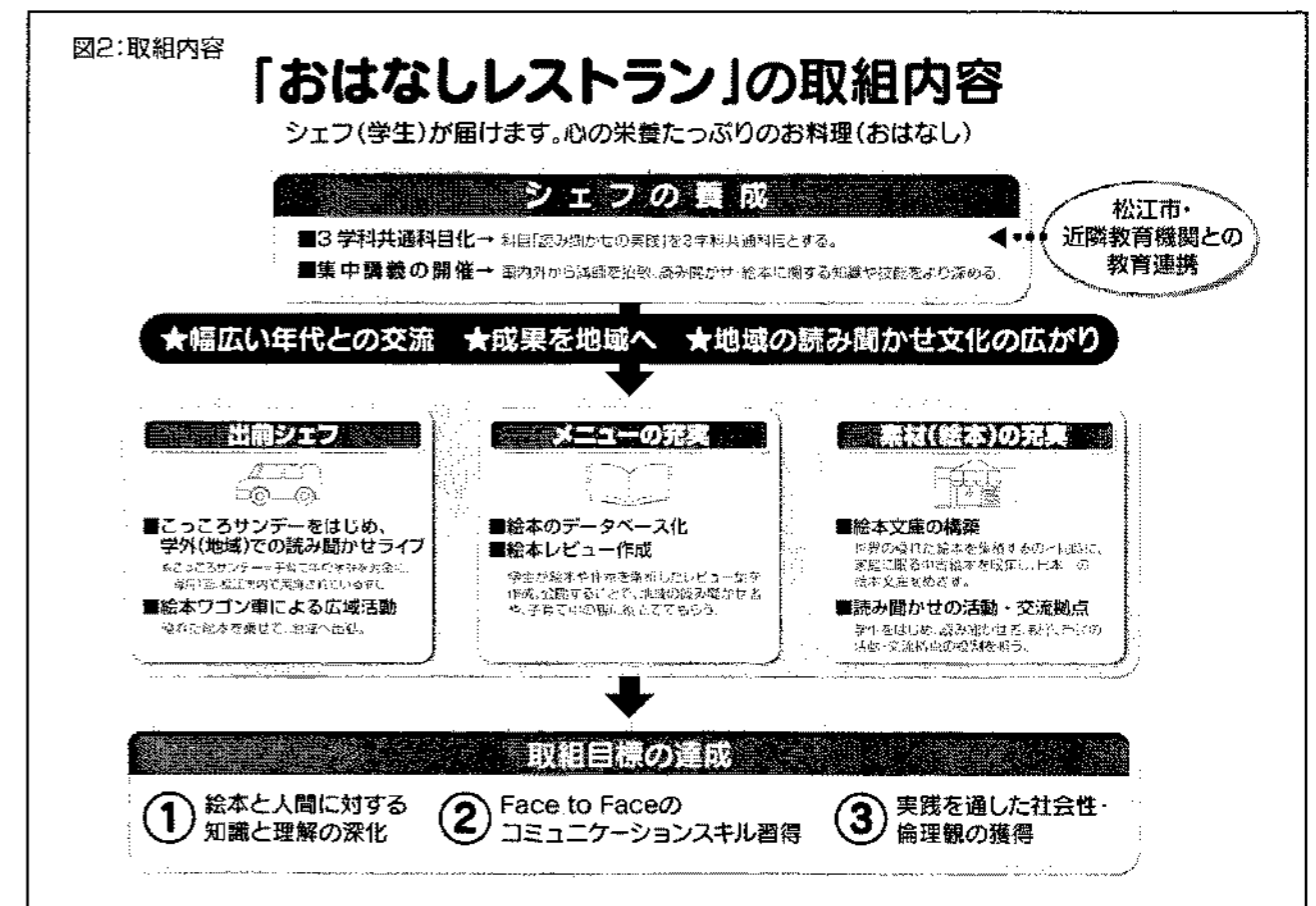
おはなしレストランでは、読み聞かせのほかに絵本のデータベース化を行い、本学のホームページに掲載して、絵本の情報を学生並びに一般の方々に公開・提供する。データ作成には学生が参加し、絵本の基礎情報のほか、作品の特色や読み聞かせのポイントなども加える。また、学生が絵本や作家について考察したレビューを作成・配布し、地域の読み聞かせ者や子育て中の親に役立ててもらうことで、読み聞かせ文化の発展と、読み聞かせを通じた大学と地域との交流を促進する。

④おはなしレストランの素材の充実…絵本文庫の設置

読み聞かせ活動の拡充に伴い、その素材、すなわち活動資源である絵本の充実を図るために絵本文庫を設置する。場所は本学体育館の一室を使用し、絵本を中心に児童図書約1万冊の収容を見込む。「読書スペース」のほか、「交流スペース」を設け、読み聞かせなどの活動に対応する。世界の優れた絵本を集積するために、各家庭に眠る中古の絵本の収集に努め、大学と地域が共同して創る日本一の絵本文庫をめざす。

以上、おはなしレストランでは、学内での学びに加え学外の諸機関・諸地域で子どもから大人までを対象とした実践活動を行い、「幅広い学びの保証」を実現する。また、「おはなしレストラン10ヶ条」を設定し、「知識」「技能」「実践」の3領域におけるチェック項目を明示する。さらに、「作品解釈」「実践プラン」「実践記録」の3種類のノートを用意し、計画を立てて実践に臨み、活動の記録をまとめる中で課題を見出し、次の実践に活かしていく学びのサイクルの中で「課題探求能力」を培う。また、教員が学生を評価するだけでなく、先に述べたノートの中で、学生は自身で取組を評価し、学内における模擬実践では、他の学生からアドバイスを受ける。さらに地域に出れば、実践先の先生からの評価用紙、一般の方からのアンケートをいただく。以上のように、おはなしレストランでは「多面的な評価」のシステムを設ける。

図2:取組内容



学士力の確保や教育力向上に向けた方策について

おはなしレストランの取組で何をどのように学ぶかを学生に明示するとともに、そのために必要な学内での学びと学外での実践の時間を十分に確保する。また、担当教員によって取組について点検を行うとともに、FD委員会と協力して取組の改善を図る。

取組の実施体制

松江キャンパスは、以上の取組の実現に向けて、副学長を先頭に3学科、事務局が一体となって取り組む。地域活動について、学内の地域連携推進センター及び学外の関係機関とも連携を密にする。また、絵本のデータベース化、絵本文庫の整備、地域連携に関わる人員を2名雇用し、実施体制を整える。

3. 取組の評価体制・評価方法 (図3参照)

①評価体制

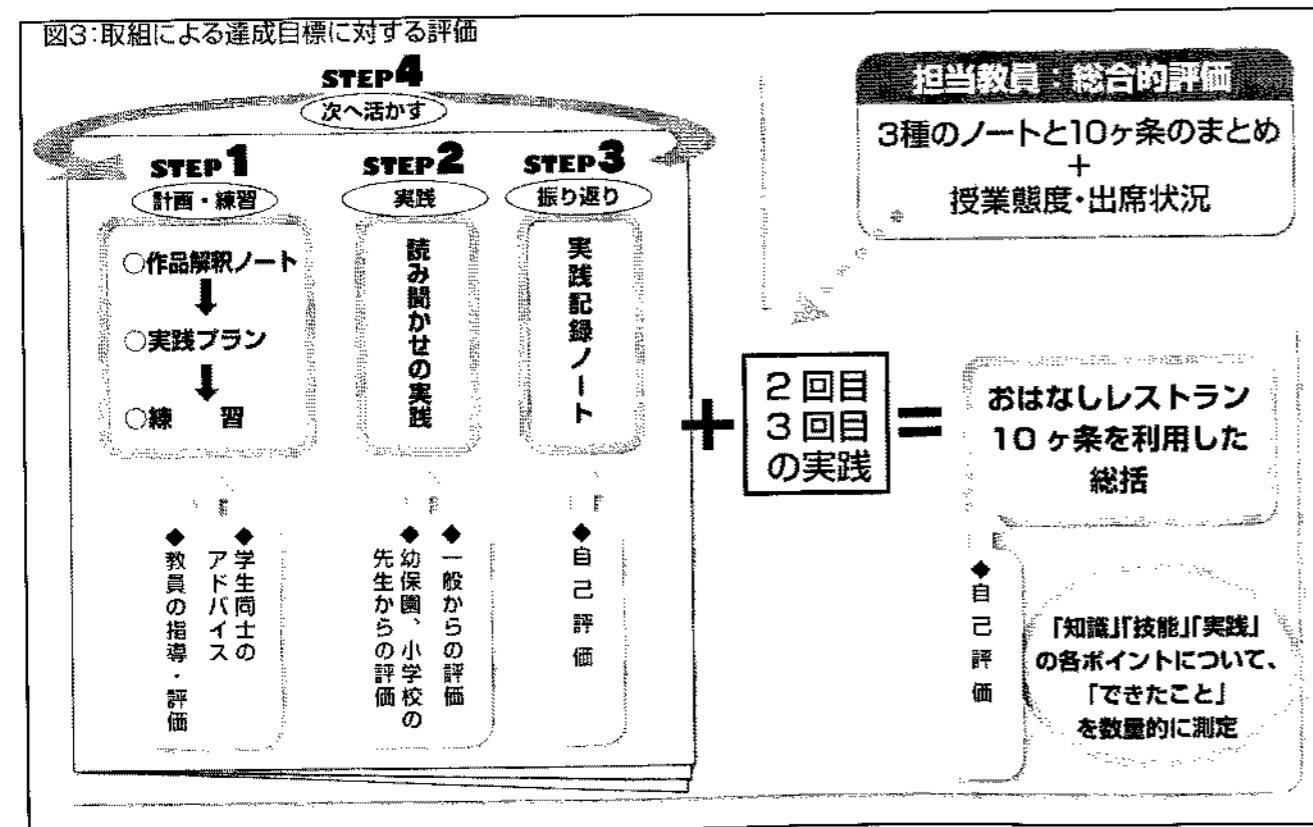
取組による達成目標に対する評価体制

学生の「知識」「技能」「実践」の評価については、教員、学生本人、学生同士、実践先の先生や聞き手によって「多面的な評価」を行う。

なお、「読み聞かせの実践」や「出前シェフ」、絵本のデータベース化や絵本文庫の整備など、取組全般に関する評価については、松江キャンパスの共通教育課題である「人間力の育成」について全学で具体的に検討・評価する組織「人間力養成検討会議」(副学長、教務学生部長、学科長、FD委員長)が行う。

財政支援期間終了時における評価体制等について

「人間力養成検討会議」に加えて、「おはなしレストラン外部評価委員会」(松江市子育て支援センター所長、しまね子ども読書等推進の会松江支部長、島根県立図書館子ども図書室担当司書、子育てのNPO法人代表など)が行い、取組の履行状況と成果、経費の執行状況等について評価する。



②評価方法

取組による達成目標に対する評価方法・指標や成果の測定

学生の「知識」「技能」「実践」について、教員から見た実践に取り組む態度や出席状況、学生本人による「作品解釈」「実践プラン」「実践記録」の3種のノート、学生同士による「アドバイス用紙」、実践先の先生からの「評価用紙」、一般の方からの「アンケート」を総合して「多面的な評価」を行う。

なお、「アドバイス用紙」「評価用紙」「アンケート」の3評価については、学生本人が受け取って実践に活かす。

教員が最終的な評価をする際に指標とするのは、「作品解釈」「実践プラン」「実践記録」の3種のノート、及び「知識」「技能」「実践」の要点で構成した「おはなしレストラン10ヶ条」の達成事項である。特に、「おはなしレストラン10ヶ条」については、取組で「何ができたか」を各項目に従って各自が具体的に記入することにより、数量的な成果の測定ができるように工夫している。

当該評価を取組へ反映させる方法について

取組に対する評価は、「人間力養成検討会議」が吸収し、適宜FD委員会、地域連携推進センター等と連絡・協議し、本取組「おはなしレストラン」の改善に活用する。

4. 取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

平成21年度は、主に準備期間とし、全学によって体制の準備を行うと共に、出前シェフを開始。絵本文庫に必要な絵本の整備、絵本データベースの整備を行う。次年度事業に必要な情報・物資収集、素地作りを積極的に行う。

平成22年度は、3学科共通科目を開講する。また、絵本文庫を開設し、出前シェフを拡大する。

平成23年度は、集中講義を開講する。絵本文庫、出前シェフなどの事業を充実するとともに、次年度以降の継続に向けた体制づくりを行う。

年次毎の事業計画は次ページのとおりである。

5. 財政支援期間終了後の大学等における取組の展開の予定

3年間の事業内容及び評価等を取りまとめる取組報告書を作成し、財政支援期間終了後の取組の指針としながら、絵本文庫・絵本データベースの管理・運用、出前シェフを継続する。松江キャンパス3学科による読み聞かせ教育の展開、読み聞かせ者、子どもを持つ親等広く県民に向けた公開講座の実施を予定する。

取組の各年次の事業計画

平成21年度	平成22年度	平成23年度
<p>① 絵本文庫の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●絵本の選定、購入、整理作業 ●採集に係る絵本の収集、整理作業 ●絵本開設の支援 	<p>① 3 学科共通科目開講</p>	<p>① 3 学科共通科目の維持</p>
<p>② 絵本データベース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入力フォーム、表示フォーム等システム構築 ●データ入力開始 	<p>② 絵本文庫開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ●絵本の選定、購入、整理作業 ●採集に係る絵本の収集、整理作業 ●絵本開設の支援 	<p>② 集中講義の開講</p>
<p>③ 出前シェフ開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ●絵本ワゴン車の始動 ●出前シェフの小道具等整備 	<p>③ 出前シェフ開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ●絵本ワゴン車の始動 ●出前シェフの小道具等整備 	<p>③ 絵本文庫の充実・一般開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ●絵本の選定、購入、整理作業
<p>④ レビュー作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●印刷、製本、配布 	<p>④ 出前シェフの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●このころアンケートにて「おはなしレストラン開講」 	<p>④ 絵本データベース化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●データ入力
<p>⑤ 運用の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会議 絵本文庫の活用方法について検討する。 ●広報 (5らし・パンフレット・各種メディア等) 	<p>⑤ 運用の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会議及び学生との打ち合わせ ●広報 (5らし・パンフレット・各種メディア等) 	<p>⑤ 出前シェフの充実</p>
<p>⑥ 備品等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書籍、ワゴン車、パソコン、コピー機等 	<p>⑥ 備品等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書籍、大型機、プロジェクター等 	<p>⑥ 運用の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会議及び学生との打ち合わせ ●次年度以降へ向けた体制の整備等 ●広報 (5らし・パンフレット・各種メディア)
<p>⑦ 3 学科共通科目開講準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラム開講 ●評価手法整備 	<p>⑦ 集中講義開講準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●集中講義内容検討 ●講師依頼 	<p>⑦ 備品等整備</p>
<p>⑧ 司書の雇用</p>	<p>⑧ 司書の雇用</p>	<p>⑧ 取組報告書作成</p>
		<p>⑨ 司書の雇用</p>

第2章

おはなしシェフの養成

第2章 おはなしシェフの養成

第1節 1年全学共通科目「読み聞かせの実践」

1. 授業の概要

1) 全学共通科目化

平成18年度より総合文化学科の専門科目として行なってきた「読み聞かせの実践」を、平成22年度より健康栄養、保育の2学科の学生も受講できるように、3学科共通基礎科目とするカリキュラム変更を行った。週4時間・2単位の選択科目として、前・後期にそれぞれ「読み聞かせの実践A」「読み聞かせの実践B」を配置し、読み聞かせをキャンパス全体の取組とする体制を整えた。



2) 受講者と授業担当者

平成22年度、平成23年度における「読み聞かせの実践」受講者数は、以下のとおりである。

	前期 「読み聞かせの実践A」	後期 「読み聞かせの実践B」
平成22年度	36名(保育学科27、総合文化学科9)	22名(総合文化学科のみ)
平成23年度	47名(保育学科のみ)	47名(総合文化学科のみ)

健康栄養学科に関しては、カリキュラムが過密であるため「読み聞かせの実践」の時間に専門の必修科目が重なっており、学生は必然的に読み聞かせの授業を履修できなかった。

授業を担当したのは、前期・後期を通して、本学総合文化学科教員2名(岩田英作、マユアキ)、学外からの非常勤講師1名(岡本千佳子)、授業アシスタントとしておはなしレストラン・ライブラリーの司書2名(尾崎智子、内田絢子)、の計5名である。

3) 実践先と活動形態

読み聞かせの実践先は、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校の2箇所である。幼保園のぎ(平成23年11月現在の園児数206名)は平成18年度から、乃木小学校(平成23年5月現在の生徒数1003名)は平成19年度から、それぞれ学生の実践の場として協力をいただいている。

幼保園のぎでは、学生は2人1組になって、0歳児から2歳児までをまとめた1クラス、3歳児1クラス、4歳児3クラス、5歳児3クラスの計8クラス、全園児を対象に、毎回8グループが出かけて実践を行った。

乃木小学校では、学生1人が1クラスを担当し、毎回20名が出かけて20クラスで実践をし、ほぼ4つの学年に渡って読み聞かせを展開した。

各半期に行う実践の回数は、幼保園のぎ、乃木小学校のいずれも8～9回で、学生1人当たり3～4回の実践をそれぞれの実践先で行ったことになる。

1年生授業の概要

科目	受講者	スタッフ	実践先	日時
1年共通基礎科目 「読み聞かせの実践A」 「読み聞かせの実践B」	各 40～50 名程度	教員 3名 アシスタント 2名	松江市立 幼稚園のぎ	5月～7月、11月～1月の毎 週月曜日 10：30～11：30 半期の実践回数： 8～9回（3～4回/学生）
			松江市立 乃木小学校	5月～7月、11月～1月の毎 週水曜日 8：20～8：30 半期の実践回数： 8～9回（3～4回/学生）

2. 学びを支える3つの柱

G P 取組における教育目標を踏まえ、シラバスには次の3つを授業の目標として掲げ、学生に周知している。

1. 絵本とじっくり向き合い、絵本の解釈を読み聞かせに生かしながら、豊かに表現する力を養います。
2. 学外での活動で子どもをはじめ様々な人と関わることを通して、一人の市民として立ち振る舞う自覚をもち、社会性とコミュニケーション能力の向上を図ります。
3. 地域の子どもたちに豊かな感性と想像力を養う文化環境の場を提供します。

学生が読み聞かせの活動を通し課題の発見と解決を繰り返しながら学びを深め、上記の目標を達成するための方法として「おはなしレストラン10ヶ条」「3種のノート」「多面的評価」を3本の柱に据え、授業を行なっている。

1) おはなしレストラン10ヶ条

「おはなしレストラン10ヶ条」は、前述の抽象的な授業目標をもっと具体的に、行動や心得のアドバイスとしてわかりやすく表現し直したものである。平成22年度からスタッフに加わった読み聞かせ経験豊富な非常勤講師のおかげで、「6. 絵本の持ち方」、「7. 絵本の読み方」に関わるアドバイスは、以前のものよりきめの細かい、行き届いたものになった。

「おはなしレストラン10ヶ条」は、初回授業のオリエンテーションでシラバスとともに学生に配布して説明し、この授業がめざしている読み聞かせの活動への理解を深めてもらう。また、全ての実践が終わり授業のまとめをする段階を迎えると、学生はこの10ヶ条の各項目について自分を振り返り、達成度を◎、○、△のいずれかで自己評価し、コメントをつけて実践の総括を行う。



おはなしレストラン10ヶ条

1. 絵本よ、きょうもありがとう

- 絵本を大切に扱う
- 借りた絵本の返却をしっかりとする（絵本はみんなの大切な活動資源）

2. 絵から文へ、文から絵へ

- 文章を読む前に、まず絵を読み解く
- 文章と絵との結びつきについて考えてみる

3. 自分の心で、子どもの心で

- 自分の心に響いてくるところ、子どもの心に響きそうなところはどこか、じっくり考える
- 子どもに伝えたいことを自分の中で明確にしておく

4. 聞き手にあった本選び

- 子どもたちの心身の発達段階を頭に置いて、絵本を選ぶ

5. 季節にあった本選び

- 絵本で描かれる季節感を大事にし、読む時と大きくズレないようにする
- 年中行事を題材にした絵本は、時期を見計らって効果的に取り入れる

6. 絵本の持ち方、たいせつに

- 開きぐせをしっかりとつける
- 子どもたちから見やすい位置か確認する
- 横書きの本は右手、縦書きの本は左手で保持する
- 絵本がふらつかないように脇をしめ、掌に本を乗せ、指でしっかりと保持する
- 画面を動かさない、手や体で絵を隠さない

7. 絵本の読み方、たいせつに

- はじまりをきちんと…表紙をしっかりと見せ、題名、作家名、画家名を読む

- 絵本が持つ雰囲気をしっかり押さえて、読み方を工夫する
- 明瞭に聞き取れる声の大きさに、気持ちをしっかり乗せて読む
- 文と文の、ページとページのあいだの間の取り方に十分配慮する
- 子どもたちの反応を見ながら読む
- 自分ひとりで読む時よりもゆっくりめに
- 会話文や形容の部分を必要以上に演じない
- 伝えたい、強調したい言葉は、大げさにならない程度に半呼吸おいたり、ゆっくりめに読むと伝わりやすい（言葉を立てる）
- おわりをきちんと…「おしまい」「〇〇でした」
- 感想は言わない、尋ねない

8. チームワークも味のうち

- 絵本の選定やつなぎについては、お互いの意見や考えを率直に出し合ってよく話し合う
- 組み合わせる2冊の絵本の長短、内容の軽重、明暗などのコントラストに配慮する
- つなぎの歌や手遊びは、ペアの二人の息が合うまでしっかりと練習する

9. あいさつ身なりも味のうち

- 実践先でのあいさつは、出会う人みんなに、元気よく、大きな声で、はっきりとする
- 実践先での服装・髪型は、TPO（時・場所・場合）にふさわしいかどうか常に注意を払う

10. みなさん、きょうもありがとう

- 聞き手の子どもたち、実践の場を提供していただいた先生方への感謝の気持ちを自分の言葉で表現する

2) 3種のノート

3種のノートは、「作品解釈ノート」「実践プランノート」「実践記録ノート」からなる。

「作品解釈ノート」： 実践先で読む絵本について①書誌情報とあらすじ、②自分が好きなおとこ、子どもに伝えたいところ、③読み聞かせの際に工夫・注意する点についてまとめるものである。子どもたちに読む前に、まずは自分自身が絵本としっかり向き合っ読みを深め、解釈を生かした読みへの意識を高めてもらうねらいがある。授業で、学生やスタッフを前に模擬実践を行うが、このノートをもとにスタッフが読み方についてアドバイスを行っている。



「実践プランノート」： 幼保園のぎでの実践のために利用するノートである。幼保園では、学生2名のグループが、2冊の絵本の読み聞かせと、その間につなぎとして歌、手遊び、クイズなどを入れた構成を基本に、約30分の実践を行う。「実践プランノート」は、その30分の実践の流れと時間配分をあらかじめ計画しておくために利用する。

「実践記録ノート」： 実践後の振り返りのためのノートで、①読んだ絵本の書誌情報、②読み聞かせについて（作品解釈を生かした読みになっていたか、子どもたちの様子を見ながら読むことができたか、子どもたちの反応はどうだったか）、③挨拶、マナーについて、④感想と次回に向けた課題の4点について記入する。幼保園のぎは、これに加えてつなぎや全体のまとまりについての振り返りもする。学生は実践後にこのノートを提出し、スタッフがコメントをつけて返却し、学生は次回の実践に役立てていく。

以上のように、これらのノートは、学生が計画・練習を経て本番の実践に臨み、実践後は振り返って課題を見つけ次の実践へと活かす、という一連のプロセスを繰り返し、学びの正の連鎖を生み出す仕掛けとなっている。

3) 多面的評価

上で述べたように、学生は1回の実践を終える度に実践記録ノートで、最後の授業のまとめの段階では「おはなしレストラン10ヶ条」で、それぞれ自分を振り返り、自己評価をする。しかし、自己評価だけでは自己満足で終わってしまう危険性があるし、何より自分の取組に対し、良きにつけ悪きにつけ他者から何らかの明示的な反応が返ってこなければ、学生は手応えを感じにくい。そこで、計画・練習、実践、振り返りの各段階に、仲間の学生、スタッフ、実践先の先生というさまざまな視点からの他者評価も組み込んでいる。

「アドバイス用紙」： 授業で行う模擬実践としての読みの練習段階で、学生同士がお互いの読みについて、よかった点と改善すべき点の両方にコメントを書き、その場で本人に渡す。

「実践記録ノート」： 「教員より」の欄に、学生の自己評価を踏まえて、スタッフが評価コメントを記入して後日返却する。

「先生からのひとこと～ふりかえりのために～」： 実践先の先生が「読み聞かせについて」「子どもに向きあう姿勢・態度・マナーについて」の2点について、◎、○、△のいずれかで評価し、それにコメントを付けるようになっている。後日、スタッフが目を通してから、実践した学生本人に返却する。



以上のようなさまざまな視点からの評価は、読み聞かせの実践の場で直接感じ取る聴き手の子どもの反応とともに、学生の学びを側面から支え、促す役割を果たしている。



読み聞かせの実践

作品解釈ノート

氏名		対象	歳・年
書名:			
文:			
絵:			
出版者:			
私物・借本:			
あらすじ			
1. この作品で好きなところ、子どもに伝えたいところ			
2. 読み聞かせをする際に、工夫したり注意したりする点			

読み聞かせの実践 実践プラン（幼保園のぎ）

班名：
班員：
実践予定日： 月 日

時間	内容	留意点
5分		
10分		
15分		
20分		
25分		
30分		
35分		
40分		

読み聞かせの実践

実践記録ノート（幼保園のぎ）

班名		氏名	
チームメイト			
訪問日	月 日	訪問したクラス	組（歳）
1. 自分が読み聞かせをした絵本書名： 文： 絵： 出版社：	チームメイトの読んだ絵本名 . .		
2. 読み聞かせについて 1) 作品解釈を生かした読みになっていたか。 2) 子どもたちの様子を見ながらの読みになっていたか。 3) 子どもたちの反応はどうだったか。			
3. つなぎや全体のまとまりについて			
4. あいさつ、マナー、など			
5. 実践を終えての感想・反省・次回の課題(具体的に、率直に)			
6. 教員より			

読み聞かせの実践 in 幼保園のぎ

先生からひとこと～ふりかえりのために～

●実践月日 月 日 ●クラス 歳 組

●班名 / ●氏名 /

●絵本のタイトル /

1. 読み聞かせ・つなぎについて ◎ ○ △
コメントがあればお願いします。

2. 子どもに向かう姿勢・態度・マナーについて ◎ ○ △
コメントがあればお願いします。

※そのほかお気づきの点があれば、よろしくお願いします。

3. 学生の授業に対する評価・感想

読み聞かせの実践の授業について、受講した学生たちはどのように評価しているだろうか。本学で行っている授業評価アンケートの結果を示し、続いて授業のまとめの1つとして学生が書いた「実践を終えて」の感想文をGP取組の3つの達成目標に沿って抜粋し、コメントを加える。

1) 授業評価アンケートの結果

1年共通基礎科目「読み聞かせの実践」について、平成22年度前期・後期、23年度前期のアンケート結果は次の通りである。なお、平成23年度の後期については、本報告書をまとめる時点で集計が間に合わなかったため掲載していない。

	「読み聞かせの実践」の総合評価の結果	総合評価の最高値を1.00とした場合	
		本科目	全科目平均
22年度前期	回収数 37 / 受講者数 37 「非常に満足している」 33名 「満足している」 4名	1.00	0.66
22年度後期	回収数 21 / 受講者数 22 「非常に満足している」 19名 「満足している」・「普通」 各1名	0.95	0.70
23年度前期	回収数 44 / 受講者数 47 「非常に満足している」 39名 「満足している」 5名	1.00	0.66

2) 学生の感想「実践を終えて」から
絵本や人間に関する知識と理解の育成

- ◆実践を通して絵本ってすごい力をもっているなど感じました。感動させたり、笑わせたり、子どもたちにも、もっとたくさんの本に出会ってほしいと思いました。私も、この実践が終わっても、絵本にふれる機会をつくって、自分の知らない本に出会いたいです。(H.Y.)
- ◆子どもが成長していく中で、絵本は本当に大きな役割を果たしていることを自分の目で確かめることができました。(M.U.)
- ◆目がきらきらしているのはこういうことなんだと思えるくらい、子どもたちの目はいきいきしていました。子どものときに会う絵本はきっといろいろなものを与えてくれるものだと思います。本選びの大切さがよくわかりました。(A.M.)
- ◆最初の頃は「絶対おもしろくて、反応がある本を読みたい!」と考えていたけれど、今は「別に反応がなくても絵本の世界に入ってくればいいんだー!」と思えるようになりました。(A.N.)
- ◆自分が選んだ本を好きになって読みこむことで相手にも伝えやすくなり、読み方も変わって伝わりやすくなると思うので、まずは自ら絵本を好きになることが大切だと感じました。(A.I.)
- ◆自分が何か思いを持って選び読み進めると、子どもたちは真剣に聞き、何かを感じ取ってくれた表情をしてくれたので、やはり自分が子どもたちに伝えたいものをしっかり持って読み聞かせをすることが一番大切だと思った。(A.A.)
- ◆自分の心に響いたところを、どうすれば上手く子どもたちに伝えられるか、何度も読み返しました。伝えたいところを意識するだけでその読み聞かせは、何倍も素敵になると考えて頑張りました。楽しかったです。(K.H.)
- ◆読み聞かせで大事なものは、聞き手といっしょに楽しむことなのだと思います。(J.H.)



絵本は子どもの心に働きかける確かな力を持ち、その力は大人が子どもに読んでやることで発揮される。絵本と子どもを結び懸け橋となる上で何より大切なのは、自分自身が絵本とよい出会いすることだ。読み聞かせの実践は、1人ひとりのそんな絵本との出会いを子どもたちと共有し、ともに楽しむ場である。もちろんそのために、絵本の良さを伝えることができるまでの練習も欠かせない。上記の感想には、実践を重ねながら学生がこのような理解と認識に到達したことが自分の言葉で語られている。

Face to Face のコミュニケーションスキルの育成

- ◆最初は私は子どもが苦手、実践できるか不安しかありませんでした。本番でも子どもたちは本当に素直で、私たちの実践にこたえてくれて楽しんでくれました。それが毎回嬉しくて、私自身も気づいたら実践が楽しみになっていきました。(N.Y.)
- ◆実践をするたびに、子どもたちの純粋さ、素直さに触れて、全力でぶつかれば子どもたちは全力で返してくれるということに気づき、子どもたちへの苦手意識がなくなり、



おはなしレストランライブラリーに来る子どもとも積極的に話しかけることができるようになりました。(A.K.)

- ◆こちらが一生懸命やればしっかり応えてくれるということがわかり、それが二回目、三回目の実践時の自信につながりました。(H.M.)
- ◆絵本にしてもつなぎにしても、子どもたちは私たちが用意していったものを全て素直に受け入れてくれて、子どもたちのほうから全力で触れ合ってきてくれるので、そういうときは自分も素直に嬉しかったです。(Y.K.)
- ◆一番印象に残っているのは最後の実践です。自分が読んだ本にあんなに反応を返してもらったのは初めてで本当に嬉しかったし、プレゼントとして持っていった、折り紙のピョンピョンがえるも喜んでもらったのが心に残っています。2人で30個ものかえるを折ったことは忘れられません。(A.K.)
- ◆一回目の実践は、一人で教室に入って絵本を読むことに対して少し抵抗があり、正直不安しかありませんでした。しかし、実際やってみると真剣に聞いてくれる子どもたちを見てありがたいなあと思いました。また、「こんなに読み聞かせは楽しいんだ」と感動しました。乃木小学校の実践を通して、人前で何かすることが苦手だった私を少し成長させることができた気がします。(A.H.)
- ◆一人で実践することに不安がなくて、どうしようかと思いました。ここも二人でやればいいのにも思いました。しかし、次第に子どもたちに読む本を選ぶことが楽しくなってきた、次はこれ読もう、つぎはあれにしよう!とわくわくするようになりました。(Y.N.)
- ◆乃木小では、「絵本と自分自身」だけで勝負するので、幼稚園よりも、自分の伝えたいところや思いがダイレクトに伝わるなと思った。(A.N.)
- ◆高学年になると反応は薄いと聞いていたが、実際に読み聞かせに行くとそんなことはなく、しっかりとした反応があり、手ごたえも感じる事ができた。(E.I.)
- ◆静かに聞いてくれるのは、とても嬉しかったのですが、本当におもしろいと感じてくれているのかどうかとても不安になりました。後日担任の先生からいただく、評価表を見て「子どもたちも喜んでいました」と書かれていたときは、とても嬉しかったです。私たちの読み聞かせで子どもたちが自分から本を読みたいと思ってくれるといいなと思いました。(S.N.)
- ◆6年生での実践のとき、教室に入った瞬間、先生がいないのにきちんとそろってあいさつをしてきて、自分が6年生だったとき、こんなにきちんとしていただろうか、と驚きました。真剣に読んでいたら、向こうも真剣な様子で聞いてくれてとても嬉しかったです。(T.I.)



実践を見ていると、子どもたちほど学生に大きな影響力を持つものは他にないのではないか、と時々思う。子どもがもともと得意ではなく不安そうな表情を浮かべて実践をスタートさせる学生でも、素直に元気一杯で反応してくる幼稚園の子どもたちと触れ合うと、表情が生き生きしてくる。目がきらきらと輝いてくる。次の実践へ向かう意気込みも変わってくる。絵本と自分1人で「勝負」する乃木小学校では、当たり前だが、幼稚園の子どもたちのようなストレートな反応はあまりない。しかし、子どもが学生に力を与えることに変わりはない。子どもたちはじっと絵を見ながら静かに耳を傾け、学生が立ち上げるおはな

しの世界に入っていく。読み手の学生はその子どもたちの様子に感動し、読み聞かせが子どもたちの読書へとつながるようによいと、絵本選びにも力が入る。

- ◆最初ペアが決まった時はかなり不安でした。「本当にこの人とやっていけんだろうか……。」と。しかし、話を進めて行くに連れて面白い人だとわかり、スムーズに会話ができるようになった。(K.Y.)
- ◆パートナーの人と色々な意見や考えを出すことでお互いのことを知るきっかけになれたと思います。(A.H.)

幼稚園で実践するグループは、全く機械的にくじで決めている。学生が新しい友人関係を築く中でもに学び合っていて欲しいからである。二人の個性をうまく混ぜ合わせて行う実践は難しいこともあるが、実践がうまくいった時の達成感は大きい。



実践を通じた社会性・倫理観の育成

- ◆最初に読み聞かせに行った時には緊張して大変でしたが、子どもたちにとって私は立派な大人(?)なんだ!ということに気づき、あいさつや、マナーがしっかりしていなかったり、読み聞かせに対して真剣じゃなかったりしたらダメだ!と思い、挨拶も一生懸命考えて行きました。(A.S.)
- ◆先生方もいい方ばかりで、教室に入るときもあたたかく迎えてくださり、逆にこちらが感謝の言葉をいただいたりして、気持ちよく実践することができました。(S.S.)
- ◆小学校で読み聞かせをする私を見守ってくれた乃木小学校の先生方も、本当にやさしくしていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。あっという間に授業が終わってしまい、残念です。(A.S.)

子どもたちから見れば自分は大人であるという自覚も、読み聞かせを通しての学びが実践先の協力に支えられていることへの感謝の気持ちも、実践を重ねていくうちに本物になっていく。

その他

- ◆みんなからの感想用紙のおかげで、どのように読めば伝わりやすいのか、楽しいのかがわかったし、みんなの発表を見て、技をぬすむことができました。(T.I.)
- ◆台本通りに実践するのではなく、臨機応変に対応していくことの大切さを学ぶことが出来ました。模擬実践の評価表(*注 他の学生からのアドバイス用紙)や先生方からのアドバイスをもとに、よりよい実践にするため、工夫して取り組むことが出来ました。(R.H.)
- ◆実践が終わった後に、「実践記録ノート」を書くのが好きでした。実践をおこなった時の状況や感想を書くことで、良かった点も悪かった点も客観的に分析することができ、次の実践に役立てることが出来るからです。しかもあとから読み返すとその時のことが鮮明に思い出せるからです。(A.K.)

授業では、他の学生の模擬実践を見る場面が毎回ある。実践をより良いものにするための学生やスタッフからの意見を謙虚に受け止め、お互いの良いところはどんどん自分の中に取り込む、そんな学び合いの場になって欲しい。

たかが読み聞かせ、されど一

「読み聞かせの実践」非常勤講師
岡本千佳子

学生たちが実践を終えて帰ってきた時の表情が好きだ。満足そうな顔も、思い通りにいかず悔しそうな顔も。みんな次につながるいい表情をしている。「読み聞かせの実践」の非常勤講師を始めて2年になる。初めは、良い絵本とは、読み聞かせとは、それを学生たちに伝えていくには、と考えていたが、授業を続ける中で、本当に大切にしたいことが形になってきた。授業はいたってシンプルだ。ガイダンスや読み聞かせの基本の講義のあとは、学生たちの選書・実践前後の指導、その繰り返いだ。



ある日の実践にAさんが選んだのは、七夕の昔話。季節も対象年齢もぴったりのよい本だ。模擬実践を聴く。声の出し方、表現力、間の取り方もいい。しかし聞いていても違和感がぬぐえない。読み終えて彼女が聞いた。「長い……ですね。」手元のストップウォッチは9分と少し。実践時間の10分を考えると長くはない。しかし、長く感じた。「どうしてこの本を選んだの?」「七夕の季節だし、何冊か読んでこれがいいかなって……。」「あのね、あなたのすごく好きな本ってない?」「あるんですけど……。」彼女が出したのは死んだ祖父と孫の交流の話だ。いい本だが、小学校の朝の読み聞かせに死の本は歓迎されない。それにこの本では10分を超えるだろう。迷いながら一度読んでもらう。思わず引き込まれた。あっという間に感じたその読み聞かせは12分を超えていたが、彼女と話し、実践先での注意点を伝え、その本での実践とした。実践ではクラス中が一つになり、最後は深い感嘆の溜息で終わったという。「この本を読んでよかった。この本を読めてよかった。」彼女はそう言って、満足そうに笑った。

この授業をとる学生は、人前に出るのが苦手、という学生も多い。そんな彼らを実践先の子どもたちが助けてくれる。学生数人の前での模擬実践ですら涙ぐみ過呼吸をおこすBさんは、実践に不安を抱える一人だった。実践当日、教室まで付き添い「何かあったらすぐフォローするから。」と送り出した。消え入りそうな声で自己紹介をし、絵本『ながぐつをはいたねこ』を出した途端、子どもたちが歓声を上げた。「あ、それ知ってる。」「かしこい猫のはなしだよ。」「わー面白そう。」ガチガチになっていた彼女の肩がストンと落ちた。背筋がすっと伸びた。もう大丈夫。彼女は用意された椅子に座ると、繰り返した練習通りの声で本を読み始めた。

「読み聞かせの実践」は実践を通してしか学べないたくさんの方の協力のことで学ばせていただいている。私にできることはごくわずかだ。学生が心から読みたい本に出会い、実践に向け入念な準備をし、実践で学んだことを客観的に振り返る。それらを支えていくことが大切だと考える。

本を声に出して誰かに読む。これが読み聞かせだ。ただそれだけのことが、なぜこんなに楽しかったり、しんどかったり、わくわくするのだろうか。たかが読み聞かせ。されど一この先はそれぞれ違う。各々違うたくさんの方の「されど」の先を見つける手伝いに、私は今日もおはなしレストランライブラリーに向かう。

第2節 2年総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」

1年の「読み聞かせの実践」に引き続いて、総合文化学科では2年卒業プロジェクト（卒業研究）のゼミの一つ「おはなしゼミ」において、読み聞かせの活動を定期的に行っている。

総合文化学科2年のおはなしゼミの学生数は、平成22年度12名、23年度10名である。1年生の「読み聞かせの実践」の受講者の数に比べると、2年生で読み聞かせを行う学生の数は極めて限定的である。しかし、2年生のゼミで読み聞かせに取り組む10名ほどの学生のほとんどは1年時に「読み聞かせの実践」を履修した学生で、数の上では少ないものの、ある程度の読み聞かせの経験と強い意欲を持った学生たちの集まりである。

2年生のおはなしゼミの実践形態は大きく3つある。1つは松江市立忌部（いんべ）小学校での読み聞かせ、2つ目はおはなしレストランライブラリーでの読み聞かせ、3つ目は地域の要望に応じて行う「出前シェフ」である。このうち、定期的に活動しているものは前者の2つである。ここではおはなしゼミの定期的な活動について述べることにし、「出前シェフ」については次の章で触れることにする。

忌部小学校は1学年1クラス、各クラスの生徒数は約20名で、おはなしゼミの学生は毎回全学年で読み聞かせを実践している。

おはなしレストランライブラリーでは日曜日の午前に毎回学生2名が担当し、来館した親子連れを対象に実践している。

2年生の読み聞かせの授業の概要

科目	受講者	スタッフ	実践先	日時
総合文化学科 2年卒業プロジェクトおはなしゼミ	10名程度	教員1名	松江市立忌部小学校	4月～7月、10月～1月の 毎週金曜日8:30～8:40
			おはなしレストラン ライブラリー	4月～2月の毎週日曜日 11:00～11:30



忌部小学校



おはなしレストランライブラリー

平成23年度松江市立忌部小学校読み聞かせ担当一覧

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	4月22日	飯塚	上野	木村	敷	西坂	岩田
2	5月20日	内田	敷	藤田	西坂	岩田	木村
3	5月27日	倉下	原	岸本	マユ		
4	6月3日	田上	内田	岩田	西村	原	
5	6月10日	藤田	岩田	倉下	田上	敷	岸本
6	6月17日	マユ	西村	原	内田	上野	飯塚
7	6月24日	倉下	田上	敷	西坂	藤田	岩田
8	7月1日	原	木村	上野	飯塚	岩田	内田
9	7月8日	敷	藤田	西坂	倉下	田上	マユ
10	7月15日	上野	岸本	飯塚	岩田	西村	木村
11	10月21日	倉下	原	西坂	西村	田上	上野
12	10月28日	原	岸本	木村	藤田	敷	飯塚
13	11月4日	西坂	内田	マユ	倉下	上野	田上
14	11月11日	西村	上野	敷	飯塚	木村	岩田
15	11月25日	田上	藤田	内田	岸本	岩田	西坂
16	12月2日	上野	倉下	飯塚	岩田	藤田	西村
17	12月9日	木村	敷	岩田	田上	西坂	原
18	12月16日	藤田	マユ	岸本	内田	原	倉下
19	1月13日	敷	西坂	岩田	田上	飯塚	木村
20	1月20日	内田	西村	原	上野	岸本	マユ
21	1月27日	飯塚	上野	倉下	木村	田上	藤田

平成 23 年度おはなしレストランライブラリー「おはなしの時間」一覧

月日	担当	絵本・つなぎ	書名等	
1 4月23日	飯塚 敷	絵本	ひつじばん	
			たこしんごう	
	二人	つなぎ	だるまさんが	
			あれだけは苦手… だるまさんが	
	マユ	ブックトーク	ジャイアント・ジャムサンド	
			とっときのとっかえっこ	
尾崎 岩田	ブックトーク	あくたれラルフ		
		いやいやえん		
2 4月24日	原 上野	絵本	さかなってなにさ	
			おおきくなるっていうことは	
	二人	つなぎ	なにがでるかな？(魚・動物あてクイズ)	
			しあわせならてをたたこう	
	岩田 内田	ブックトーク	モリアオガエルのたんじょう	
			男の子とおおきなさかな	
3 5月1日	西坂 倉下	絵本	ぼくのはさみ	
			ぼく そらをさわってみたいんだ	
	二人	つなぎ	だるまさんが	
			なにがでるかな？(動物あてクイズ)	
	4 5月8日	西村 田上	絵本	でんしゃにのって
				いっほんみちをあるいていたら
二人		つなぎ	だるまさんが	
			とんとんとん(動物あてクイズなど)	
5 5月15日		木村 藤田	絵本	ほんやのいぬくん
				なにがほしいの、おうじさま？
	二人	つなぎ	やまのおんがくか	
			しあわせならてをたたこう	
	6 5月21日	飯塚 上野	絵本	なまえはなあに？
				せんたくかあちゃん
二人		つなぎ	だるまさんが	
			なにがでるかな？(動物あてクイズ)	
7 5月29日		原 敷	絵本	わたしのおべんとう
				くじらだ！(午前)
	二人	つなぎ	ありとすいか(午後)	
			だるまさんが	
	二人	つなぎ	あくしゅでこんにちば(午前)	
			おべんとうばこ(手遊び)	
あくしゅでさようなら(午前)				
だるまさんが(午後)				

月日	担当	絵本・つなぎ	書名等
8 6月5日	田上 敷	絵本	はらぺこあおむし
			おおきくおおきくおおきなあれ
	二人	つなぎ	ひげじいさん なにがでるかな(動物あてクイズ)
9 6月12日	倉下 西村	絵本	おしゃべりくれよん
			めっきらもつきらどおんどん
	二人	つなぎ	グーチョコキパーで何作ろう？(手遊び)
10 6月19日	原 西坂	絵本	わたしのワンピース(午前)
			ひみつのカレーライス(午後)
	二人	つなぎ	ありとすいか(午前)
			なにがほしいの、おうじさま？(午後)
	二人	つなぎ	はじまるよったらはじまるよ
			とんとんとん(午前)
11 6月26日	木村 上野	絵本	スイミー
			にじいろのさかな
	二人	つなぎ	なにがでるかな(魚あてクイズ)
12 7月3日	西村 飯塚	絵本	なつのいけ
			たなばたものがたり
	二人	つなぎ	たなばた
13 7月10日	倉下 田上	絵本	ケーキがやけたら、ね
			ゆうれいとなきむし
	二人	つなぎ	○△□でなにつくろう？
14 7月17日	藤田 上野	絵本	ぐりとぐらのかいすいよく
			なつのおきやくさま
	二人	つなぎ	星座あてクイズ
15 7月24日	敷 原	絵本	宇宙人のしゃしん
			ジローとぼく
	二人	つなぎ	えいさくくんの一日(洋服着せかえなど)
16 7月31日	西坂 木村	絵本	うみのカラオケ
			なつペンギン
	二人	つなぎ	絵しりとり
17 8月7日	尾崎 内田	絵本	コッケモーモー
			ごきげんのわるいコックさん
	尾崎	つなぎ	みつこととかげ
18 8月21日	岩田 敷	絵本	おなかすいた動物さん(好きな食べ物クイズ)
			おおきくおおきくおおきなあれ
	二人	つなぎ	おおきなかぶ さよならペンギン クイズ(暗幕から出てきた物を当てる)

	月日	担当	絵本・つなぎ	書名等
19	8月28日	西村	絵本	おたこまつり
		上野		なつのやくそく
		二人	つなぎ	なにがでるかな(夏のものクイズ) マルモリダンス
20	9月4日	藤田	絵本	にくまんどっち!?
		尾崎		おつきさまってどんなあじ?
		二人	つなぎ	おべんとうばこのうた おべんとうづくり
21	9月11日	内田	絵本	よーいどん!
		西坂		とんぼのうんどうかい びりのきもち
		二人	つなぎ	玉入れ
22	9月18日	飯塚	絵本	くまくんのトロッコ
		原		グリーンピースのいえ
		二人	つなぎ	えかきうた(『はっぱのなかのはっぱ』より)
23	9月25日	木村	絵本	いがぐり星人グリたろう
		倉下		わにわにのごちそう
		二人	つなぎ	おおきなくりのきのしたで なにがでるかな?(動物あてクイズ)
24	10月9日	内田	絵本	はしれ!カボチャ
		尾崎		だるまさんが くれよんさんのけんか
		二人	つなぎ	動物あてクイズ だるまさんが
25	10月23日	敷	絵本	きこえる!きこえる!
		藤田		トロトロローリ
		二人	つなぎ	なんのおと?
26	10月30日	原	絵本	つきよのおんがくかい
		木村		ハロウィンのランプ
		二人	つなぎ	やまのおんがくか おばけなんてないさ
27	11月6日	田上	絵本	よくばりぎつねのじろろっふ
		西坂		ふゆのおばけ
		二人	つなぎ	おべんとうばこのうた
28	11月13日	倉下	絵本	くっきーだあいすき
		原		となりのたぬき
		二人	つなぎ	たべものあてクイズ(なにができるかな) げんこつやまのたぬきさん
29	11月27日	西村	絵本	はっぱをつかまえて!
		上野		だるまさんが ひみつのカレーライス
		二人	つなぎ	カレーライスのうた(手遊び) だるまさんが

	月日	担当	絵本・つなぎ	書名等
30	12月4日	西村	絵本	りんごがひとつ
		原		ふゆのおばけ
		二人	つなぎ	えかきうた
31	12月11日	木村	絵本	てじな
		飯塚		どうぶつサーカスはじまるよ!
		二人	つなぎ	ふしぎなポケット
32	12月18日	上野	絵本	がいこつ
		藤田		みんなでぬくぬく はじめまして
		二人	つなぎ	はじめまして(自己紹介) クリスマスツリーの飾り付け
33	12月25日 おはなし クリスマス 会	原	絵本	まどからおくりもの
		西村		てぶくろ
		上野 田上	つなぎ	サンタさんのおてつだい(クイズ) 真っ赤なお鼻のトナカイさん
34	1月8日	ゼミ10人	劇	トンガとピングのプレゼント
		10人+岩田		おもちのきもち おおさむこさむ
		内田	絵本	足りないものなんだ?(目などを張り付けてもら う)
尾崎	みんなでたいそう			
35	1月15日	内田	絵本	十二支のお節料理
		尾崎		だるまさんと だるまさんが
		藤田	つなぎ	お節料理をつくろう!(クイズあり) だるまさんが
36	1月22日	敷	絵本	ねずみくんのチョコキ
		西坂		ごきげんのわるいコックさん
		飯塚	つなぎ	ありがとうへんてこライオン 絵本かるた
37	1月29日	三人	絵本	となりのたぬき
		上野		ぞうくんのさんぽ
		木村	絵本	きょうはこどもをたべてやる
38	2月5日	倉下	絵本	トトフ、じゅういになる
		田上		司会
		原	司会	

平成 23 年度おはなしゼミの学生の感想より

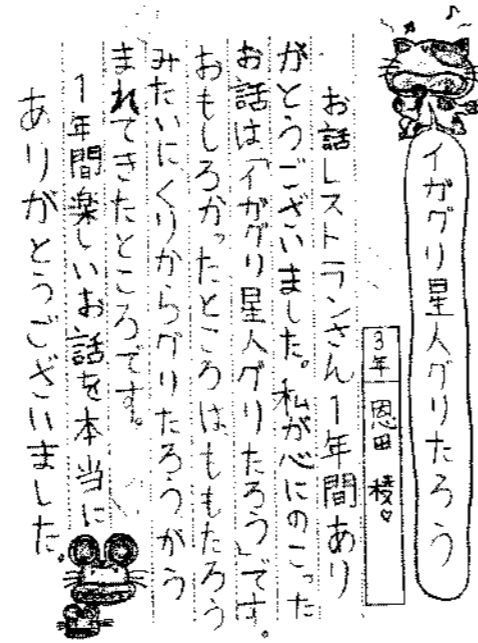
●ゼミが開始してからは、まさに怒涛と表現するのが相応しいくらいに忙しかったです。忌部での実践、おはなしレストランでの「おはなしのじかん」。日吉津から大田まで各地にわたって行った出前シェフ、そして谷川さんの来校！ 様々な思い出がありますが、ふと皆の姿を思い浮かべると、不思議と笑顔しか出てきません。それだけ充実していたのでしょう。(H.F.)

●おはなしゼミの活動を通して、まずたくさんの人との出会いがありました。いろんな場所で読み聞かせをしてきましたが、私は絵本に見入っている子どもたちの表情を見るのがとても好きです。今思うと、絵本を読むたびに私のほうが元気をもらっていたような気がします。おはなしレストランライブラリーでは、たくさん絵本との出会いがありました。読み聞かせでは、自分が心を込めて読める絵本をじっくり選びました。絵本を読んでいて涙が出そうになることもあれば、わくわくした気持ちになることや思わず笑ってしまうようなこともありました。そんな様々な気持ちを子どもたちと共有できたと感じる瞬間は最高でした。これからもずっと読み聞かせを続けていきたいと思いました。(C.I.)

●読み聞かせを通して1年間でたくさん出会いがありました。毎週の忌部小学校での読み聞かせと日曜日のおはなし会、遠くの図書館まで出向いてのおはなしの時間で、子供たちとのふれあいはもちろん自分よりも年上の方との関わりを持たせたことは、個人的に大きな成長につながったと思います。たくさんの人たちの前で読み聞かせをするなかで、最初は子供たちの反応が気になり、笑ってくれなかったときには読み聞かせがつまらなかったのかな、と不安になっていました。しかし、絵本や子供たちと深く付き合っていくこのゼミの活動で、絵本で笑ってもらうことだけが「楽しませる」ということではなくて、絵本を本当に楽しんでもらうこと、うまく言えませんがやっとな本質を理解して読み聞かせができるようになりました。(A.K.)

●小学校の朝の読み聞かせでは子どもたちが真剣になって見ていてくれました。私は物語の中の想いをくみ取ってくれたらなあと思いながら読むようにしているので一人ひとりの表情などを見ているとても楽しかったです。日曜日のおはなし会では自分たちで会の流れを工夫するのが大変でしたが楽しかったですし、子どもたちだけでなく親御さんも楽しんでくれたときはより嬉しかったです。(K.T.)

●毎週金曜日の忌部小学校での実践では、みんながとても真剣に聞いてくれているのを感じることができました。少人数だからこそ、全員に気を配ることができて、中身の濃い実践をできたと思います。早起きは大変だったし、遅刻したこともあったけど、頑張っただけで良かったです。そして、日曜日のおはなし会では、小さい子から小学生くらいの子まで幅広い年齢層での実践になりました。保護者の方もいて、毎回緊張していました。でも何度もおはなしレストランに来てくれている子と仲良くなれたり、



忌部小学校の子どもから届いた
お礼の手紙

楽しそうな笑顔をたくさん見ることができて、本当に幸せな時間になりました。つなぎの内容とか毎回毎回かぶらないように考えるのも苦労したし、人が集まるのか不安だったりもしましたが、それも良い思い出になりました。(N.K.)

●忌部小学校での活動は1年後期の読み聞かせの実践と大差なかったので気持ちを楽に、自分も楽しみながら読み聞かせをすることができました。日曜日のおはなし会も、用意していた絵本やつなぎでは満足いかない状況になってもペアの人と協力して取り組むことができました。おはなしゼミではまわりと協力しないとどうにもならないことが多々あり、この1年間で私が感じた、周りとの協力し達成する喜びと仲間の大切さ、充実感は今まで生きてきた中でトップクラスです。(M.N.)

●おはなしレストランでの「おはなしの時間」や忌部小学校での読み聞かせを軸にたくさんの所で読み聞かせの実践をさせて頂きました。回を重ねる度に臨機応変に対応することができるようになり、子どもたちと一緒に楽しむことが出来ました。おはなしゼミでは大変なことも多かったですがその分楽しいことも多かったです。色んな絵本にふれられたことや子どもたちの笑顔が沢山見れたこと、読み聞かせの準備、飲み会に長崎旅行、クリスマス会、毎週のゼミの時間、挙げていったらキリがないですが本当に笑顔の絶えない楽しいゼミでした！(M.N.)

●おはなしゼミでは、忌部小学校・おはなし会・出前シェフでの読み聞かせをメインに活動しました。忌部小学校は児童が少ない学校でした。私が通っていた学校も人数が少ない学校だったので、忌部小学校へ行くときは懐かしい気持ちでいっぱいでした。読み聞かせをしていると、みんなが真剣に聞いてくれて読んでいる本に対して反応してくれたのでうれしかったです。また、読み聞かせファイルにコメントを書くと、司書の水間さんから返事が返ってくるので、それを見ることも楽しみの一つでした。おはなし会は、誰が来るのか、どんな年齢層の子どもたちが来るのか、そもそも来てくれるのかなどが始まってみないとわからなかったのが、毎回ドキドキしながら11時になるのを待っていました。絵本選びや絵本の間をつなぎを考え、その準備をするのは大変でしたが、おはなし会に来てくれる子どもたちが喜んでくれたので大変なことも吹っ飛んでしまいました。子どもたちと触れ合っていると元気をもらえました。(N.S.)

第3節 集中講義…谷川俊太郎さんをお迎えして —谷川俊太郎さんと読もう、聴こう、そして語ろう、絵本と詩—

子どもたちに絵本の読み聞かせをする学生を、われわれはおはなしレストランの「シェフ」と呼んでいる。詩人の谷川俊太郎さんとの集いは、本取組の4本柱の1つ「おはなしシェフの養成」の一環として開催されたものである。

1. 谷川俊太郎さんと読もう、聴こう、そして語ろう、絵本と詩 (その1)

日時：平成23年10月1日 14:00~17:00

場所：おはなしレストラン・ライブラリー

参加者：おはなしゼミ2年生10名

「読み聞かせの実践」スタッフ5名

内容：1. おはなしレストラン取組の紹介
2. 私の好きな谷川さんの絵本・詩



谷川俊太郎さんの絵本や詩は、読み聞かせの活動において読み手の学生にも聞き手の子どもたちにも人気があり、作品には日頃から大変お世話になっている。その谷川さんご本人をお迎えするというので、学生もスタッフも相当緊張して臨んだ初日の集いであった。しかし、冒頭でわれわれが自己紹介する時から、谷川さんは柔らかな表情を浮かべて、1人ひとりの話をよく聞いてくださった。こちらの話に関連づけて、谷川さんもご自身やご家族のことなどもざっくばらんに語られ、1人の人間としての谷川さんに、その場の誰もが思わず親近感を感じてしまった。

さらに、谷川俊太郎さんの気取らず、威張らずのお人柄を一瞬のうちにわれわれに印象づけたのは、GP担当の岩田が、「スライドに資料を写しながら、おはなしレストランの取組の紹介をさせていただきます。」と告げた時であった。谷川さんはそれまで座っていた1人掛けソファの上に、くるっと向きを変え、文字通りちょこんと正座をされたのである(左上の写真)。谷川さんのこの茶目っ気ある振舞いで、集いに参加していた一同の緊張感は一気に解れ、その日の集いは笑い声も響く、和やかな雰囲気になっていった。

GP取組の説明に続いて、谷川さんの絵本や詩の中から各自がお気に入りの作品を選んで持ち寄り、作品を声に出して読んだ。それから、作品の中の好きなところや、作品からどんなことを感じ、イメージしたかななどを自由に語り合った。学生、スタッフが選んだ絵本や詩は、以下の通りである。

絵本：『ぼくはのみのびこ』

『こやたちのひとりごと』

詩：「いち」「まる」「願い」「きつね」

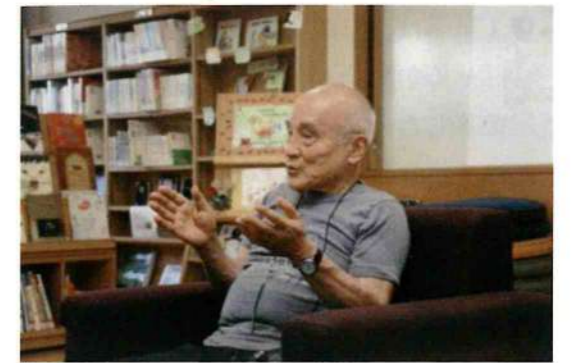
「朝のリレー」「シャガールと木の葉」

「Wedding day」「明日」「きいている」

「ことば」「ひとり」「もどかしい自分」

「ほほえみ」「二十億光年の孤独」「ぼく」

「生きる」「あいしてる」「朝のかたち」



谷川さんは、まず、学生の作品に対する思いをしっかりと受け止めてくださり、その後、作品ができた背景やイメージについて話してくださった。こちらの投げる拙いボールを谷川さんが返球してくださる中で、「詩はね、1つのフィクションなんだよ。詩人っていうのは、巫女的な存在で、対象の中に入って行って、未だことばになっていないものをことばにする預言者なんだよね。」と話され、詩に対する谷川さんの姿勢を伺うこともできた。

日頃は「出前シェフ」として実践に忙しいゼミの学生たちであるが、谷川さんの胸を借りてじっくりことばを心で感じ、ことばに思いを巡らすことができた、本当に幸せな一時であった。それは、5名のスタッフにとっても同じである。

以下は、参加したおはなしゼミ2年生の感想の一部である。

●緊張した。1日目のおはなし会が始まる前はただただ緊張した。どうしよう……！偉人が目の前にいる……。という具合に、気が気ではなかった。しかし、気持ちはすぐにほぐれた。とても気さくな雰囲気でも打ち解けるのに時間がかからなかった。自分の好きな本と詩についての思いを直接谷川さんに聴いていただけるなんて、こんな贅沢なことがあるだろうか。(中略)2日間を通して、谷川さんはことばと私達の架け橋であるのだと改めて思った。谷川さんに憑依したものを私達に伝えているというの納得がいった。その反面、彼も人間なのだ強く思った。超人でも仙人でもない。お茶目な行動をしたり、家族について嬉しそうに語ったりする。こういった人間的な感情を持ち合わせていることが、万人に共感される作品を創造する基盤なのではないか。こんなに貴重な体験ができたことが非常に嬉しい。この2日間のことを私はずっと忘れないと思う。(H.F.)



●私にとって谷川俊太郎さんは、本の向こう側にいる憧れの人だったのでお会いできることが信じられず、ずっとドキドキしていました。谷川さんは想像していた通り、ユーモアがあって知的で、少年のような部分ももっておられる方でした。一日目は自分の好きな詩についてお話をうかがうことがきる贅沢な時間がありました。谷川さんの言葉は、谷川さんの詩と同じくらい心に響いて涙が出そうでした。詩は意識下にあるものが出てきたもので、自分の気持ちというより、何かに憑依するように書かれるそうです。谷川さんの詩が心に響き、共感できるのは誰もが意識下に同じようなものを持っているからかもしれないと思いました。雑誌やテレビで谷川さんを見るたび、あの夢のような二日間が浮かんで不思議な気持ちになります。今回、谷川さんご本人のお人柄にもふれることができ、ますます憧れる気持ちがふくらみました。(C.I.)

●1日目は、おはなしゼミのメンバーだけでおはレスで語りあった。谷川さんに会うまでは、上手く話せるか緊張していたが、自己紹介をしたり話している内に自然と緊張はとけていった。色々話したりしたのだがその中で最も印象に残っているのが、自分の好きな詩を語り合った時間である。私は「明日」という詩を選んだが、読み方が分からず困っていると、読み方は「あす」でも「あした」でもいい、あなたの思ったように読んで下さいと谷川さんが声をかけて下さった。その時、この詩を自分の好きなように理解していいんだと思ったし、よりこの詩が自分の宝物になった。人の心を打つ詩は沢山あるけど谷川さんの詩が人の心にすっと入っていくのは、谷川さんの人柄やこの詩はこう思って欲しいという気持ちを込めるのではなく自由に感じてくれたらいいというスタンスが関係するのだと感じた。(A.H.)



2. 谷川俊太郎さんと読もう、聴こう、そして語ろう、絵本と詩 (その2)



日 時： 平成 23 年 10 月 2 日 (日)
10:00~12:00
場 所： 本学大講義室
参加者： 学生 230 名、教職員・一般 70 名
内 容： 10:00~10:30 絵本のひととき
10:30~11:00 詩のひととき
休 憩
11:10~11:40 あなたも詩人
11:40~11:55 質問コーナー

谷川さんとの集いの2日目は、本学の学生約230名、それに教職員と一般の方々約70名、合わせて約300名の参加者を得て、本学の大講義室で開催された。この日の司会進行役を務めたのは、前日の集いに参加したおはなしゼミ2年生の10人である。

「絵本のひととき」「詩のひととき」では、それぞれ司会役の学生があらかじめ選んでおいた谷川さんの絵本や詩を、ご本人に朗読していただき、谷川さんと学生が対談形式で作品について語り合うというスタイルで進行していった。途中、作品に関連したクイズを会場に投げかけ、参加者とステージがやり取りできる工夫もなされていた。

この2つのコーナーでの圧巻は、写真詩集『子どもたちの遺言』から、「生まれたよ ぼく」「ありがとう」の2つの詩を谷川さんが朗読された時である。会場全体が、谷川さんの詩に惹きこまれる、そんな瞬間だった。以下は、その時の学生と一般の方の感想の一部である。



- 谷川さんが読まれた『子どもたちの遺言』を聞いていて何だか胸に突き刺さって感動しました。谷川さんの作品は何だか簡単に書かれていて胸に突き刺さるものが多くて共感する部分がたくさんあって読んでいて本当に詩の世界に惹きこまれます。(学生)
- 谷川さんが『子どもたちの遺言』の詩を朗読された時、知っている詩だったのに、なんだか涙が出そうになりました。なぜかはわかりませんが、人って五感で感じるものなのだなと思いました。(一般参加者)
- 谷川さんの感性を直接感じることでできた時間を頂きました。特に写真+詩では、聴いていて何故か涙が出てきました。自分でも不思議な感情がわいてきました。ことばを超えたことばを谷川さんは作られていると思いました。(一般参加者)



いずれも、理屈を超えたところで詩に心を揺さぶられた経験が記されている。「声に出して読むことで、詩は生かされる」とは谷川さんのことばであるが、作者ご本人の朗読には、聴き手をその詩の世界に誘うことばの力が、確かにあった。

進行役の学生1人も、同じ詩集から女子高校生の写真に添えられた「ゆれる」を朗読したが、聴く人の心にずんずん入っていく見事な朗読であった。谷川さんから、大きな声で一言「うまい!!」と声を掛けられ、読んだ学生ははにかみながらも、大変喜んでた。

合唱曲としてもよく歌われ、広く知られている詩「生きる」も取り上げた。小学校の国語の教科書でこの詩と出会い、谷川俊太郎さんというとまずこの詩を思い出す学生は多い。この詩には、「生きているということ いま生きているということ それはミニスカート」という謎めいた一節があり、どうしてここでミニスカートが出てくるのか、大半の読み手は不思議に思う。そこをすかさず、司会の学生が谷川さんに質問してみた。すると、当時、ミニスカートが流行り出し、女性たちが短いスカートをはいて街を闊歩するのを見るのは、男性としてとても衝撃的であった、と谷川さんはユーモアを交えながら答えてくださった。長年の疑問が解けてスッキリすると同時に、この作品がかれこれもう40年前の作品であることに、改めて驚きを感じた。詩のことばが、時の試練など軽やかに超えて、今もみずみずしく響いていたからである。

「絵本のひととき」で取り上げた作品

- ・『とっときのとっかえっこ』
(文：サリー・ウイットマン 絵：カレン・ガンダーシーマー
訳：谷川俊太郎 童話館出版)
- ・『子どもたちの遺言』
(詩：谷川俊太郎 写真：田淵章三 佼成出版社)
- ・『おはなししましょ』
(文：谷川俊太郎 絵：元永定正 福音館書店)
- ・『にゆるぺろりん』(文：谷川俊太郎 絵：長新太 クレヨンハウス)





「詩のひとつとき」で取り上げた作品

- ・「生きる」
- ・「20億光年の孤独」
- ・「あいしてる」
- ・「きつね」

「あなたも詩人」のコーナーでは、キャンパス内で撮影した4枚の写真を使って、参加者全員で3行詩に挑戦した。1つの詩を5分で仕上げ、司会者が指名した数名の参加者に自作を発表してもらった。3行詩が添えられただけで、写真へのイメージが思い掛けず豊かに膨らみ、1つの物語が見えてくる楽しい試みであった。谷川さんにも、その場で2枚の写真にそれぞれ詩を書いていただいた。そのうちの1枚が、下のロッカールームの窓際に立て掛けられた2本の傘の写真である。谷川さんが作られた詩は、ことば遊びの要素を取り入れ、頭韻を踏んだ作品となっている。



ロッカーが並んでるローカ
六回も行きつ戻りつ でも
ペアになれたのは傘だけ・・・
谷川俊太郎氏作

満腹の2日間 -谷川俊太郎さんと-

岩田英作

10月1日、2日の両日、本学に谷川俊太郎さんをお迎えし、学生曰く“夢のような時間”を過ごした。

1日目は少人数で谷川さんを囲み、2日目は300名近くの聴衆と共に谷川さんの詩や絵本を鑑賞しながら、僕は窓を開け放して新鮮な空気を吸ったような気分を味わった。

80歳になられる谷川さんは、ほんとうに威張ったところのない人だった。もうちょっと威張ってもいいのにとこちらが思ってしまうくらい、谷川さんは僕に対しても学生に対してもフランクに対応してくださった。学生も教員も、あの谷川俊太郎さんの来学ということで大いに緊張していたが、ナマの谷川さんと接するうちに、部屋には自然な笑い声が響くようになった。

2009年に刊行された『子どもたちの遺言』は、写真と谷川さんの詩で構成されている。谷川さんは、この本の中で、赤ちゃんから、わんぱくざかりの男の子、思春期の女の子、そして成人の女性に至るまで、さまざまな年齢の視点で詩を書いている。そのことをご本人に問うと、「巫女的」という言葉がかえってきた。自分を空っぽにして、入ってくるのを待つのだという。

谷川さんと接していると、おじいちゃんと同じような気にはならなかった。蕎麦屋で昼食をとったときのことだ。駐車場で、谷川さんが僕の同僚に車の鍵を貸してくれと言う。言われるまま同僚が鍵を渡すと、谷川さんは乗ってきた10人乗りのバンの運転席に突如乗り込み運転しだしたのである。その時の谷川さんの嬉しそうな表情とまったくなかった。あとで「大きな車を運転したかったですか」と尋ねると、「うん」。このとき、谷川さんは少年だったのかな。

集いでは、参加者全員で詩を書く時間もあった。1枚の写真からイメージして三行詩をつくってみる試みだった。考える時間はわずか5分しかなかったが、学生たちも楽しんで書いていた。谷川さんにも参加していただき、ベンチで膝をかかえる女の子の写真(右の写真)を題材に、次のような詩を書いていただいた。

私のひざ 私の足首 私の心
ほんとに私のものだろうか
私の眼 宇宙をさまよってる



谷川さんは、そうは思わないということについて、時にびしゃりとほっきり口にされた。聴衆のある女性が谷川さんへの質問の中で、今の日本では誤った日本語が多く使われていて、子どもたちへのお話の際にも気を遣うという趣旨の発言をされた。これに対し、谷川さんは、言葉はよい言葉とよくない言葉というように分けられるものではない、言葉は絶えず変わっていくもので誤った日本語などというものは存在しない、もし本来の日本語というものが存在するとすればそれは古典の中にしかないのではないかと問われた。

それともうひとつ、これは僕の失敗である。会の終わりに、谷川さんから学生たちにメッセージをいただきたいと思い、僕は司会の学生に谷川さんをお願いするように指示した。学生が「それで

は谷川さん、最後に私たち学生にメッセージをいただけますか」と言うや否や、谷川さんから返ってきた言葉は、「どうしてメッセージとか聞くの」だった。誰かを呼んで来て、メッセージを求めたりするのは、マスコミの悪い影響である。やめたほうがいい。メッセージ？ 電気はこまめに消しましょう、はい、終わり。と、けっこう強い調子で言われたものだから、司会の学生も固まってしまった。慌てて僕は、これは自分が学生に言わせたことだと谷川さんに釈明し、まあ笑っておられたのだが、まずいことを聞いたものだと反省した。たしかに、有名人のメッセージには権威付けの意図がつかまとう。それを谷川さんは峻拒されたのだと思う。

空港でお別れの際、僕が握手を求めると、谷川さんは「ミーハーになっちゃって」と、いたづらっ子のように笑って、手を差し出してくれた。

最後に、谷川さんと過ごした2日間を三行詩にして終わりとする。

すきとおったごちそう
満腹の二日間
ぼくは思わずゲップをした

学生の感想（学生からの手紙 谷川俊太郎 様）

10月2日に開催した集い、「谷川俊太郎さんと読もう、聴こう、そして語ろう、絵本と詩」に参加した学生は、谷川俊太郎さんに宛てた手紙という形式で、集いの感想を書いた。以下に抜粋する。

①県立大学生

◆谷川さんの作品を通じて

学生たちも「子どもたちの遺言」の朗読を聞いて心を打たれたようであった。子どもの頃に触れていたたくさんの中の大半が谷川さんの作品と知った貴重な1日であったようだ。作家谷川さんに触れたことによってこれまで見聞きしてきた作品がより興味深くなり、さらに詩に対する思いが深まり、絵本を見聞きする機会を増やすきっかけになったように思う。

【コメントの抜粋】

「小学生の頃から読んだり、見たりしていた」

「子どもたちの遺言…タイトルに驚いたが心に響く作品だった。心に響き、落ち着く詩が好き」

「谷川さんの言葉で潜在意識という言葉が印象に残った」

「谷川さんのスヌーピーの作品が今でも心に残っている。“配られたカードで勝負するしかないのさ”この台詞が好き」

「おはなししまししょうを姉にプレゼントした」

「子どもたちの遺言を生で聞いて感動した」

「当日、谷川さんの作られた詩はやはり違うなと感じた。もっと谷川さんの作品を読みたい」

「子どもたちの遺言は心に響き涙が出そうになった」

「とっときのとっかえっこ、という作品が昔からすきで、谷川さんの作品と分かってより好きになった」
「子どもたちの遺言の成人式につけられていた詩は、私の気持ちを代弁しているようで泣きそうだった」

「谷川さんの作品は、言葉のリズムが面白く幼稚園や保育所、小学校の子どもたちにとっても人気」

◆以前の私と今の私

谷川さんの著書を通じて小中学校の時の自分と今の自分を比べるようなコメントがたくさんあった。また、自身が書いた詩を振り返ってみたときにまったく理解できない学生もいれば、思い出となっている学生もいた。これは、まさしく数年しかたっていないが、様々な経験を積んで成長した証であり、谷川さんと谷川さんの作品に触れたことで過去を振り返るスイッチが入ったのだと言える。知らず知らずのうちに大人になるプロセスを踏み自身の人生観や身近な人々に対する思いが深まるなど、人間力が高まったのだろう。

【コメントの抜粋】

「普段、文や絵に込められた意味を考えると……自身の感覚を大事にしたいと思った」

「これまで詩は黙読していたが今日の会で意識が変わった。好きな詩を声を出して読みたくなった。」

「ゆれるという詩が心に響いた」

「作者にも自分で書いた詩は説明できないというお話に納得した。自身の書いた過去の詩、どんな気持ちで書いたのか分からない」

「昔は本が嫌いだったが今では、言葉の心が分かってきたので興味が深まってきた」

「子どもたちの遺言を通じて今の私に今までの私と重なる詩があると聞いた。今、を大切にすることを

学び思い出に残る貴重な時間だった」
 「大人になってから絵本と触れ合うと発見があって面白かった」
 「谷川さんの詩を聞いて、大切な家族、友達、大切な人に会いたくなった」
 「写真を見ていつの間にか書いていた、という話は詩の見方を変えた」
 「詩や絵、写真など人それぞれ感じ方が違う、1つの詩でもそれぞれ感じる事が異なるから谷川さんの書かれた1つひとつの詩は私だけの詩」
 「私の周囲では、答えを求められる要件が多い中で、谷川さんの答えはたくさんある、という言葉聞いて気が楽になった」

来場者アンケート

①教職員・一般

◆谷川さんの人柄

大半の来場者が谷川さんに少し堅めのイメージをもっていたようだが、実際の人柄に触れ、若々しくフレンドリーな印象に変わったようであった。会が進むにつれ、学生とのやり取りでも場を和ますコメントなど、話し方や考え方などからさらに身近に感じ、ファンになった方、さらにファンの度合いが深まった方が多く見受けられた。

【コメントの抜粋】

「谷川さんの若々しさ」
 「谷川さんがザック balan などところが印象的」
 「素朴で飾らない谷川さんがすてきでファンになった」
 「服装がラフでステキだった」
 「学生の質問にユーモアを交えてあたたかくこたえられる姿がステキ」

◆貴重な体験として

この日の体験によって自らが持つ悩みや子どもと向き合う勇気、さらには自身の人生観を見なおすような感想もあった。詩に対する考え方も実際に「あなたも詩人」コーナーで三行詩による手法により作成体験したことで身近に感じられたようであった。

読み手に徹していた来場者もこの日だけは谷川さんと一緒に詩を作れたことによって谷川さんの感性や詩人としての考え方などの刺激を受けたようだった。また、学生の素直な意見や思いも来場者にとっては普段聞くことのできない新鮮さが感じられたようであった。

何よりも谷川先生と学生とのコラボレーションにより様々な新たな発見があったように読み取れた。

【コメントの抜粋】

「子どもを思い出した」
 「谷川さんの話を子どもたちにも伝えていく」
 「今回の経験を通じて広い心で広い世界に生きる素晴らしさを感じた」
 「学生さんの素直な意見を聞いて楽しい体験だった」
 「谷川さんと一緒に詩を作れて楽しかった」
 「谷川さんに会えたことがうれしかった」
 「谷川さんの感性を直接感じる事ができた」
 「谷川さんに直接詩を読んでいただけてうれしかった」
 「写真+詩では聴いていてなぜか、涙が出た」

「詩人の頭の中の一端が少し見えたような気がする」
 「三行詩・・・素直な気持ちを出すことが大事だとわかった。刺激的だった！」
 「子どもたちの遺言は悩みを抱えている今の自分にぴったりで涙が出そうだった」
 「子どもたちの遺言を息子にプレゼントします」

◆谷川さんから得られた感動

谷川さんご本人の話やしぐさ、ファッションなどリアルに来場者が感じた本音がたくさん感想として挙げられていた。中には、ご本人の朗読を聴いているうちに感動で涙した参加者もいた。言葉1つひとつに重みを感じ谷川さんの、人として、詩人としてのスケールの大きさを体感されているようであった。

【コメントの抜粋】

「谷川さんの自然体な生き方そのものが詩に表れていると感じた」
 「ユニークでかわいらしい、だから素敵な詩がかかるのだと」
 「詩の中の言葉は潜在的な意識から来るもの」が特に印象的だった」
 「谷川さんが『子どもたちの遺言』を朗読したとき感動と涙・・・」
 「感性のみずみずしさ、自由さにびっくり！（天才！）」
 「言葉を超えたことばをつくられるかた」

◆事業の取組について…おはなしレストラン事業

今回の事業を通じておはなしレストラン事業全般の評価が伺えたような貴重な意見があった。日頃のおはなしレストランの活動から得た学びがあってこそ谷川先生と向きあえることができたのではないかと読み取れるような内容であった。

「谷川さんのユーモア、学生たちの素朴さ、ひたむきさ。おはなしレストランの試みがどれだけ人を成長させているかがよくわかりました」


◆イベントへの感想…スタッフや学生への敬意と感謝

このイベントを谷川先生の話が聞ける講演会形式と思っていた方が多かったようだが、学生とのコラボや、来場者も参加するなど、来場者が聞き手に徹することのない楽しいひと時であったという意見が多かった。この手法については、今後、大学側で講演会など様々な催しを企画するにあたっての成功事例ともいえる。また、この構成により様々な角度から谷川さんに触れられることができたことも、来場者が楽しめた要因であったようにうかがえた。

学生や教員が本番を迎えるまでの準備として谷川さんの情報を周到にリサーチされていたことはもちろん、絵本や詩の学びを深めるなど準備に対する労いや感謝の言葉については大半の方がコメントとして残していた。

【コメントの抜粋】

「コーナー構成が良かった」
 「準備がきちんとできていた」
 「学生が谷川さんについてよく勉強されていた」
 「この輝きを大事に～毎日のささやかなことにも感動する気持ちを持ち続けたい～」
 「秋晴れの1日をさらに気持ちよく過ごせた」
 「学生とのかけ合い形式が良かった」
 「クイズ形式で詩の紹介がとても勉強になった」（一般公開に感謝）
 「講演会・・・堅いイメージだったがとても楽しい会だった」
 「講演会形式でなかったのいろいろな谷川さんを感じられた」



第3章

出前シェフ

第3章 出前シェフ

出前シェフは、学外からのご要望に応じて、地域に出かけて行なう実践である。

総合文化学科2年「おはなしゼミ」のメンバーが担当し、平成22年度は15回、23年度は14回の出前シェフを行った。初めての場所で、初顔合わせの子どもたちを前に行うことがほとんどで、その場の対応力が要求される。おはなしレストラン号で、さあ出発！



平成 22 年度出前シェフ一覧

	月日	実践場所	メンバー
1	7月10日(土)	幼保園のぎ「のぎっこまつり」(松江)	田路・長島・仁田・桃井
2	7月24日(土)	大田市立中央図書館(大田)	佐々木・中井・江原・岩田
3	7月25日(日)	松江プラパホール「ママン・グラスセコンサート」(松江)	鐘撞・塚田・桃井・岩田
4	8月6日(金)	木次町下熊谷交流センター「七夕の集い」(雲南市)	仁田・堀尾・松原・岸本先生・岩田
5	8月7日(土)	カルチャープラザ仁多図書室(奥出雲町)	大野・堀尾・長島・岩田
6	8月11日(水)	忌部小学校で絵本の整理(松江)	堀尾・仁田・江原・大野・中井・岩田
7	8月17日(火)	みずうみ保育園(松江)	大野・佐々木・塚田・中井・岩田
8	8月18日(水)	東出雲上意東読書会(東出雲町)	鐘撞・田路・仁田・岩田
9	8月21日(土)	古志原町民会館(松江)	江原・桃井・堀尾・安藤先生
10	9月7日(火)	出雲市立遙堪小学校・幼稚園(出雲)	塚田・中井・長島・江原・鐘撞・佐々木・松原・岩田
11	11月14日(日)	いっしょに子育て研究所「こっころサンデーinこそけん」(松江)	江原・田路・塚田・大野・佐々木・松原・岩田
12	12月12日(日)	いっしょに子育て研究所「こっころサンデーinこそけん」(松江)	長島・堀尾・桃井・岩田
13	12月16日(木)	松江市立中央病院院内学級クリスマス会(松江)	鐘撞・塚田・田路・桃井・松原・岩田
14	1月29日(土)	ナザレン保育園(松江)	中井・仁田・桃井・岩田
15	1月30日(日)	出雲青年会議所様おはなしレストランライブライリー訪問(松江)	鐘撞・塚田・仁田・江原・岩田

平成 23 年度出前シェフ一覧

	月日	実践場所	メンバー
1	5月14日(土)	イングリッシュガーデン(松江)	飯塚・上野・倉下・敷・田上・西坂・西村・原・藤田・岩田
2	5月20日(金)	松徳幼稚園(松江)	上野・倉下・岩田
3	6月10日(金)	みつき乳児保育園(松江)	西村・木村・飯塚・岩田
4	6月11日(土)	今市幼稚園(出雲)	飯塚・上野・木村・倉下・敷・田上・西坂・西村・原・藤田・岩田
5	7月6日(水)	あかえめだかクラブ(安来)	上野・木村・藤田・岩田
6	7月29日(金)	みつき乳児保育園(松江)	田上・西坂・藤田・岩田
7	8月9日(火)	カルチャープラザ仁多図書室(奥出雲)	飯塚・木村・藤田・岩田
8	9月22日(木)	やさかサポーター(弥栄村)	木村・敷・西村・原・岩田
9	10月23日(日)	島根県立大学託児(浜田)	上野・田上・西坂・西村・原・岩田
10	11月25日(金)	日吉津保育所(鳥取県日吉津村)	上野・藤田・岩田
11	11月26日(土)	大田市立中央図書館(大田)	飯塚・木村・倉下・西村・原・藤田・岩田
12	12月3日(土)	山陰中央新報南販売所クリスマス会(松江)	飯塚・西村・藤田・岩田
13	2月3日(金)	鰐淵小学校(出雲)	飯塚・上野・倉下・敷・西坂・藤田・岩田
14	3月3日(土) 4日(日)	絵本ワールド in しまね(松江イングリッシュガーデン)	飯塚・上野・倉下・敷・田上・西坂・西村・原・藤田・岩田

出前シェフの前身

出前シェフの取組は、10人乗りのバン「おはなしレストラン号」を購入し、平成22年度から本格的に実施している。しかし、似たような活動はそれ以前から行ってきており、その中でも特に大きな成果を上げたのが、平成20年度の初代おはなしゼミのメンバー7人による島根県立美術館での活動である。



おはなしゼミは、島根県立美術館からの依頼を受けて、同館で開催された「エリック・カール展」に合わせて、エリック・カールの絵本の読み聞かせを行う「おはなしのへや」を担当した。平成20年9月～11月のあいだに計16回の実践を行い、「おはなしのへや」の来室者は合計1,197名(子ども539人、大人658人)という盛況ぶりであった。

子どもの年齢層も定まらない不特定多数の観客を前に、最初はおどおどしていた学生たちも次第に落ち着いて読み聞かせができるようになり、後半の実践では自信に満ち溢れた様子で見事な実践を繰り広げた。

この活動を通して、学外で不定期に行う実践が学生に大きな緊張を強いるかわりに、それをやり遂げたときの大きな達成感と自信を学生にもたらししてくれるものであることを実感し、出前シェフの企画へとつながっていった。

出前シェフの流れ

出前シェフの要望は、だいたい電話で寄せられる。希望の日時や内容をうかがい、学生との調整がつけば、できるだけ出かけることにしている。出前シェフの依頼は、おはなしレストランが地域に認知されるにしたがって増加する傾向にあり、まさにうれしい悲鳴である。すべてを引き受けては、学生の本業がおろそかになりかねず、お断りするケースも少なくない。準備する際のポイントは、対象とする子どもの年齢、人数、実践を行う時間(分)である。この3つのポイントに応じて、出前シェフとして出かける学生の人数、絵本とその数、つなぎの内容などを決める。保育園や小学校からの依頼の場合は、学年や人数がはっきりしていて、絵本の選定もしやすく、出前シェフである学生たちも比較的安心して臨むことができる。その反対に、対象とする人数や年齢層が定かでない場合は、難易度がグッと高くなる。また、それ以外にも、場の状況や雰囲気など、出前シェフには予測困難な要素があり、学生にとってもハラハラドキドキ感たっぷりの実践である。

試練のイングリッシュガーデン

平成23年度の第1回目の出前シェフは、そのような意味でまさに出前シェフの難しさを学生が思い知ることになった実践であった。これは、おはなしレストラン単独の実践ではなく、イングリッシュガーデンでのある催しの中の一企画として参加したものだ。会場は庭園中央のガラス張りの大きな建物で、学生たちはその中に設置された立派なステージに立って大型絵本をマイクを使用しながら読むこととなった。「おはなしレストラン、はじまるよ！」いつもの掛け声で学生たち

のステージは始まった。会場には大勢の人がいる。子どもの数も多い。しかし、多くの人は学生のほうを見向きもしない。それもそのはずである。その会場は読み聞かせの会場であると同時にフードコート兼ねており、ちょうどお昼の時間帯で、人の群れは様々な食品が並ぶコートへと流れていったからである。それでも学生たちは、笑顔を絶やさず読み聞かせを最後までやり遂げた。2年生になって初の出前シェフに臨んだ学生にとっては、大きな試練の門出となった。

初コラボー出雲青年会議所の皆さまとー

平成23年度の出前シェフでは、読み聞かせのコラボレーションを体験することもできた。相手をしていただいたのは、なんと出雲青年会議所の男性陣である。これは、出雲青年会議所からの要望で実現したもので、出雲神話に因んだ紙芝居を作って子どもたちの前で演じたい、ついでにはおはなしレストランの学生たちから意見をうかがいたい、というのが事の起こりだった。紙芝居の脚本、絵、さらには紙芝居用の木枠もすべて青年会議所の皆さまの手づくりで、何度も来学しては学生の前で汗まみれになりながら紙芝居を演じ、年下の学生たちの意見に耳を傾け、改良を重ねていかれる姿に、学生たちも大きな感銘を受けた。そして、6月11日、出雲市立今市幼稚園の全クラスを対象に、青年会議所の皆さまが紙芝居を演じ、学生が絵本の読み聞かせを行うコラボ企画が実現し、規模も内容も充実した、忘れられない実践となった。

読み聞かせプラスα

読み聞かせ以外の部分で子どもたちとの触れ合いが多いのも出前シェフの大きな特徴である。平成23年度の弥栄村での出前シェフでは、子どもたちの作ってくれた昼食と一緒にご馳走になり、ドッジボールで盛り上がった。鰐淵小学校での子どもたちとの雪合戦も子どもたちの笑顔と歓声とともに忘れられない1コマである。このような一期一会を重ね、子どもと触れ合うことを通して、学生は人間関係を築く土台をより確かなものにしていくと思う。

実践のふりかえり

学生は、1つの出前シェフを終えるごとに、「準備」「実践」「課題」の項目に従って記録をとり、次の実践に活かしていく。サンプルとして、平成23年7月に行った出前シェフについての記録を次ページに記載する。

出前シェフ：7月24日 大田市立中央図書館

佐々木しのぶ 中井亜優美 江原愛季

■準備

昨年に引き続き、大田市立図書館で司書として働かれ、私たちの先輩である石川亜希子さんからおはなしレストランの依頼が来た。

久しぶりの小学校以外での読み聞かせに不安と期待を抱えながらも、準備を始めた。まずテーマを決めようということで、本番が園児や小学生にとっては夏休みが始まったばかりの時期ということから、テーマは”夏らしいもの”となった。

次に絵本選びをサポートの田路さんを含めた4人ではじめた。夏というくくりで探してみると、気がつけば、海や川に関するおはなしに偏っていた。それならいっそテーマを「海と川」にしよう！ということで話は落ち着いた。おはなしの舞台が統一されている分、まったく違う世界観の絵本にするように気を配った。

読むことになったのは動物たちが次々に登場し、繰り返しの要素を持つ『ガンピーさんのふなあそび』、絵といい、展開といい、先の読めない『きんぎょのかいすいよく』、幸せを仲間と共有することの大切さを伝える『にじいろのさかな』の3冊である。

そしてメンバーが頭を悩ませたのが、つなぎである。昨年の実践で使用された「まーくん」のように楽しみながら知識が身につくもの、子どもたちをあっと言わせられるようなものを模索した。テーマに沿って考えた結果、川の長さ比べをすることに決まった。世界一長いナイル川と日本一長い信濃川を、青いビニールテープでつくり、世界と日本の違いを子どもたちに感じてもらうのだ。

さらにもうひとつのつなぎはどうするか。手遊びや歌をして、乳幼児や園児はわからないが、小学生が楽しんでくれるだろうか…。ほかの実践のメンバーに相談したところ、生き物当てクイズを提案してくれた。海や川ならたくさん生き物がいるだろうし、海の生き物に詳しい子どもの中にはいるだろう。画用紙に生き物を描き、シルエットでそれが何か当ててもらうことにした。

また、読む絵本以外にも30冊ほど絵本を持っていくことになった。それは海、川以外にもメンバーが子どもたちにぜひ読んでほしいお気に入りのものを選んだ。

■実践

岩田先生を含めたメンバー4人は、おはなしレストラン号で大田市に向かった。途中でできらら多岐により、ラーメンを食べ、帰りはソフトクリームが食べたいなどといい、メンバーはゼミ始まって以来の遠出に、半ば観光気分で大田市を満喫した。

さて大田市立図書館に一同が到着し、まず図書館の大きさ、清潔さに圧倒された。こんな立派な図書館が島根にあったとは！けれども驚いてばかりではいけない。私たちは2階のおはなしレストランの会場となる部屋に案内された。天井も高く、広々としている。何より図書館の方の配慮で、パズル型の





シートが敷かれ、子どもたちがじかに座って絵本を開けるよう工夫がなされていた。メンバーが緊張しながら会場を飾り付け、道具を確認していると思わぬことが判明した。なんと信濃川がない。中井さんの機転により、自身の名札の紐を信濃川の代用とした。

開演の時間になると、館内放送の効果もあってか、小学生中～高学年や、まだ頼りない足取りの小さな子どもを連れてお母さん方などおよそ50名の方が来てくださった。

「おはなしレストランはじまるよ〜！」い

よいよ本番だ。はじめに中井さんが『ガンピーさんのふなあそび』を読む。次々に動物たちが船に乗り込み、どうなってしまうのか子どもたちは興味津々のようだった。

次は川比べだ。せっかく小学生がいるのだからと思い、日本一長い川を尋ねてみると見事正解。そして全長およそ6メートルもあるビニールテープ製のナイル川を、近くの女の子に手伝ってもらい、広げて見せた。さらに佐々木さんがナイル川は信濃川のおよそ20倍もあると解説すると子どもたちばかりでなく、お母さん方も驚いた様子だった。先生もこの川には感心したそうだ。

次に私が『きんぎょのかいすいよく』を読む。題名を言ったとたん「きんぎょってうみにいるの？」という声。子どもの頭の鋭さを実感した瞬間であった。

そして生き物クイズだ。恥ずかしがって、答えをいってくれないのではないかと心配したものの、みんな思いついた生き物を次々に答えてくれた。たこやかめなどをすぐ当ててしまうのは予想していたものの、最後の難題として準備してきたタツノオトシゴを簡単に当てられてしまったため少々残念だった。10種類ほどの生き物を持ってきたものの、すぐに終わってしまった。

最後を締めくくるのは佐々木さんの『にじいろのさかな』だ。絵本が登場してすぐ「このほんしってるー」という声があちこちから上がった。今回大型絵本を使用したため、「こんなおおきいのあるんだー」と驚く子どもも多数いた。絵本が終わると自然と拍手が起こった。読み聞かせをしていて側にとってなによりうれしいことだ。

おはなしレストランを終え、持ってきた30冊ほどの絵本を来ていただいた方に好きなように見てもらった。私としてはおすすめの『だんまり』が好評だったのが、うれしかった。

■課題

せっかく来ていただいたのだから、アンケートなどを用意しておけばよかったと後悔した。また絵本が座っているところから見えなかったという子どもがいた。実際に聞き手の位置から自分たちがどう見えるかを知っておく必要があると感じた。

第4章

レストランの メニューの充実

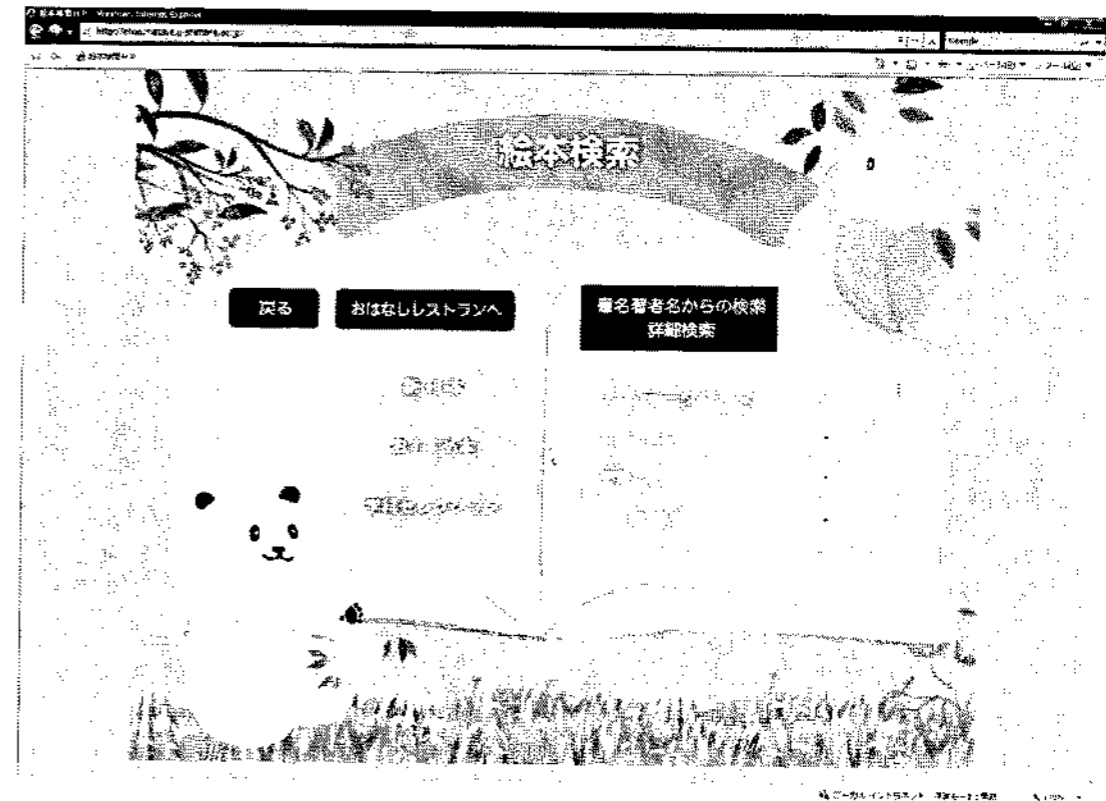
第4章 レストランのメニューの充実

1. 絵本データベース

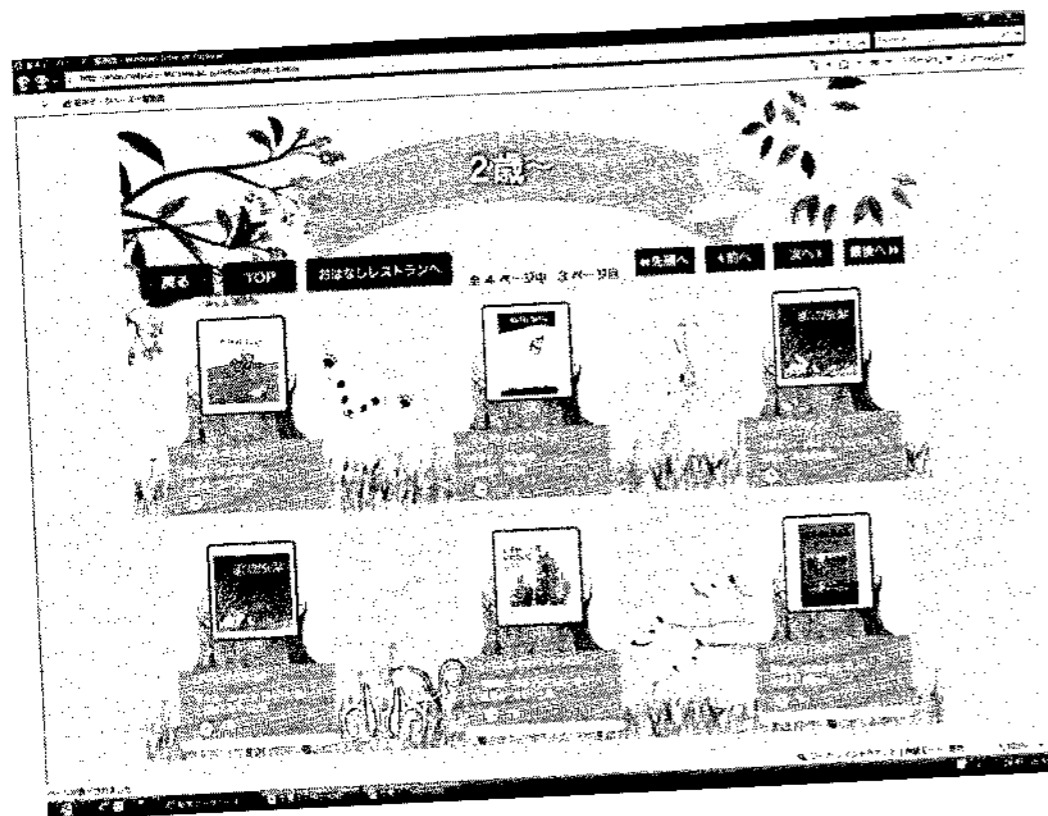
おはなしレストランで取り組んだ絵本データベースは、おはなしレストランライブラリー所蔵の絵本について、あらすじや読み聞かせにかかる時間（分）をデータベース化し、読み聞かせで絵本を選ぶ際に利用することを目的に構築したものである。平成22年度より絵本データベースの様式や内容の検討に入り、インターネット上で運用を開始したのは平成23年4月のことである。

平成24年1月現在、絵本データベースに登録されている絵本は363冊である。おはなしレストランライブラリーの絵本の蔵書数は現在約6千冊で、登録率は6%にとどまっている。「読み聞かせの実践」受講者やおはなしゼミの学生の手によってデータを蓄積しているが、1冊1冊のデータを書くのに時間がかかり、思ったように抄らないのが実情である。おはなしレストランライブラリーの絵本は今後も増える見込みであり、データベースの登録には課題が多い。

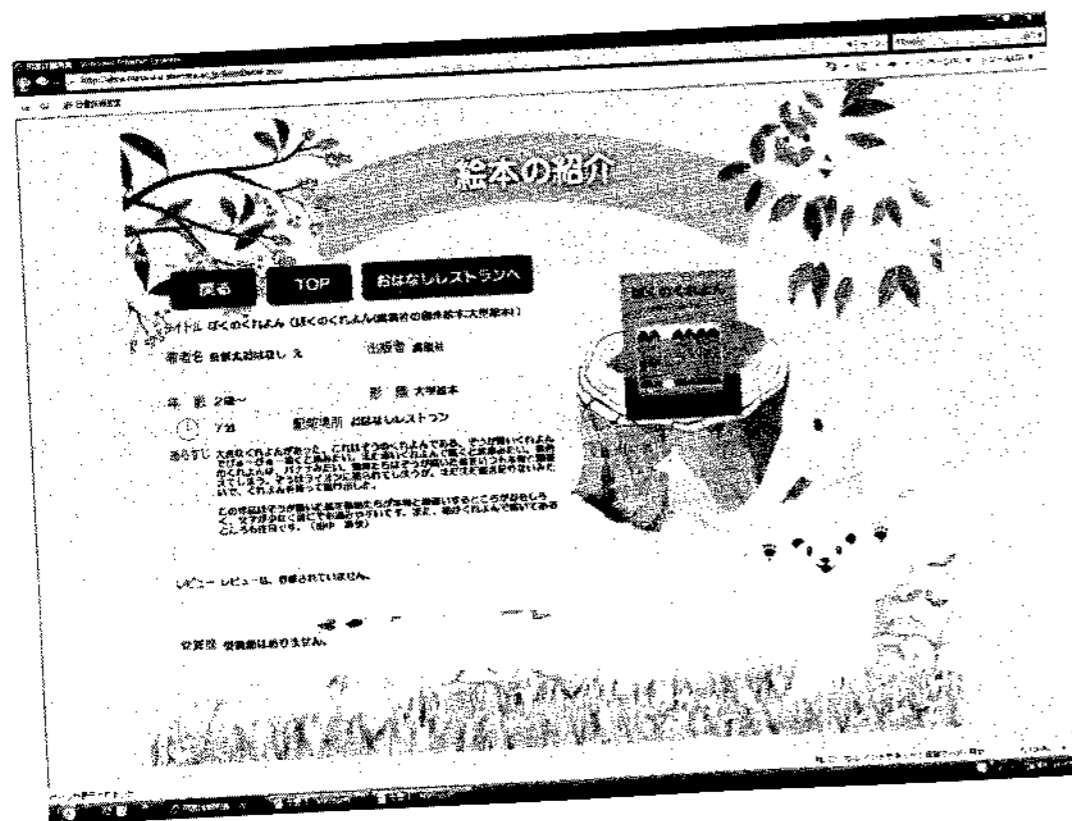
絵本データベースの検索画面には、おはなしレストランのホームページから入ることができる。検索方法については、検索画面にしたがって以下に記す。



絵本の検索は、書名、著者名から行うほか、年齢（赤ちゃん、2歳～、3歳～、4歳～、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年）、形態（絵本以外、絵本、大型絵本、仕掛け絵本、紙芝居、その他）、年中行事（節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、クリスマス）からも行うことができる。



例えば、年齢で「2歳～」を選択すると、上記のような画面が出る。1ページに6冊ずつ絵本が表示され、絵本の表紙、タイトル、著者名、出版者、読み聞かせにかかる時間(分)が示される。絵本の表紙をクリックすると、下の画面の通り、その絵本についてより詳細な情報が得られる。
なお、絵本の表紙を掲載するにあたっては、出版社から了解を得ている。



2. ホームページの活用

おはなしレストランでは、ホームページを開発して積極的に活用している。

ホームページの内容は、次の8項目で構成している。

①おはなしレストランって?

おはなしレストランの取組の活動目的、活動内容、沿革などについて。

②おはなしレストランライブラリー

おはなしレストランライブラリーの特色や業務内容などについて。

ライブラリーのカレンダーは、利用者の便を図って、おはなしレストランライブラリーのページを開かなくても見ることができるように、ホームページの「HOME」に掲示した。

③お知らせ・イベント

おもにおはなしレストランライブラリーの休館告知や読み聞かせのイベントのお知らせに利用している。

④活動記事&コラム

学生が学外で読み聞かせを行う「出前シェフ」、おはなしレストランライブラリーで行う「おはなしの時間」、また、学外からのライブラリー見学の様子など、おはなしレストランの取組全般に関する記事を随時更新している。

⑤絵本データベース

おはなしレストランライブラリー蔵書の絵本について、書誌情報やあらすじ、読み聞かせにかかる時間(分)などについてデータベースを作成し、ホームページから閲覧できるようになっている。学生はもちろん、一般の方々にも絵本の読み聞かせなどで利用してもらいたい。(詳細は本書の「絵本データベース」の章を参照のこと)

⑥出前おはなしシェフ

学生が地域の要望に応じて出かける「出前シェフ」の紹介、申し込み方法などについて。

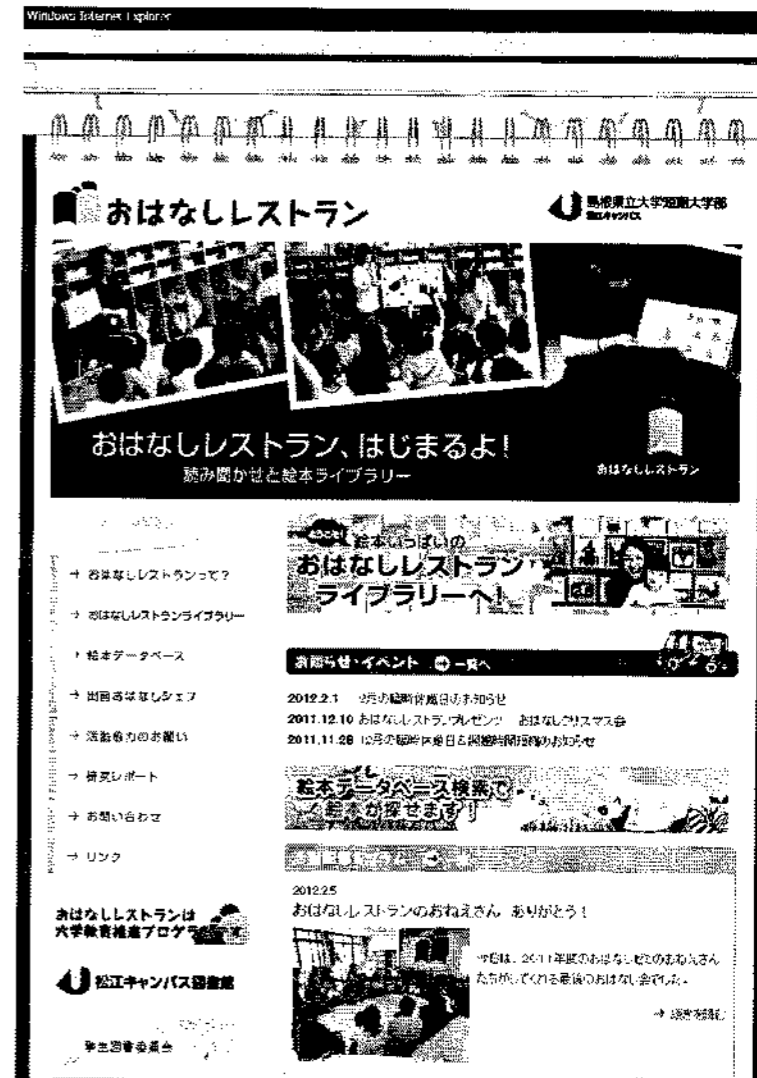
⑦活動協力をお願い

読み聞かせやライブラリーでの活動を通して、子どもたちにおはなしの素晴らしさを伝え、子どもと大人のかけ橋になるという、おはなしレストランの趣旨に賛同していただける方への、読み聞かせ等の活動への協力をお願い。

⑧研究レポート

おはなしレストラン担当の教員や司書が書いた、読み聞かせの活動報告や図書館視察の報告を掲載する。

⑨お問い合わせ



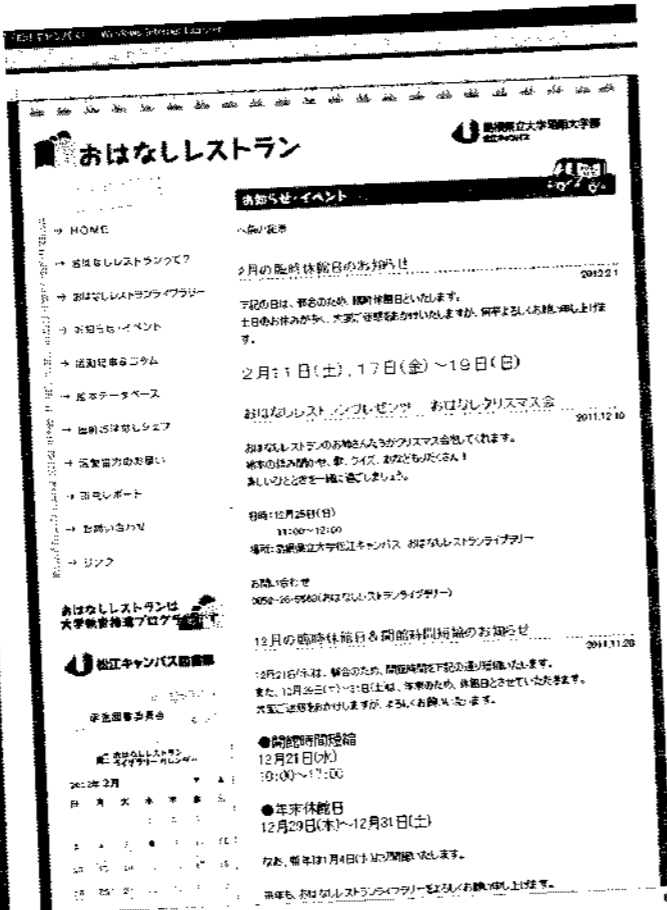
問い合わせのメールアドレスを掲示。

⑩リンク

「島根県立大学短期大学部松江キャンパス」「松江キャンパス図書館」「松江キャンパス学生図書委員会」のほか、「京都造形芸術大学芸術文化情報センター ピッコリー（子ども図書館）」をリンク先に指定している。



「活動記事&コラム」のページ



「お知らせ・イベント」のページ



第5章

レストランの 素材の充実

第5章 レストランの素材の充実

第1節 おはなしレストランライブラリー

本学では、GP選定に伴い、おはなしレストランの取組の素材となる絵本を有効に活用するため、絵本専門の図書館「おはなしレストランライブラリー」を新たに設置した。

専任司書2名を配置し、平成22年度は学内関係者の利用に限定していたが、平成23年4月より一般開放に踏み切った。土・日曜日の開館、特に日曜日は学生による読み聞かせを毎週開催するなどの工夫もあって、一般の皆さまの利用数は学生の利用数を上回るほどになっている。平成23年度の月ごとの平均利用人数は学内外を合わせて1,280名、平均貸出冊数は2,240冊となっている。蔵書数は平成23年度末で1万冊を目標に掲げていたが、6千冊に止まっている。絵本の貸出は常時1,400冊あり、慢性的に本が不足している状態なので、まずは当初の目標である1万冊を目指して蔵書の増加に努めていきたい。



絵本は長く読み継がれているものを中心に赤ちゃん絵本から読み応えのある絵本まで幅広く取り揃え、そのほか、岩波少年文庫をはじめとする児童文学や紙芝居、本学教員が推薦する本などを並べている。絵本の配架にあたっては、できるだけ表紙が見えるディスプレイを心がけ、絵本を見開きで展示するための書見台も用意した。書架もテーブルも床もすべて木製で、木のぬくもりの感じられる一室である。土足は禁止しており、子どもたちも床に寝そべて絵本を読むことができる。

司書の2名は、来館者への丁寧な対応とサービスに心がけ、特に小さなお子さん連れには安全に気をつけ、快適で安心して利用していただけるライブラリーづくりに努めている。また、学生図書委員の協力も大きく、「おはなしマラソン」や「図書館クイズ」など、学生ならではの創意工夫を凝らした企画によって、おはなしレストランライブラリーの利用を盛り上げてくれている。

おはなしレストランライブラリーでは、学生と一般の方々が入り混じっていることがよくある。小さな子どもが来ると、学生から近づいて話しかけ、時にはお母さんに代わって子どもの相手をすることもある。お母さんがその学生にお礼を言われることもある。おはなしレストランライブラリーならではの光景である。地域との交流とは、まさにこのようなことを言うのだと思う。

おはなしレストランライブラリーの利用について

開館時間：水～金曜日 午前10時～午後6時、土・日曜日 午前10時～午後5時

休館日：月・火曜日、祝日、年末年始、その他

貸出：貸出冊数は1人5冊まで、貸出期限は2週間

その他：貸出カード作成は住所の分かるものを提示していただければどなたでもOK。

未就学のお子様は保護者同伴であること。

館内での飲食、携帯の通話利用は不可。

第2節 司書業務内容

1. 目録・登録作業

購入・寄贈された図書は、目録システム（全国の大学図書館等にどのような図書・雑誌が所蔵されているかが分かる総合目録データベースを構築するためのシステム）への書誌登録・所蔵登録をする。書誌登録は、データベース内にデータがない場合のみ行う。総合目録データベースで、データを流用・新規作成する際には、必ず間違いがないかどうかコーディングマニュアルで確認をしてから登録するようにしている。作成したデータに間違いがあった場合、検索にヒットしない・データが重複してしまうなど、他の大学にご迷惑をおかけする可能性があるため、必ず確認をするようにしている。

書誌登録・所蔵登録したデータは、ダウンロードして図書システムやOPACで活用する。図書システムでは、受入日、予算区分、価格、貸出区分、分類等の登録をし、背ラベルを印刷する。

2. 図書整備

目録・登録作業を終えた本は、背ラベルと色分けシール（絵本のみ）を貼り、本が傷まないようにコーティングをする。本来は本のカバー全体にコーティングをすることが望ましいが、予算の都合上、傷みやすい上下と折り返し部分のみコーティングをしている。色分けシールは、子どもたちが絵本を探しやすいように、また、棚に戻しやすいようにするために貼っている。色分けは、「赤：あかちゃんえほん」「黄：ちいさいえほん、いわなみこどもえほん」「緑：ことば・ちしきえほん」「青：むかしばなし」「水色：にほんのえほん」「桃：せかいのえほん」としている。にほんのえほん・せかいのえほんは、画家名の50音順で配架しているため、シールに画家名の頭文字をひらがなで書いている。

3. カウンター業務

図書の貸出・返却の処理、予約本の受け付け、利用者登録、利用状況の記録をする。カウンターでは、「学生」「教職員」「一般」に分けて、一日の来館者数や貸出冊数を記録している。臨時休館で貸出期間が通常と異なる際は、カレンダーや返却日しおりをお渡しするだけでなく、口頭でもお伝えするようにしている。

また、来館された方へは必ず声かけをする。子どもたちには名前を呼んで声をかけるようにし、親子が親しい図書館になるように心がけている。

4. 図書の選書・発注

定評のある本や、長く読みつがれている本を入れるようにしている。教員からの推薦や、利用者の方からの「この本が読みたい」という声も参考にしている。

蔵書冊数1万冊をめざしているが、現在の蔵書冊数は6千冊程度（2012年1月現在）。お正月や節分などの年中行事に関する絵本の問い合わせも多くいただくが、まだ数が少なく、ご希望に添えないこともある。また、複本がほとんどないため、人気のある絵本は予約をさせていただき、しばらくお待ちいただくこともある。予約がよく入るものや、問い合わせの多いものについては数冊複本を入れているが、それでも間に合っていない。ライブラリーに所蔵していない本で、購入したい本も多いため、兼ね合いが難しい。

5. おはなしのじかん

毎週日曜日、午前11時からおはなしゼミの学生による「おはなしのじかん」を開催している。最初は午後2時から開催していたが、午後の部は来館者が少なく、読み聞かせが難しいため、午前の部1回だけに変更した。来館者への告知、学生や子どもたちの様子の撮影、担当した学生・読んだ本・つなぎ（手遊び・クイズなど）の記録をしている。来館者へは、カレンダーやHP、口頭でお知らせするほか、おはなしゼミの学生が毎月作成しているチラシでもお知らせしている。チラシは、ぬりえになっていて、子どもたちから喜ばれている。おはなしのじかんの最中に来てくれた子どもたちや、後ろの方にいる子どもたちにも、「お姉さんが絵本読んでくれるよ」「前に出てきていいよ」などと声かけをしている。学生が大型絵本を使用する場合など、必要に応じて学生の手伝いもする。学生の都合がつかない日は、司書がおはなしのじかんを担当する。おはなしのじかん終了後、学生が読んだ絵本を展示（次回のおはなしのじかんまで）している。



6. レファレンス

レファレンスでは、「乗り物の絵本」「動物が出てくる絵本」などといった具体的な質問の他に、ご家庭で読む本や読み聞かせのボランティアで使う本で、年齢に合ったオススメの本を尋ねられることも多い。「何かオススメはないですか?」という質問があったときは、どんなものに興味があるのか、どんな絵やおはなしが好きなのかを質問しながら利用者と一緒に絵本を選ぶようにしている。



6月展示「あめ」

おはなしレストランライブラリーのかわいい先生たち

おはなしレストランライブラリー司書
尾崎 智子

司書さん。尾崎さん。先生。おはなしレストランライブラリーでは、利用者さんや学生たちからいろいろな呼び方で呼ばれる。お姉さんと呼ばれる歳ではないが、気をつかってお姉さんと呼んでくださる方もおられる。どの呼び方も嬉しいが、先生と呼ばれるのはなんだか申し訳ない気がする。この1年間、子どもたちから教えてもらったことが山ほどある。先生は、私より、子どもたちだ。

『ちか100かいだてのいえ』のビッグブックを4歳の男の子と読んだときのこと。読み終わっても、「読んでー」と言ってくれる。なんと、10回も読んだ。そんなに読んだら飽きると思われるかもしれないが、そんなことは思わなかった。むしろ、楽しくてしょうがなかった。「こんなところで寝てる」「この階段こわれそう」など、何回読んでも、発見の連続だった。1人で読んでいては気がつかないことばかり。意味などを考え、純粋に絵本を楽しむことができないとき、子どもたちは、ワクワクしたり、笑ったり、素直に絵本を楽しむ気持ちを思い出させてくれる。

絵本の中の世界が、日常の生活に広がることを、お母さんたちから教えてもらった。『めっきらもっきらどおんどん』という子どもたちに大人気の絵本がある。3歳の男の子は、この絵本が大好きで、お母さんは毎日読んでおられた。あるとき、お母さんが、息子さんに怒ったら、「だめだ！それをいったらおしまい」と言ったのだそうだ。このセリフは、絵本の中に出てくる言葉とまったく一緒。お母さんはつつい笑ってしまったそう。私は、この仕事をさせてもらって、誰かに何かを教えたいと思ったことはない。でも、「絵本のある生活って楽しいんだよ」ということを伝えたいと思う。その思いを強くしてくれた出来事だった。その他にも、絵本にまつわる楽しいエピソードをたくさん聞くことができた。そんな絵本を見るたび、幸せな気分になる。

学生が絵本を読んでもくれる時間があること。おはなしレストランライブラリーの魅力のひとつだ。毎週日曜日に、おはなし会をしてくれたおはなしゼミのみなさん。毎回子どもたちが楽しく参加できるおはなし会を開いてくれた。おはなし会の時間、子どもたちはとびきりの笑顔を見せてくれた。毎週私も楽しみだった。おはなし会がなければ、日曜日の利用者は増えなかつたらう。感謝の気持ちでいっぱいだ。

一般開放が始まる前、「ほっとできる、笑顔のあふれるライブラリーにしたい」と思っていた。ライブラリーでは、泣き声や怒った声はあまり聞こえてこない。笑い声や楽しくおはなしする声がたくさん聞こえてくる。絵本を読んでいるお母さんの表情も優しい。子どもたちはその表情を見て、安心するのだろう。利用者さんや学生たちのおかげで、「こういうライブラリーにしたい」と意識しなくても、優しい雰囲気のレストランライブラリーになったと思う。

子どもたちからいろいろなことを教わったが、ライブラリーは始まったばかり。かわいい先生たち。これからはビシビシ鍛えてくださいね。



利用者の皆さんと一緒に作るライブラリー

おはなしレストランライブラリー司書
内田 絢子

一般の方への貸出を開始して、もうすぐ1年になる。司書としての勤務経験が全くなかったため、全てが初めてのことばかりで、最初は戸惑うことばかりだった。今では、学生や子どもたち、お父さん、お母さん、読み聞かせボランティアの方などたくさんの方に利用させていただいており、ありがたく思っている。私たち司書と学生や一般の方との交流はもちろん、学生と一般の方、一般の方同士の交流も見られるようになった。「本と人との出会いだけではなく、人と人との出会いの場になってほしい」という準備の段階から抱いていた願いが、少しずつ実現していくのを見ることができ、嬉しい毎日だ。

この1年を振り返って真っ先に思い出すのが、ライブラリーの一般開放が始まってすぐ、お母さんと一緒にライブラリーに来てくれた3人兄弟の男の子のこと。お兄ちゃんたち2人が代わる代わる絵本を持ってきてくれて一緒に絵本を読んで楽しいひとときを過ごしたのだが、後日、さらに嬉しいことがあった。本を返しに来てくれたとき、1番上のお兄ちゃんが「絢子姉ちゃん、絵本読んで！」と声をかけてくれたのだ。男の子のお母さんにも「ずっと絢子姉ちゃん、絢子姉ちゃんって言っていたんです」と教えていただき、感動した。一緒に絵本を読んだのは短い時間だったが、名前まで覚えて会いに来てくれたことが嬉しかった。こうした出会いを重ね、今では、常連の利用者さんも多くなっている。

先日、来館して下さったお母さん2人が「学生さんが子どもたちと遊んでくれるから、ゆっくり絵本が選べて助かる」「子どももお姉さんたちに会えるのを楽しみにしている」というお話を聞いていらっしやるのを耳にした。こちらから学生に声をかけたわけではなく、学生たちの方から自主的に子どもたちと絵本を読んだり、遊んだりしてくれている。見ているこちらも自然と笑顔になれる、心温まるひとときだ。ある日、最近絵本を借りに来て下さるようになった女の子のお母さんからこんな言葉をかけていただいた。「前回初めて来て、なんて居心地が良いんだろうって思いました。これからも通わせてもらいます」。思わず涙が出そうになるほど嬉しかった。ライブラリーの雰囲気は、私たち司書だけではなく、来館して下さる方々も一緒になって作って下さっているものだと思う。子どもたちにいつも笑顔で接してくれる学生たち、学生や私たち司書に温かい言葉をかけて下さる一般の方々、いつも元気な笑顔を見せてくれる子どもたち。利用して下さる方々に支えていただいております。おはなしレストランライブラリーは成り立っているのだと改めて感じた言葉だった。そして、これからは居心地が良いと思っただけの場所にしていきたくいと、強く思った。

たくさんの方に支えられたこの1年。おはなしレストランライブラリーは、利用して下さる人たちと一緒に作っている図書館だ。おはなしレストランライブラリーと一緒に、私自身も司書として成長していきたいと思っている。



第3節 利用実績…入館者数、貸し出し冊数

おはなしレストランライブラリー入館者数・貸出冊数一覧(2011年4月～)

月	第1週							第2週							第3週							第4週							合計			
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計
学内	111	90	177					37	45	44	25	48	72	3	72	3	72	3	41	47	22	142	178	48							1,290	
一般	50	36	91					39	46	47	73	97	3																		1,984	
合計	161	126	268					76	91	91	121	175	6	72	3	72	3	41	47	22	142	178	48								2,274	
1日～13日は、学生一般の区別なし																																
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計
学内	15	14	22	3	2	50		13	32	25	10	4	53																		381	
一般	10	8	11	0	3	39		16	23	24	0	3	27																		277	
合計	25	22	33	3	5	89		29	55	49	10	80	80																		658	
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計
学内	3	0	3	58				40	23	17	10	3	56																		566	
一般	3	6	3	41				52	26	6	17	4	17																		1,025	
合計	6	6	6	99				92	49	23	17	21	73																		1,591	
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計
学内	29	184	196	41				70	74	66	212	173	20																		2,569	
一般	29	184	196	41				70	74	66	212	173	20																		2,569	
合計	58	368	392	82				140	148	132	384	393	40																		5,138	

おはなしレストランライブラリー入館者数・貸出冊数一覧(2011年4月～)

月	第1週							第2週							第3週							第4週							合計				
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土					
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計	
学内	10	17	17	19	8	2	55	10	7	5	7	5	1	3	7	1	3	7	1	3	7	1	3	7	1	3	7	1	3	7	1	3	190
一般	0	10	8	15	8	0	2	2	3	2	3	2	2	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84		
合計	10	27	25	34	16	2	57	12	10	7	10	7	3	11	11	1	1	7	1	3	7	1	3	7	1	3	7	1	3	7	274		
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計	
学内	5	5	5	3	3	3	6	3	6	3	6	4	4	2	12	4	2	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	128	
一般	2	6	6	3	3	3	6	22	32	0	11	18	0	3	6	6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	208		
合計	7	11	11	6	6	6	12	25	38	3	23	18	4	8	12	10	4	4	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	236		
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計	
学内	12	9	21	0	7	10	6	44	14	14	32	5	3	59																	549		
一般	9	21	0	7	10	10	10	10	8	5	1	5	23																		467		
合計	21	30	21	17	20	20	16	54	22	19	37	28	28	82																	1,016		
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計	
学内	12	9	21	0	7	10	6	44	14	14	32	5	3	59																	549		
一般	9	21	0	7	10	10	10	10	8	5	1	5	23																		467		
合計	21	30	21	17	20	20	16	54	22	19	37	28	28	82																	1,016		

第4節 利用者の声…アンケート結果

おはなしレストランライブラリーでは、以下の要領でアンケート調査を実施した。
 目的：おはなしレストランライブラリーを一般に開放した初年度を終えるにあたって、一般利用者のライブラリーに対する声を聞き、今後のライブラリーづくりに役立てるため。
 対象：おはなしレストランライブラリー一般利用者
 実施時期：平成24年1月4日～1月31日
 回収部数：65部

『おはなしレストランライブラリー』ご利用者アンケート

(1)～(4)については該当する番号に○を、(5)～(7)については自由記述でお答えいただきますようお願いいたします。

- (1) ご記入いただいた方の年齢
 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上
- (2) お子様の年齢
 ①0歳 ②1歳 ③2歳 ④3歳 ⑤4歳 ⑥5歳 ⑦6歳 ⑧小学生
 ⑨中学生以上
- (3) お住まい
 ①松江市内 ②その他 ()
- (4) おはなしレストランのご利用回数
 ①月1回 ②月2回 ③月3回 ④月4回 ⑤その他 ()
- (5) おはなしレストランライブラリーのここが好き！(複数回答可)
 ① 本の充実
 ② 雰囲気
 ③ 司書の対応
 ④ その他 ()
- (6) おはなしレストランライブラリーで出会ったお気に入りの絵本があれば、お答えください。
- (7) 日曜日の11時から行われている「おはなしの時間」について、よろしければご感想をお聞かせください。
- (8) ご意見、ご要望等がございましたらお願いいたします。

ご協力、ありがとうございました。

おはなしレストランライブラリー入館者数・貸出冊数一覧(2011年4月～)

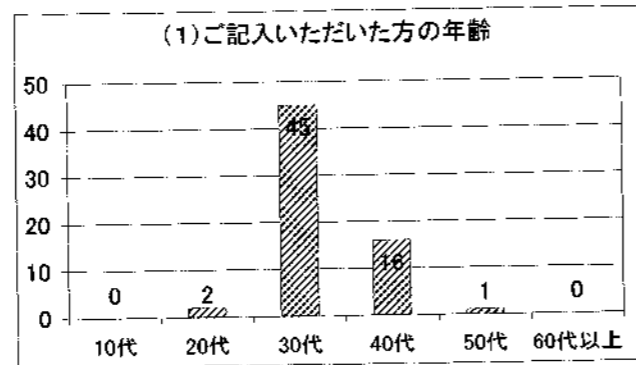
12月	第1週							第2週							第3週							第4週							合計		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29	30
学内 人数	26	30	8	4	61	45	20	23	7	7	63	46	18	39	12	6	57	26	31	26	31	0	0	11	8	8	8	8	566		
学内 冊数	22	10	11	0	33	25	17	25	3	1	42	26	19	26	0	11	35	29	29	18	18	30	0	5	4	13	33	375			
一般 人数	16	40	95	51	1	77	28	13	43	90	0	15	12	8	29	53	0	87	105	87	105	132	202	0	0	121	41	1768			
一般 冊数	18	29	76	84	5	37	118	54	156	246	0	44	20	19	89	144	3	44	61	44	61	132	202	0	0	41	64	1351			
合計 人数	42	70	117	55	62	122	48	36	50	97	63	61	30	47	41	59	57	116	123	116	123	132	202	4	4	134	248	2144			
合計 冊数	40	38	87	84	38	62	135	79	159	247	42	70	39	45	69	155	38	87	116	161	251	51	96	24	83	248	28	3385			
1月	第1週							第2週							第3週							第4週							合計		
学内 人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
学内 冊数	0	0	0	0	22	0	6	4	4	24	25	39	7	1	35	56	32	20	34	4	4	62	44	40	48	44	40	48	3	64	543
一般 人数	5	12	28	34	119	25	10	15	31	64	2	15	19	27	58	95	0	15	19	27	58	95	0	0	6	11	6	11	674		
一般 冊数	21	37	60	116	351	95	38	31	92	170	5	44	20	19	89	144	3	44	61	44	61	132	202	0	0	69	18	26	1988		
合計 人数	7	14	45	48	123	62	36	43	37	88	58	61	30	47	41	59	57	65	87	116	161	251	51	96	24	83	86	64	1217		
合計 冊数	21	37	82	122	352	62	135	79	159	247	42	70	39	45	69	155	38	87	116	161	251	51	96	24	83	248	28	3385			
2月	第1週							第2週							第3週							第4週							合計		
学内 人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
学内 冊数	33	36	31	6	16	68	33	28	28	6	4	56	32	20	34	4	4	62	44	40	48	44	40	48	44	40	48	3	64	543	
一般 人数	55	47	85	13	4	26	29	26	17	0	0	47	29	26	17	0	0	47	29	26	17	0	0	47	29	26	17	0	0	397	
一般 冊数	67	0	29	196	225	3	95	38	31	92	170	5	44	20	19	89	144	3	44	61	44	61	132	202	0	0	69	18	26	1988	
合計 人数	51	38	41	67	99	69	62	36	43	37	88	58	61	30	47	41	59	65	87	116	161	251	51	96	24	83	86	64	1217		
合計 冊数	122	47	114	209	220	29	62	135	79	159	247	42	70	39	45	69	155	38	87	116	161	251	51	96	24	83	248	28	3385		
3月	第1週							第2週							第3週							第4週							合計		
学内 人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
学内 冊数	33	36	31	6	16	68	33	28	28	6	4	56	32	20	34	4	4	62	44	40	48	44	40	48	44	40	48	3	64	543	
一般 人数	55	47	85	13	4	26	29	26	17	0	0	47	29	26	17	0	0	47	29	26	17	0	0	47	29	26	17	0	0	397	
一般 冊数	67	0	29	196	225	3	95	38	31	92	170	5	44	20	19	89	144	3	44	61	44	61	132	202	0	0	69	18	26	1988	
合計 人数	51	38	41	67	99	69	62	36	43	37	88	58	61	30	47	41	59	65	87	116	161	251	51	96	24	83	86	64	1217		
合計 冊数	122	47	114	209	220	29	62	135	79	159	247	42	70	39	45	69	155	38	87	116	161	251	51	96	24	83	248	28	3385		
2011年4月1日～1月31日までの合計人数	12,737人																														
合計冊数	22,517冊																														

『おはなしレストランライブラリー』ご利用者アンケート

(1) ご記入いただいた方の年齢

来館者の70.3%が「30代」と最も多く次いで「40代」25%であった。
尚、「20代」は、わずか3.1%であった。

10代	0	0.0%
20代	2	3.1%
30代	45	70.3%
40代	16	25.0%
50代	1	1.6%
60代以上	0	0.0%
計	64	

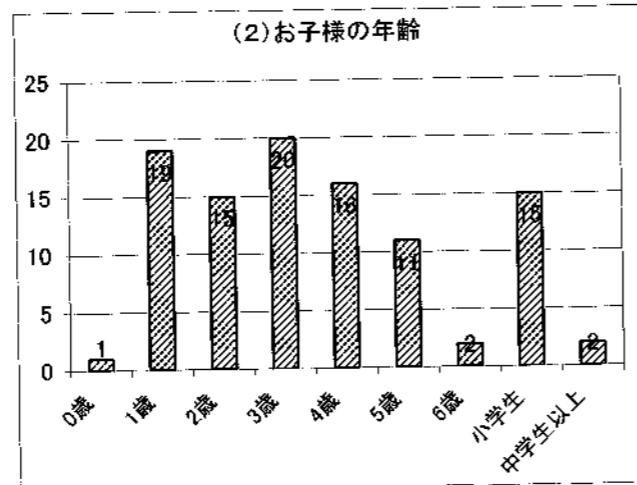


(2) お子様の年齢

来館者のお子さんの80.2%が1歳から5歳の幼児でその中で最も多かったのが「3歳」、次いで「1歳」、「4歳」、「2歳」と続いた。

「小学生」については「2歳」と同数の14.9%であった。

0歳	1	1.0%
1歳	19	18.8%
2歳	15	14.9%
3歳	20	19.8%
4歳	16	15.8%
5歳	11	10.9%
6歳	2	2.0%
小学生	15	14.9%
中学生以上	2	2.0%
計	101	

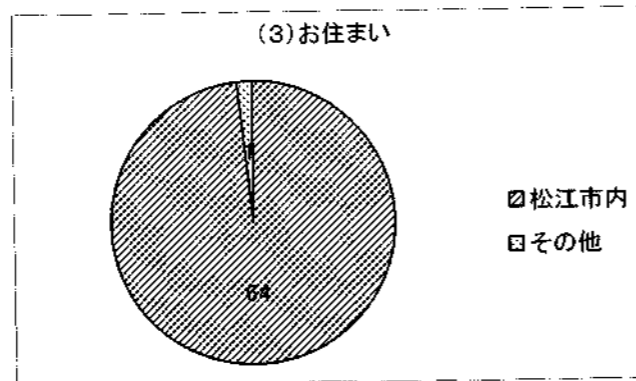


(3) お住まい

来館者の大半が98%で「松江市内」であった。

学外での活動が市内と多いこともあるが、メディア等にも取り上げられている割には市外の来館者が少なかった。

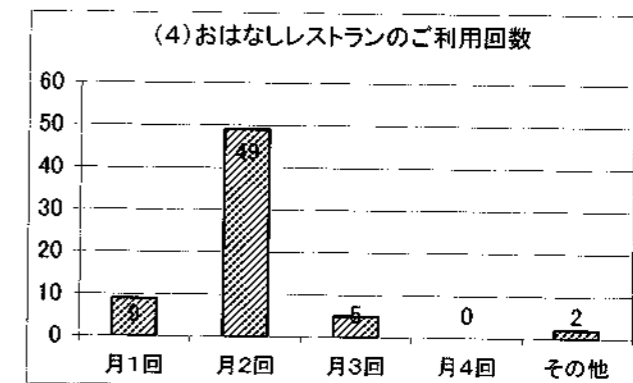
松江市内	64	98%
その他	1	2%
計	168	



(4) おはなしレストランのご利用回数

ご利用回数は「月2回」の75%が最も多く、次いで「月1回」14%、「月3回」8%であった。
本の貸し出し期間が2週間ということから定期的に通っていただいていることがうかがえる。

月1回	9	14%
月2回	49	75%
月3回	5	8%
月4回	0	0%
その他	2	3%
計	65	

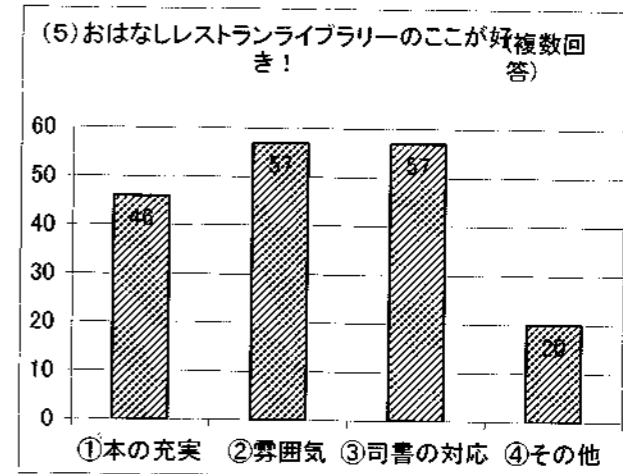


(5) おはなしレストランライブラリーのここが好き！(複数回答)

お話しレストランの魅力として「雰囲気」「司書の対応」が最も多く、次いで「本の充実」であった。

その他の意見や自由回答のところでも「雰囲気」や「司書の対応」についてもたくさんのよい意見をいただいている。

①本の充実	46
②雰囲気	57
③司書の対応	57
④その他	20



その他の意見

- ◆施設環境について
 - 駐車場が広く、時間も限られていないのでゆっくり選べる。
 - 親子で気兼ねなく利用できる、本も図書館もきれいで清潔☆毎回来るのが楽しみ。
 - 本がきれい。くつめぐので小さい子が利用するのに便利。
 - 子どもが騒いでも気にならないところ。
 - 多少子どもが騒いでもOKなところ。
 - 子ども達が自由に選んで、自由に絵本を読める雰囲気が大好きです。より本が好きになったように思います。
 - 家に近い。
 - 見やすく選びやすい。
 - ゆっくり本が読める。
 - 駐車場がある。家から近い。
 - 床が暖かい。過ごしやすい。
- ◆収蔵書について
 - 絵本がきれい。
 - 子供に読ませたい本だけが並べてあるので大変助かっています。
 - 本が新しくきれい、探しやすい。
- ◆取り組みについて
 - 学生さんの読み聞かせなど、大学の図書館を生かした取り組み、とてもよいと思います。
- ◆スタッフ対応について
 - 毎回来るたびに話しかけてもらって、子どもも司書のお姉さんが大好きで来るのを楽しみにしています。
 - おすすめ絵本を紹介してもらえる。
 - 「本の充実」「雰囲気」もちろんですが、「司書の対応」はこのライブラリーの一番の魅力です！！来やすい雰囲気にして頂いて、本当に感謝しています。
 - 司書さんが子どもにかかわってくださるのがうれしいです。

(6) お気に入りの絵本

『3匹のくま』『だんまり』『かんかん電車がくるよ』『おにぎり』『ちか100かいだてのいえ』『ジャックと豆のつる』
『ブレーメンの音楽隊』『ぶんとくちゃんのぼうし』『たろうのともだち』
『おかあさんがおかあさんになった日』『わたしのおべんとう』『まぐらのせんじん』『だるまだ』『むしプロ』
『ウェズレーの国』『おさるのジョージ』『100かいだてのいえ』『サーカスがやってきた』
『ペカンの木のぼったよ』『めっきらもつきらどおんどん』『わたしのワンピース』『てぶくろをかいに』
『おへそのあな』『よるとひる』『のりものずかん』『子ども育てる魔法のことば』
『なんでしょなんでしょ』『いいからいいから2』『にたものランド』『まり』
『セビーのぼうけん』『きよだいなきよだいな』『しろくまちゃんばんをかいに』
『ゆうこのキャベツぼうし』『あいさつの絵本』『おしくらまんじゅう』『カンカンカン』
『あつちゃんあがつく たべものあいさつ』『くだもの』『しろくまちゃんシリーズ』
『むしプロ』『ふゆじたくのおみせ』『おおきなクマさんとちいさなヤマネくん』『どろんこハリー』
『むかしむかしとらとねこは』『ふたごの木』『ごんぎつね』『はなたれこぞうさま』『もったいないばあさん』
『のろまなローラー』『ピンポンパス』
『おさるのジョージシリーズ』『14ひきシリーズ(いわむらかずおさん)』『だるまさんが・・・(かがくいひろしさん)』
『ねえ、ほんとにたすけてくれる?』『パパカレー』『ちょっとだけ』『さっちゃんのまほうの手』
『びよーん』『葉虫』『どうぶつえんのピクニック』

(7) おはなしの時間について

◆日時について

午後も開催して欲しい。

日曜日と言うことなかなか来れないのですが、先月一回初めて参加させて頂き、参加型のお話会で子供達も興味深々。

時間的な面で丁度良いと思います。

もう少し早い時間(10:30〜とか)があるとうれしいです。

知らない本でもいい本を知る機会になっている。学生さんや司書さんとの楽しい時間。この時間帯がちょうどいいです。

時間が合う時はきかせてもらってます。新しい絵本と出会えるのでとても楽しいです。

下の子(5歳)にはちょうどいいのですが、上の小学生の子には手あそびなどの時間が合わないようで、来たり来なかつたりです。絵本の読み聞かせは好きなので、2、3年前だったら、毎週のように来たと思います。

日曜日はなかなか出にくい事が多い、1度しか拝見した事がないのですが、絵本だけではなく、ちょっとした出し物(?)のようなものもあり、いいと思います。平日に小さい子供向けのものもあればいいなあと思います。(学生さんは授業があるのでむずかしいと思いますが)

◆参加したことがない

まだ言ったことが無いので、是非行ってみたいです。

まだ行った事はありません。今度、是非!!

一度も参加したことがないです。

まだおじゃました事はありません。

まだ参加した事がないので、今年は参加してみようと思います。

まだ参加した事はありません。次回参加させて頂きます。

いつも参加したいと思いつつ、まだした事ありません。いつか必ず!「英語のおはなし会」も気になっていました

が…最近ないですね。

参加した事ありません。

参加できてません。

なかなか来る機会がないので、今度はぜひ参加してみたいです。

来たことがないです。すみません。一度、ぜひおじゃまさせて下さい。

◆内容の評価について

一度しか来ていませんが、学生さんのおはなしに興味もてるようでよかったです。

なかなか時間が合わず、一度しか(夏ごろ)参加した事ありませんが、楽しかった…記憶があります。

楽しみにしています。工夫がしてあり(つなぎの出し物)子どもは喜んで参加しています。

2度来ました。お姉さんたちがいろいろ工夫しておられ、たのしかったです。

子供がとてもよこんで聞いています。おはなしだけでなく、ゲームもありたのしいです。

1度だけ参加しましたが、子どもたちもとてもよこんで楽しませていただきました。

毎回楽しみにしています。手あそびとか子どもが喜んでます。普段選ばない本とかの読み聞かせがあり、参考になります。

手遊びやゲームは少し恥ずかしいところがある。

英語の読み聞かせもあつたりと様々あり楽しめます。

楽しいひとときです。手あそび等もあつておもしろい。

楽しませていただいております。

とてもいい企画だと思います!クリスマスの劇もおもしろかったです。

毎週楽しみにしています。

お話し会はもちろん、クイズなどもあり、工夫してもらつており、子ども達も楽しみにしています。

学生さんが一生懸命やってくれていていつも楽しみにしています。来るたびに子どもの反応が違つていて成長を感じることもできてうれしいです。歌やクイズも好きです。

いつも楽しく参加させてもらっています。

なかなか集中して聞けないわが子ですが、途中の手あそびを喜んでます。

絵本だけでなく手遊びも教えてもらえるので、とてもたのしみにしています。夫と子どもと一緒に出かけられる場所として、利用させてもらっています。

(8) ご意見・ご要望

これから長く利用されていく図書館なので、利用者も本を大切に扱いたいと思います。おはなしレストランという名前はとても素敵だと思います。

大人の本がたくさんあると良いです。

とても雰囲気がいいです。

部屋の雰囲気がとてもよく、落ちついて本を選ぶ事ができます。本が新しく綺麗なので気持ちが良いです。

外国の本や、大きい本等多様な本が多くあり、毎回楽しみながら選ばせてもらっています。

本が充実していることとアットホームなふんいきがとてもいいです。これからも利用させていただきます。

福音館書店の古典童話シリーズなどの本を入れていただけるといいと思います。

きれいだし司書さんとても感じがいいので気分がいいです。

こじんまりとしている所がブラバと違って好きなので、あまり人が集まりすぎないこのままが好きです。(時間によると思いますが)

司書さんやお姉さん達が子どもや親にも声をかけてくれ、他の図書館にない雰囲気で、とても利用しやすいです。

離乳食の本がもっと見たいな。平日にもおはなしの時間が時々あるとうれしいです。

司書さんや学生さんが子ども1人ひとりに話しかけてくれるので、子どももとても喜んでます。長期休館(年末年始など)の時は、貸出冊数を1人、8~10冊くらいにしてもらってもいいかと思つています。

利用されていた学生さんの雑談で意見が聞こえた時に気になるような話をされていたことがあつたので、気をつけられた方がいいと思つています。

「タンタン」シリーズを増やしてもらいたいです。

また英語の絵本の読み聞かせがあればと思います。(日曜日だと参加しやすいです)

いつも司書さんが優しく接してくださるので嬉しいです。

見やすくディスプレイしてあるので、他の図書館ではなかなか目にとまらない絵のキレイな絵本がたくさん見つかるので、親の私が楽しくなつてしまいます。これからもよろしくお願ひします。

いつも楽しく利用させて頂いています。丁寧に対応して頂き、とても参考になります。人気のものの冊数が増えると、ありがたいなあ…と思つています。

シリーズ物ももっと充実してくれたら嬉しいです。(クレヨンクロくんシリーズ、どんぐりむらシリーズ他)予約等もいつも親切に対応して頂いて助かっています。

いつもありがとうございます。

大型絵本も貸し出しをして欲しいです。

普通の図書館だと、子どもが騒ぐのがとても気になりますが、おはなしレストランだとそこまで気をつかわずありがたいです。近所にこのような場所があり、本当にありがたく思っています。

第5節 学生図書委員会の活動

島根県立大学松江キャンパスでは、学生図書委員会が、図書館と学生のパイプ役となって、学習や研究支援のための環境整備や、多様化する学生のニーズに対応するために活動を行っている。平成23年度より、おはなしレストランライブラリーでも活動がはじまった。活動の主な内容は以下のとおりである。

①読書マラソン

1回目 2010年11月1日(月)～12月22日(水) 参加人数 13名 POP数 66枚
2回目 2011年5月9日(月)～11月30日(水) 参加人数 8名 POP数 14枚

松江キャンパス図書館、おはなしレストランライブラリーの本を読んでもらい、POPを書いて提出してもらおうという企画。参加者は松江キャンパスの学生限定。優秀者には、賞品がプレゼントされる。普段、本を読む人も読まない人も、読書マラソンを通して継続的に本を読んでもらいたいという願いをこめて企画された。短い期間だったにも関わらず、この期間は貸出冊数が増え、POPも多く集まった。提出されたPOPを飾ると館内が明るくなり、POPを見て本を手取る人もいた。



②おはなしマラソン

2011年7月16日(土)～8月28日(日)
参加人数 28名 メダル獲得者 10名 POP数 155枚

おはなしマラソンとは、読書マラソンと同じく、ライブラリーの本を読んでPOPを書いてもらうというもの。POPを書いて提出してもらい、スタンプを押し、スタンプが10個たまったら学生図書委員手づくりのメダルとカードをプレゼントする。読書マラソンは、学生限定だったが、おはなしマラソンは、学外にむけて初めての企画。学外に向けて活動することにより、地域とのつながりをもちたいとの思いを込めて企画した。



どなたでも参加OKということだったが、やはり子どもの参加が多かった。学生図書委員の様々なアイデアが素晴らしかった。まずは、

スタンプカードにひもを通し、首からさげるタイプにしたこと。子どもたちは、そのカードを首からさげて、本当に嬉しそうだった。もうひとつは、小さい子でも参加できるように、POPの紙にあらかじめ絵を書き、絵をぬったり、絵をかいてもらってもOKとしたこと。小さな女の子が「見てー」とにこにこの笑顔でPOPを持って来てくれたのが印象に残っている。途中でやめてしまう子もいたが、10枚はちょうどよかったように思う。

参加者の親御さんからは、「子どもたちの真剣な表情をみることでよかった」「絵本を読むのがより楽しそうに見えた」「ひらがなを書く練習になった」など、嬉しい意見をたくさん聞くことができた。スタンプを押して欲しくて、週に何回も来館される方もおられた。来館者人数の増加にもつながった。POPを見られた利用者さんは、「素晴らしい企画。こんなかわいいPOPを他ではみることができない」と喜んでくださった。

③図書館クイズ

2011年12月21日(月)～1月8日(日) 参加人数 18名

おはなしレストランライブラリーにある資料を用いてクイズを解いてもらい、全問正解者には認定書としおりを贈呈する。問題のレベルを1・2・3とし、レベル1は小学生以下、レベル2は1～3年生、レベル3は4年生～を対象とする。レベルごとに、絵本、知識絵本、児童文学、図書館の使い方に関する問題を5問作成する。内容の内訳はレベルごとに異なる。学内、学外問わずどなたでも参加してもらえる。

開催期間が短く、宣伝があまりできなかったのが残念である。小さい子どもには、問題が少し難しかったようで、途中からレベル1よりも簡単なものを1種類付け加えた。しかし、参加してくれた方のほとんどは、「すごく楽しかった、もっとやりたい」と言ってくださった。学生図書委員手づくりのしおりがとても好評で、後日来館して下さったときに持ってきてくれている子どももいた。

おはなしマラソンも図書館クイズも、子どもたちの心に残る楽しい企画だった。司書2人では、できなかった企画だ。その他にも、展示、蔵書点検、POPの作成など、様々な場所で活躍してくれ、おはなしレストランライブラリーになくはならない存在となった。今年度、学生図書委員は、企画をするだけで、学生と利用者の方との交流がほとんどなかったもので、来年度以降は、交流の場を設けることができたと思う。これからも、学生とともに一緒に楽しいライブラリーを作っていきたい。

絵本見てクイズに答えて
専門図書館の利用増狙い

正解者に手作りの贈り物

島根県立大学松江キャンパスの絵本専門図書館で、クイズを解く子どもたち。正解者には、学生図書委員手づくりのしおりを贈呈する。

「すごく楽しかった、もっとやりたい」と言ってくださった。学生図書委員手づくりのしおりがとても好評で、後日来館して下さったときに持ってきてくれている子どももいた。

山陰中央新報
2011年12月27日付



第6章

東日本大震災の
支援活動

第6章 東日本大震災の支援活動
第1節 被災地に絵本を届けよう

2011年3月11日に起きた東日本大震災。おはなしレストランは、「西日本から被災地の子どもたちへ本を届けようネットワーク」(代表:大阪松蔭女子大学 神村朋佳様)に加わり、4月よりおはなしレストランライブラリーを拠点として、絵本の収集と被災地への発送を行ってきた。

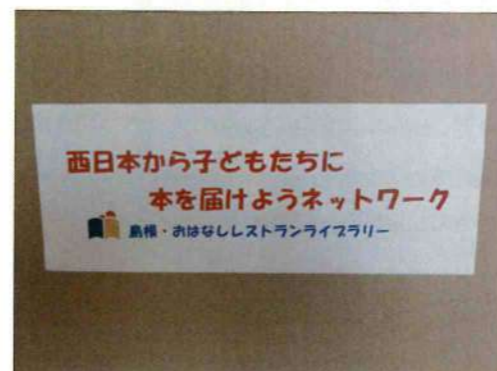
ご家庭でいらなくなった絵本や児童書をライブラリーまで届けていただくように一般の方々に呼びかけたところ、予想をはるかに上回る数の本が集まり、4000冊を超える本を被災地の子どもたちに届けることができた。



連日、一般の方から多くの絵本が届けられた



学生とダンボール箱に梱包して発送



ダンボール箱に貼ったラベル



2011年4月19日付 山陰中央新報

第2節 石巻の避難所で読み聞かせ

岩田 英作



2011年4月21日付 山陰中央新報



石巻で支援に協力していただいた伊勢みゆきさんから届いた年賀状



2011年6月18日、19日の2日間、宮城県石巻市内の避難所を訪れ、子どもたちに絵本を届け、読み聞かせの活動を行なった。島根県立大学松江キャンパスには絵本専門の図書館「おはなしレストランライブラリー」がある。このライブラリーでは、西日本から被災地の子どもたちに絵本を届ける活動を4月から行なってきた。多くの一般の方々から4000冊を超える絵本の提供を受け、仙台のNPOを通じて東北地方の被災地に届けることができた。この活動に取り組むうちに、絵本を送るだけでなく、自分自身、被災地の子どもたちに直接絵本を読みたいと思うようになり、絵本をバッグに詰めるだけ詰めて出かけた。

読み聞かせよりも

僕が現地でお世話になったのは、NPO石巻こども避難所クラブ「にじいろクレヨン」代表の柴田滋紀(しげき)さん。柴田さんご自身も家が流され避難所生活を経験した被災者のひとりだ。柴田さんは画家で、4月には仙台市内で個展を開催する予定だったが、津波で描いた絵がごっそり流されてしまい個展どころではなくなってしまった。石巻での2日間は、柴田さんのほかに、ボランティアで来ていたアメリカ人の女性ふたりと同行した。ひとは東京の英会話教室で教えているニナさん、もうひとは大阪大学で日本の近代文学を学んでいるローラさん。ニナさんは、石巻での支援は今回で2度目ということだった。ふたりは小さな部品をたくさん持ってきていて、それらを組み合わせると、人形や綺麗な飾りが出来上がるのだった。避難所の子どもたちも、特に女の子たちが夢中になって部品を組み合わせていた。僕も子どもに混じって犬を1匹こしらえてみたが、それがなんともさえない表情の犬になってしまって、ニナさんから「へんな犬ね」と笑われてしまった。

石巻市内にある避難所は僕が行った時点でも90箇所以上にのぼる。そのうち、私たち4人が2日間でまわったのは被災者宅も含めて9箇所、最初に向かったのは石巻高校内にある避難所だった。僕の事前の想像では、大勢の子どもたちを前に絵本を読み聞かせるシーンをイメージしていたのだが、現実にはそうはいかなかった。この日は震災で亡くなった方々の百ヶ日の法要にあたり、石巻でも大きな慰霊祭が催され、避難所の方々の多くもそちらに出かけておられるということだった。部屋の中には子どもの姿が見えず、すると校庭に3人のちびっ子がいた。見つけるやいなや柴田さんが走りだし、いきなり追いかけてこの始まりである。さて次は肩車、次はサッカーと、事の成り行きに戸惑いながら、絵本を入れたトランクはとりあえず校庭の隅に置いて、汗まみれ砂埃まみれで走り回った。ニナとローラのふたりも、もちろんいっしょだ。子どもは至近距離から遠慮なくボールを蹴るものだから、それが時々からだにあたって、ふたりは大騒ぎをしていた。「この子に絵本を読んでやってください」柴田さんは絵本を読めないでいる僕を気遣って、ひとりの男の子を連れてきてくれた。さて、いよいよ石巻で最初の読み聞かせである。僕が読み始めると、男の子も喜んで聞いている。次第にこちらも調子が出てくる。と、次の瞬間、男の子はボール蹴りをしている仲間のもとへ走り去った。僕は読み終わっていない絵本を閉じた。

その後まわった避難所でも、基本的にはこれと似たり寄ったりだった。僕は子どもたちと走り、つかまえてこちょこちょをし、ボールを蹴り、投げ、ぶつけられ、また追いかけてまわし、そしてほんのひと

とき、絵本を読んだ。僕はかなり早い段階で絵本の読み聞かせにこだわることはしなくなった。子どもに無理やり絵本をおしつけるなんて馬鹿げているし、それに、絵本を介さなくても、子どもたちと僕のあいだに何かが通い合うのを感じることができた。子どもが風船に水をはちきれんばかりに入れて投げたよこす。受け取った僕の手元で水風船が破裂しシャツが水浸しになる。子どもが大笑をし、僕もこらと言いながら笑った。それでよかった。

突然風景が変わる

石巻に向かった初日のことだ。仙台市内からバスで石巻に入り、最初の停留所があるイオン石巻ショッピングセンターが見えてきた。松江のイオンよりもはるかに大きな施設である。乗客の多くがそこで下車する。若い女性が多い。時間帯からして、イオンで働いている人たちだろう。僕はある違和感を覚え始める。ここは石巻である。なのに、眼前の風景は、それがたとえば松江でもちっともおかしくないくらいに日常的なのだ。終点のJR石巻駅前に到着する。道すがら、ガラスの割れた店やコンクリートがめくれあがった舗道を目にしたが、あの違和感が払拭されたわけではなかった。それほどに駅は駅として機能していたし、駅前の往来もそれらしく見えた。駅一帯が津波の水に覆われ、完全に水が引くまでには2週間かかったと、あとで柴田さんから聞いたが、その風景を想像してみるのはいさぎよいことではなかった。

私たち4人は、こちらの避難所からあちらの避難所へと、通行可能な道路をこまねずみのように車で走りながら、2日目の正午、その風景は突然我々の前に現れた。海に向かって道をゆるやかに下っていくと、町が消滅し、人影のなくなった、殺伐とした風景が広がった。石巻に来たからにはそれから逃れることはできないと、ある程度の覚悟をしていた風景。僕は、それを目にしたときの心境を表現しようとしてみても、うまく言葉にすることができない。僕はどちらかというところ落ち着いた。ただ、その落ち着いた方が、いつもの落ち着いた状態とはあきらかに違ったのだ。喜怒哀楽を失ってしまったような落ち着きとでも呼べばいいのだろうか。僕が写真を撮ってもいいかと尋ねると、柴田さんは運転しながら「もちろんです。伝えてください、これを」と静かに言った。



前を向いて生きる

それからしばらくのあいだ、車は無言の4人を乗せて、その風景の中を進んで行った。柴田さんが案内してくれたのは、彼の家が合った場所だ。私たち4人のほかに、石巻こども避難所クラブを支援する仙台市内の歯科医のみなさんもいっしょだった。「ここが玄関、のあった場所です」柴田さんがそう言うと、一同、そこから「お邪魔します」と言って敷地に入った。そこは北上川の河口にほど近い場所で、地震直後、川の水がすさまじい勢いで海に向かって引いていくのを見て、柴田さんは津波が来るのを確信したという。川の彼岸も此岸も、あたり一面、焦土のようである。2011年3月11日に、ここで起きた事。石巻市、死者3150人、行方不明者890人、全壊19065棟、半壊3354棟。8月1日時点の宮城県発表である。

柴田さんの家は、ほかの流された家と違って、なぜか床板だけは見事に残っていた。柴田さんは、なんとその上で昼食を食べようというのである。私たちは、床板のみの柴田家で輪になって弁当を広げながら、震災当日の様子について柴田さんから話をうかがった。柴田さんの口から語られるのは、まさに阿鼻叫喚の地獄絵である。津波との生きるか死ぬかの追いかけっこ、避難した小学校の出火、学校裏山

への橋桁を渡しての避難、老人や子ども、けが人を背負っての小学校と裏山の往復、知らないあいだに自分の体から流れ出る血、壁の向こうに誰がいるのは分かっているも助けられなかった無念さ……。

僕はここで柴田さんの体験をこれ以上書くことはやめようと思う。石巻こども避難所クラブのブログにそのことは詳しく書かれているので、できればそちらを読んでいただきたい。僕は柴田さんの話をうかがいながら、その内容もさることながら、彼の語り口に強い印象を受けた。なぜなら、柴田さんは、この上なく重い話を、なんとも飄々と、気負うことなく語っていたからだ。「2度、死にかけました」彼はそれを、まことにさりげなく言っていたのである。こいつは、つよい。そう思った。彼は振り返るだけではない。しっかり前を向いている人なのだ。そうも思った。被災してまもない時点から避難所の子どもたちの支援に立ちあがり、仲間と共に日曜日を除いて連日避難所を奔走する彼を支えているものを、僕は見た気がした。



『はじめてのおつかい』と女の子

私たち4人が最後に訪れたのは、柴田さんの高校時代の同級生宅だった。家の壁には、津波が達した跡がくっきりと付いていた。中に入ると、同級生の男性のお子さんをはじめ、6人の子どもたちが集まっていて、僕はそこで、石巻で初めて読み聞かせらしい読み聞かせをすることができた。僕は子どもたちの「もっと読んで」という声に答えて、3冊の絵本を立て続けに読んだ。柴田さんも、よかったですねという表情をしていた。その後、僕と同級生の男性を残して、みなは外に遊びに行き、僕は男性から震災の日のことをうかがった。「すべてが終わったと思った」という彼の壮絶な体験の中で、僕はこんな話も聞いた。彼の家族がいた避難所では、トイレが汚物で溢れて使えなくなった。そのとき、中国人の避難者が手で汚物を掬い取り、ふたたび使えるようにしてくれたのだという。

帰りの車の中で、柴田さんは、同級生宅にいた子どもの中の、ある女の子について話をしてくれた。10歳になるその女の子は、もともと母子家庭だったが、お母さんが津波で命を落とし、今は祖母と2人で暮らしているということだった。僕が読んだ3冊の絵本の中には、『はじめてのおつかい』（文：筒井頼子、絵：林 明子）があった。お母さんにおつかいを頼まれたみいちゃんが、初めてひとりでおつかいに行き、心細い思いをしながらなんとか買い物を終えて家路に着くと、坂の下でお母さんが待っている、というおはなしである。母を亡くしたというその女の子は、いったいどんな思いでその絵本を聞いていたのだろうか。そのことが、少し気がかりだった。

12月になって、石巻のじいろクレヨンからクリスマスカードが届いた。避難所が解散した今、じいろクレヨンの活動は仮設住宅で続けられている。「日々の活動から強く感じるのは、子どもたちの健やかな成長のためには今だけでなく長い期間にわたり継続した見守りが必要だということです。」カードの言葉は、子どもが描いたサンタさんの絵と共に、つよく僕の心に響いている。



第7章

委員会・会議

第7章 委員会・会議

おはなしレストランの取組全般についての評価は、学内の教職員が構成する人間力養成検討会議と、5名の学外委員から成る外部評価委員会で実施することになっていた。しかし、実際には、各年度の事業計画実施状況に対する評価は専ら外部評価委員会に委ねられ、取組実施の推進役も兼ねている人間力養成検討会議は、主に全学に関わる取組内容の提案と承認、おはなしレストランの取組全体の進捗状況の報告の場として機能した。

人間力養成検討会議

日 時： 平成22年11月10日（水）

場 所： 島根県立大学短期大学部松江キャンパス 大会議室

出席者： 高橋 憲二 副学長
伊藤 善啓 教務学生部長
安藤 彰郎 健康栄養学科 学科長
岸本 強 保育学科 学科長
河原 修二 総合文化学科 学科長
岩田 英作 G P担当、読み聞かせ科目担当教員
マユー あき G P担当、読み聞かせ科目担当教員
山下 由紀恵 地域連携推進委員会委員長
小玉 容子 メディア・図書館員会委員長
日下 晴雄 事務室 室長
多久和 耕次 管理課 主幹

議事及び議事録：

1. 学科セレクションの推薦のお願い

おはなしレストラン・ライブラリーの平成23年4月一般利用スタートに向けて、学科セレクション・コーナーを設置する。3学科の教育内容に沿ったもので、一般の方が手に取りやすい書籍を推薦してもらい、松江キャンパスの教育特色をアピールする場の1つとする提案を行い、了承された。

2. 平成23年度集中講義の講師および日程

講師に詩人の谷川俊太郎氏を迎え、以下の日程で行うことが了承された。

平成23年10月1日（土）午後 学生対象（おはなしレストラン・ライブラリー）

10月2日（日）午前 学生及び一般対象（大講義室）

3. その他

・報告

平成22年度「読み聞かせの実践」の前期・後期それぞれの受講者人数、及び実践の様子が報告された。

外部評価委員会

外部評価委員は、学外の学識経験者を始め、読み聞かせの実践受け入れ教育機関の代表者、子どもと読書に関わる有識者を選出して委員を委嘱した。委員会は、以下の設置要綱に基づき運営され、事業取組期間（平成21年度～平成23年度）中の年度末に各1回、合計3回開催された。

島根県立大学短期大学部松江キャンパス
文部科学省選定平成21年度大学教育推進プログラム
「おはなしレストラン、はじまるよ！ー読み聞かせによる人間力の育成ー」
おはなしレストラン外部評価委員会設置要綱

平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム選定取組
「おはなしレストラン、はじまるよ！」外部評価委員会

【外部評価委員】

所 属	職 名	氏 名	備 考
島根大学法文学部	教授	村瀬俊樹	外部評価委員会委員長
松江市立幼保園のぎ	園長	狩野由美子 (H21年度) 伊藤真知子 (H22年度～)	
島根県立図書館	資料・情報 グループ課長	矢野信夫	
しまね子どもの読書等 推進の会松江支部	支部長	今井久美子	松江市立竹矢小学校学校司書
松江市立乃木小学校	学校司書	富谷美紀 (H21, 22年度) 竹中庸子 (H23年度)	

【学内委員】

島根県立大学短期大学 部保育学科	副学長・教授	高橋憲二 (H21, 22年度) 山下由紀恵 (H23年度)	人間力養成検討会議議長
島根県立大学短期大学 部健康栄養学科	学科長・教授	安藤彰朗 (H21, 22年度) 名和田清子 (H23年度)	人間力養成検討会議委員
島根県立大学短期大学 部保育学科	学科長・教授	岸本強 (H21, 22年度) 森山秀俊 (H23年度)	人間力養成検討会議委員
島根県立大学短期大学 部総合文化学科	教授	岩田英作	事業担当者 人間力養成検討会議委員
島根県立大学短期大学 部総合文化学科	教授	マユーあき	事業担当者 人間力養成検討会議委員

【事務局】

島根県立大学松江キャンパス 事務局	室長	日下晴雄 (H21, 22年度) 樋野輝男 (H23年度)	
島根県立大学松江キャンパス 管理課	課長	玉木治義	
島根県立大学松江キャンパス 管理課	主幹	多久和耕次	事務担当者

(設置目的)

第1条 文部科学省より選定された「おはなしレストラン、はじまるよ！ー読み聞かせによる人間力の育成ー」の事業の運営を適正かつ効果的に実施するために、当該事業に対し学外から評価・指導助言を行う「おはなしレストラン外部評価委員会」を設置する。

(所掌事項)

第2条 おはなしレストラン外部評価委員会の所掌事項は次のとおりとする。

- (1) おはなしレストランの事業内容の審議および評価
- (2) おはなしレストランの事業に関する指導助言
- (3) その他おはなしレストラン外部評価委員会が必要と認める事項の検討

(委員)

第3条 おはなしレストラン外部評価委員会の委員は、読み聞かせの実践受け入れ機関の代表者、子どもと読書に関わる有識者、学識経験者で構成し、島根県立大学短期大学部学長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から平成24年3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 おはなしレストラン外部評価委員会に委員長を置く。
2 委員長は、島根県立大学短期大学部学長が委嘱する。
3 委員長は、会議を招集し会務を総括する。

(事務局)

第6条 事務局は、島根県立大学短期大学部松江キャンパスに置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、おはなしレストラン外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、おはなしレストラン外部評価委員会の議決により定める。

附則 この要綱は平成22年3月26日から施行する。

第1回（平成21年度）から第3回（平成23年度）までの外部評価委員会における議事内容と外部評価委員による評価は、以下のとおりであった。

第1回（平成21年度）外部評価委員会（平成22年3月26日（金））

【議 題】

1. おはなしレストランの取組について（概要説明）
2. おはなしレストラン外部評価委員会設置要綱について
3. 委員長互選
4. 平成21年度事業について
 - ①3 学科共通科目「読み聞かせの実践」の実施に向けたカリキュラム開発
 - ②絵本データベースのコンテンツとシステム開発、絵本レビューの作成・配布
 - ③絵本文庫「おはなしレストラン・ライブラリー」開設の準備
 - ④絵本ワゴン車を利用した学外での読み聞かせ活動の実施
 - ⑤ホームページの立ち上げ、チラシなどの作成・配布
 - ⑥子ども図書館童話館等の視察
 - ⑦取組の実施・評価に関する検討・会議
5. 平成22年度事業計画について
6. その他

第2回（平成22年度）外部評価委員会（平成23年3月1日（火））

【議 題】

1. 平成22年度事業内容・成果についての報告
 - ①3 学科共通科目「読み聞かせの実践」の実施、及び平成23年度実施予定の集中講義の検討
 - ②絵本データベースの入力、絵本レビューの作成・配布
 - ③おはなしレストラン・ライブラリーの整備と授業利用の実施
 - ④絵本ワゴン車を利用した読み聞かせの活動の充実
 - ⑤ホームページ並びに広報の充実
 - ⑥G Pフォーラムへの参加
 - ⑦取組実施・評価に関する検討・会議
2. 平成23年度事業計画について
3. その他

第3回（平成23年度）外部評価委員会（平成24年2月23日（木））

【議 題】

1. 平成23年度事業内容・成果についての報告
 - ①3 学科共通科目「読み聞かせの実践」の継続、並びに集中講義の実施
 - ②絵本データベースの入力・蓄積とHPでの公開、絵本レビューの作成・配布
 - ③おはなしレストラン・ライブラリーの整備と授業利用の継続、地域開放の開始
 - ④絵本ワゴン車を利用した読み聞かせの活動の充実
 - ⑤ホームページ並びに広報の充実

- ⑥G Pフォーラム等への参加
- ⑦取組実施・評価に関する報告・検討・会議
2. 事業成果報告書（案）について
3. 今後の事業方針について
 - ①3 学科共通科目「読み聞かせの実践」の継続
 - ②絵本データベースの入力・蓄積とHPでの公開
 - ③おはなしレストラン・ライブラリーの整備と地域開放の継続
 - ④絵本ワゴン車を利用した読み聞かせの活動の充実
 - ⑤ホームページ並びに広報の継続
4. その他

平成 21 年度おはなしレストラン事業に対する外部評価

平成 22 年 3 月 26 日
おはなしレストラン外部評価委員会
委員長 村瀬俊樹

項目	評価	コメント
① 3 学科共通科目「読み聞かせの実践」の カリキュラム開発	A	3 学科共通科目となったことは、学生が社会に出て様々な立場で読み聞かせに関わることができる点で意義深く、ユニークな取組である。 選書をより吟味し、読み聞かせの時間にブックトーク的な要素を取り入れるなどの工夫をするとよい。 授業を参観したい。
② 絵本データベースの システム開発・絵本 レビューの作成	B	絵本データベースの作品評の内容が一方的なおしつけや偏ったものにならないようにすべきである。 ネットで絵本の情報を知るより、直接手に取って読んだ方がよい。 自分以外の人の読み方を知る上で有効である。 絵本レビューは作成できなかった。
③ 絵本文庫の開設準備	A	絵本文庫は素敵なことだ、うれしくなる。 古絵本の回収については、必ずしも良いとは言えない。 古絵本の回収ボックスは常設でなくてもよい。
④ 絵本ワゴン車	A	ワクワクする。あったかい感じがする。 機動力もあって、よいことだ。
⑤ ホームページの立ち上げ・ チラシの作成	B	ホームページは計画通りに立ち上げることができた。 チラシは作成できたものの配布にまでは至らなかった。 チラシの配布をより広域で行ってほしい。
⑥ 視察	A	充実した視察ができて、予想を上回る成果を上げることができた。
⑦ 会議	A	有意義な議論を展開できた。

評価 A：優れている B：良好である C：やや課題あり D：改善の必要あり

総評

本取組は、これまでよりその教育実践が蓄積されてきたものであるが、学生の読み聞かせ実践をより豊かなものにするための体制・環境づくりが平成 21 年度に積極的になされた。いずれも、読み聞かせを楽しく、豊かに、多面的に行うためのものとしてのアイデアに溢れるものであり、次年度以降の読み聞かせ実践への効果が大きいと期待できる。

平成 22 年度おはなしレストラン事業に対する外部評価

平成 23 年 3 月 1 日
おはなしレストラン外部評価委員会
委員長 村瀬俊樹

項目	評価	コメント
① 「読み聞かせの実践」 の実施 集中講義の計画	A	学科を超えた学生の交流でお互いに良い刺激を受けている。学科の受講者数に偏りが見られるが、カリキュラムの関係上、現状では致し方ない。受け入れ機関からは、子どもたちが楽しみにしている、よく準備がされていると評価が高い。学生の感想文から人間力養成に寄与していることがわかる。
② 絵本データベース入力 レビュー配布	A	あらずじや読み聞かせに要する時間が出てくるデータベースは他にはあまり例がなく、とてもよい。 絵本の表紙の画像については、出版社に許諾を得て載せていることを明記しておいた方がよい。 レビュー配布については、今年度はたまたまその機会がなく、配布していない。
③ ライブラリーの整備 授業利用	A	絵本・児童書を中心に図書整備が順調に進んでおり、「読み聞かせの実践」、卒業プロジェクトはもとより、他の授業でも活用されている。
④ 絵本ワゴン車の活用	A	忌部小学校での定期的な活動（計 27 回）に加え、出前シェフを県内各地で実践（計 15 回）するなど、ワゴン車を積極的に活用し、地域社会との関係がさらに広がりを見せている。
⑤ ホームページ・広報	A	ホームページに、おはなしレストランの活動をそのたびアップするとともに、「キャンパスニュース」「おはなしレストランライブラリー」など広報に努めている。
⑥ GP フォーラム参加	—	ブース展示に申請したものの該当しなかったため、今回は参加しなかった。従って評価は記入していない。
⑦ 会議	A	人間力養成検討会議（11 月）、おはなしレストラン外部評価委員会（3 月）を開催し、GP の実施・評価に関する検討を適正に行った。

評価 A：優れている B：良好である C：やや課題あり D：改善の必要あり

総評

「読み聞かせの実践」授業は順調になされ、受け入れ機関からの評価も高く、学生の満足度も高い。2 年次も活動が続ける学生が多いなど、カリキュラムへの波及効果もある。ユニークなデータベースの作成、図書や広報が整備されて地域開放への準備も整うなど、新たな教育活動の基盤が整った。

平成 23 年度おはなしレストラン事業に対する外部評価

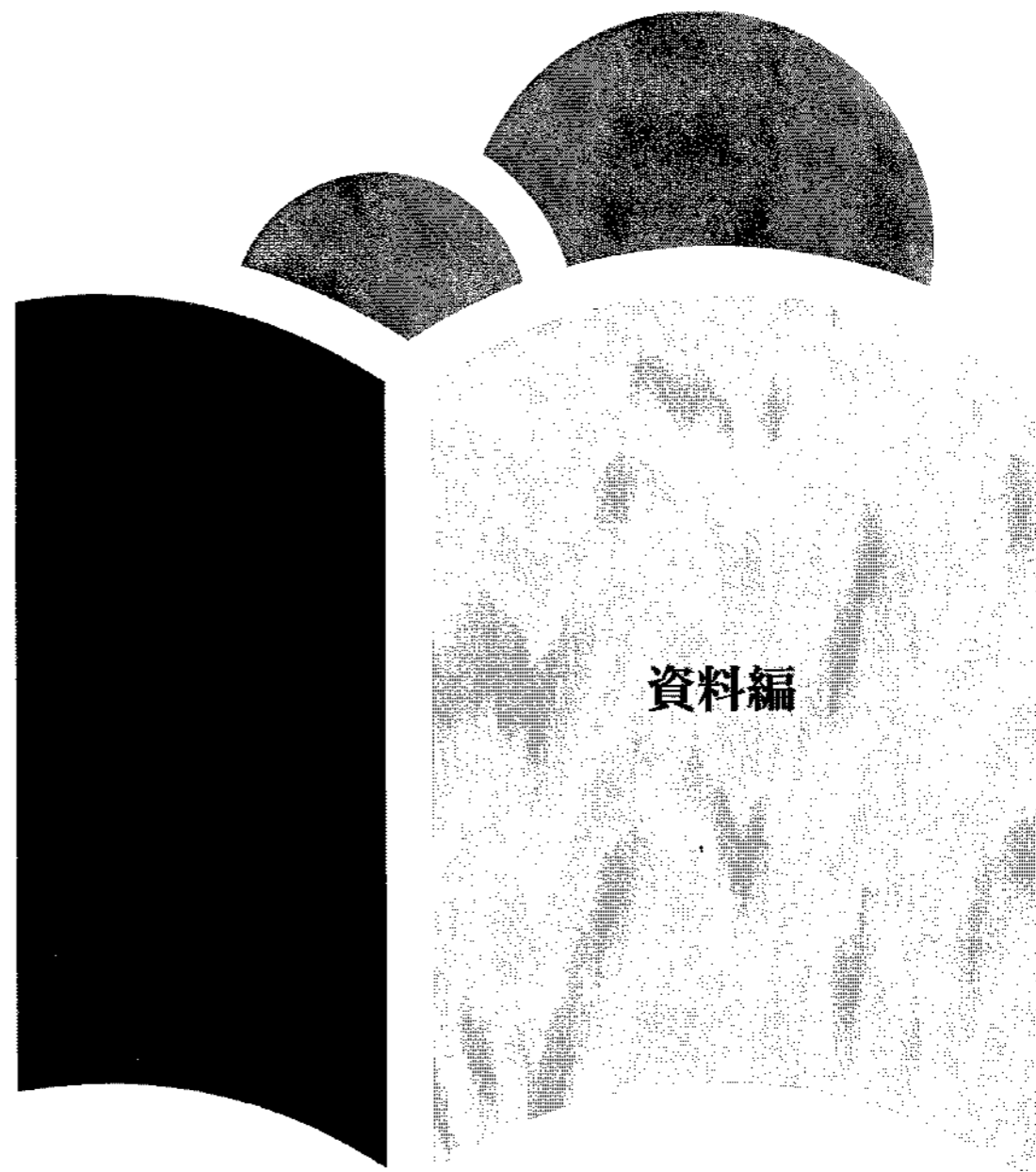
平成 24 年 2 月 24 日
おはなしレストラン外部評価委員会
委員長 村 瀬 俊 樹

項目	評価	コメント
①「読み聞かせの実践」の継続 集中講義の実施	A	3つの機関で、幅広い年齢の子を対象に、毎週継続的に読み聞かせ実践がなされている。受け入れ機関からは、子らが楽しみにしている・聞く力が育つなど評価が高い。学生も子どもたちとの関わりで自信をつけている。親世代になった時の読み聞かせ経験の効果も指摘された。 集中講義では、学生が、スタッフとして、市民を含む約 300 人を前に生き生きと会の司会進行をした。
②絵本データベース入力 レビュー配布	B	ふさわしいデザインのデータベースがHP上にでき、現在 363 冊の絵本が紹介者の名前とともに登録されている。 学生によるレビューは、HP上の公開という性格上、どのように載せるか、慎重に検討がなされている。
③ライブラリーの整備 地域開放の開始	A	地域に対してライブラリーが開放された。毎月 1000 人以上の利用者、常時 1400 冊の貸し出し、多数の団体見学もあり、地域から注目されている。 貸し出し状況が他機関での取り組みの参考となる、読み物への移行期の本も増やしてほしいという声もあった。
④絵本ワゴン車の活用	A	島根県・鳥取県で出前シェフの活動が行われ(14 回)、青年会議所とのコラボレーションでおはなし会を持つなど、地域社会とさらに関係が緊密になっている。
⑤ホームページ・広報	A	HP上で適宜活動などを紹介する他、カラーパンフレットを 3 万部作成・配布し、様々な媒体で広報がなされている。
⑥フォーラム参加	—	フォーラムが中止となったので、評価は記入しない。
⑦会議・報告書	A	おはなしレストラン外部評価委員会を 2 月に開催し、3 年間の取組について評価を適正に行った。また、事業報告書の概要について報告があり、異議なく了承された。

評価 A：優れている B：良好である C：やや課題あり D：改善の必要あり

総評

地域における学生による読み聞かせ実践の継続、ライブラリーの開放による地域への貢献など、3 年間の活動は着実に実を結んできている。学生が実践をするにあたっての事前・事後指導もしっかりとなされており、教育効果を高めている。学生は、子どもと接することや地域社会に出かけることで、コミュニケーションスキルや社会的スキルを身につけている。地域社会からの評価も高く、活動が地域に根ざしたものとなっている。今後の継続的な取組が期待される。



資料編

1. ヒアリング資料

公立大学法人 鳥根県立大学短期大学部松江キャンパス
おはなしレストラン、はじまるよ! ~読み聞かせによる人間力の育成~

① 取組の基本構想

【申請書P.3-7に対応】

人間力を備えた人材

技能
Face to Faceのコミュニケーションスキル

養成方法

おはなしレストラン
総合的学習としての読み聞かせ

知識
人間・文化に対する知識と理解

実践
社会性、倫理観

共通課
総合文化学科
健康栄養学科 保育学科

鳥根県立大学短期大学部 松江キャンパス

P.1

② 「読み聞かせ」の実践の様子

【申請書P.6に対応】

1 幼稚園のび
【実践に出かける直前の学内での最終チェック】
子どもの情緒で直前

2 幼稚園のび
【読み聞かせの本番】
今日もおいしいおはなしが子どもたちの心に届きますように

3 幼稚園のび
【2冊の絵本の背に入れるくつなぎの場面】
みんなでおいしいおべんとう作り

4 万本小学校
【8:05AM 小学校の図書館に集合】
実践を前に集場で絵本を読む表情は奥深いもの

5 万本小学校
【教室での実践風景】
子どもたちの反応を確かめながら

6 万本小学校
【読み聞かせが終わって再び図書館にて】
今日の実践を振り返って記録

鳥根県立大学短期大学部 松江キャンパス

P.2

3 取組の4つの柱

[申請書P.8-9に対応]

①おはなしシェフの養成
●全学共通科目化
●集中講義開講

②出前シェフ
●絵本ワゴン車
●地域へ…
●幼稚園
●小学校

③レストランのメニューの充実
●絵本のデータベース化及びホームページ上で広く公開
●絵本のレビュー作成及び地域への公開

④レストランの素材の充実
●絵本の充実「日本一の絵本文庫」をめざして
●読み聞かせ活動の拠点
●Face to Faceの異世代交流
●「こころセンター」県立美術館などのイベント

島根県立大学短期大学部 松江キャンパス

P.3

5 読み聞かせの効果

[申請書P.6及びP.15に対応]

A 自動車販売 営業 川上利穂さん
短大で読み聞かせを行なう中で、子ども達はもちろん、ご家族の方や先生方など、たくさんの方々と接する機会がありました。その中で身についたコミュニケーション力は、仕事をやるにあたって、もっとも活かしている部分だと感じています。既報に記述されてまだ3か月ほどですが、お客様がいらっしゃった時に、ほどよい緊張感の中で落ち着いて対応が出来ているように感じます。

B デパート 総合案内 内田真子さん
お客様から説明を求められた際、私がかんがえているのは、お客様の目を見て、こちらの説明がきちんと伝わっているかを意識しながら話すことです。読み聞かせをする際、子どもの反応を見ながら話さなければいけないことが、意識してからも、自然と相手に配慮しながら話せることができるようになりました。

C 薬局 店頭販売 福留麗子さん
私はもともとあがり症で、どちらかといえば消極的な性格でした。しかし、読み聞かせを始めてから、子どもたちや多くの人の前に出て活動を行う機会が増えました。それにより、自然とコミュニケーションがとれるようになり、徐々に積極的になりました。業務でも、相手の話をしっかり聞き、巧みとした会話でも大切にするように心がけています。

D 公立図書館 司書 石川亜希子さん
読み聞かせの活動の時、一番楽しく書かれたことは礼儀でした。それは、人とコミュニケーションをはかる上で、私が一番大切にしていることです。また、読み聞かせは考える力をつける場でもありました。活動の中で出てくる課題をどのようにしたら解決できるかを、相手の話をしっかり聞き、目標を持って次に臨むことができました。

短大で読み聞かせの実践を経験した卒業生より

実践の受け入れ先より

松江西立乃木小学校 吉澤陽治校長先生
学生が一生懸命に読み聞かせをする姿勢に感銘しながら、児童たちには、次のような効果があるように思う。
聞く力が育つ→しっかりと真を傾け、うなずきながら読み手を見つめている。
想像力が育つ→言葉や絵をもとに、想像力を働かせながら聴いている。
言葉をもたず→一日の始まりにみさむい漢字書きの時間となり、今日一日を頑張ろうという心構えをもたらす。
楽しみをもたらす→本の持つ不思議さや魅力が、うれしさをもちます。

島根県立大学短期大学部 松江キャンパス

P.5

4 学生の目標達成度の評価方法

[申請書P.10に対応]

STEP 1 計画・準備
●作品制作ノート
●活動プランノート
●絵

STEP 2 実践
●実践記録
●活動振り返り

STEP 3 振り返り
●実践記録
●自己評価

総合的評価
3種のノートと10ヶ条のまとめ
+ 授業態度・出席状況

2回目、3回目…の真摯
おはなしレストラン10ヶ条も活用した結果
「知識」「技能」「態度」の各ポイントについて、「できたこと」を数値的に測定

おはなしレストラン10ヶ条を利用した総括

島根県立大学短期大学部 松江キャンパス

P.4

6 取組の実施計画

[申請書P.11-12に対応]

準備、基礎づくり

レストランの素材(絵本文庫)充実
●絵本の選定、購入、整理
●教室に置いておく絵本の取捨・整理
●授業利用(はじまるよ!)

レストランのメニュー充実
●絵本データベースの入力・整理
●絵本データベースのホームページ上で公開
●授業利用(はじまるよ!)

おはなしシェフの養成
●3学期共通科目化(はじまるよ!)
●情報/総合文化学習、基礎/健康科学科、教育学科
●集中講義開講(はじまるよ!)

実践体制
●事務局(平成22年度)
●事務局(平成23年度)

1年目(平成21年度)

2年目(平成22年度)

3年目(平成23年度)

充実、本格稼働

レストランの素材(絵本文庫)充実
●絵本の選定、購入、整理
●教室に置いておく絵本の取捨・整理
●授業利用(はじまるよ!)

レストランのメニュー充実
●絵本データベースの入力・整理
●絵本データベースのホームページ上で公開(はじまるよ!)

出前シェフ
●絵本ワゴン車の活用準備アップ
●こころセンターほかイベントへの参加拡大

おはなしシェフの養成
●3学期共通科目
●情報/総合文化学習、基礎/健康科学科、教育学科
●集中講義(はじまるよ!)

実践体制
●人員力確保検討会
●おはなしレストランが評価委員会
●ホームページの充実
●次年度以降へ向けた体制の整備 ●報告書作成

島根県立大学短期大学部 松江キャンパス

P.6

7 取組の実施・評価体制

[申請書P.9-10に対応]



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

P.7

2. 報道資料

2009年9月11日 山陰中央新報

県立大の2件採択 人材育成と人間力向上

文科省が採択した「教育プログラム 文科省事業採択」の2件が、県立大の「おはなしレストラン」に関連する事業として採択された。文科省は、人材育成と人間力向上を目的として、県立大の「おはなしレストラン」に関連する事業として採択された。文科省は、人材育成と人間力向上を目的として、県立大の「おはなしレストラン」に関連する事業として採択された。

2009.9.11 山陰中央新報

2009年9月11日 中国新聞

県立大2件 統計処理の技法／読み聞かせ実践

3年間で8千万円助成

県立大の「おはなしレストラン」に関連する事業として採択された。文科省は、人材育成と人間力向上を目的として、県立大の「おはなしレストラン」に関連する事業として採択された。

2009.9.11 中国新聞

島根県立大短期大学部に新設された絵本専門図書館の司書に就いた

ひと

内田 絢子さん

島根県立大短期大学部と笑顔を繋げる。松江キャンパスに園内外、同短期大学部の前身の絵本を収集し、貸し出し、島根女子短期大学を3年する図書館が今春新設前に卒業。学生時代、近隣の小学校などに訪問し、絵本を学生たちに伝える。読み聞かせの授業を経験した。

「少しずつ図書館を利用する人が増えている。一本に換わる職業に就きたい」と思いを持っている。司書の石原格者で、読み聞かせに携わった。図書館では、読み聞かせに携わった。図書館では、読み聞かせに携わった。

2010.5.7 山陰中央新報

短冊づくりなど楽しむ

2010.8.11 島根日日新聞

おはなしライブラリー 県立大短大・松江キャンパス

来月から市民に開放



「絵本に親しんで」と準備

2011.3.17 山陰中央新報

子育てランド

おはなしレストラン
ライブラリーへ行ってみよう



2011.4.11 山陰中央新報りびえ〜る

5月は壊滅的

被災地に送る絵本募集
あすから受け付け



2011.4.19 山陰中央新報

「子どもたちの心」支援

被災地に送る絵本収集開始



2011.4.21 山陰中央新報

絵本2262冊被災地へ発送

東日本大震災の被災地に送る絵本を収集している島根県立大短期大学部松江キャンパス(松江市浜乃木7丁目)の教授らが6日、第1便として、2262冊を発送した。震災でショックを受けている子どもたちの心が和むよう支援を続け

2011.5.7 山陰中央新報

子どもに英語読み聞かせ

県立大短大部松江2年生
海外の絵本を使用



2011.5.7 山陰中央新報

学校図書館の充実目指し 小、中の司書が研修

松江市の学校図書館を訪問し、市内の小・中学校の司書らに研修を行った。おはなしレストランは、本館の図書室「おはなしレストラン」を、松江市立中央図書館と連携して、市内の小・中学校に巡回して、子どもたちに絵本を貸し出し、読み聞かせを行っている。



2011.5.25 山陰中央新報

子どもに英語読み聞かせ

県立大短大部松江2年生
海外の絵本を使用



2011.7.8 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

島根県立大知大部松江の岩田教授

避難所の子どもに絵本読み聞かせもストレス緩和実感

避難所の子どもに絵本読み聞かせもストレス緩和実感

島根県立大知大部松江の岩田教授

避難所の子どもに絵本読み聞かせもストレス緩和実感

2011.7.12 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

小学校訪れ読み聞かせ

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

小学校訪れ読み聞かせ

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

2011.7.19 山陰中央新報

「読み聞かせの実践」を受講した玉木さくらさんと長島陽春さんは、本学卒業後、島根県立大学(浜田キャンパス)に編入学し、そこで仲間を募って読み聞かせのサークルをつくり、小学校で活動を始めた。さらに玉木さんは、県立大学の学生に地域資源を生かしたビジネスプランを提案してもらい「産業コンテスト」において、地元の民話を題材にした、表紙に地元の石州和紙を使った「ご当地絵本」づくりを提案し、最優秀賞に輝いた。おはなしレストランで修行を積んだシェフが巣立って自分の店を出したような感じである。おはなしレストランのスタッフにとって、大きな励みである。

2011年(平成23年)8月18日(木曜日) 22

ニュースプラス

利用者層の拡大知恵絞る

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

利用者層の拡大知恵絞る

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報



「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

2011.8.18 山陰中央新報

県立大生がクイズも

クリスマス会 親子御人楽しむ

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

県立大生がクイズも

クリスマス会 親子御人楽しむ

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報



「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

2011.12.8 山陰中央新報

1800人 絵本の世界楽しむ

読み聞かせや作家講演

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

1800人 絵本の世界楽しむ

読み聞かせや作家講演

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

2012. 3. 4 山陰中央新報

絵本見てクイズに答えて

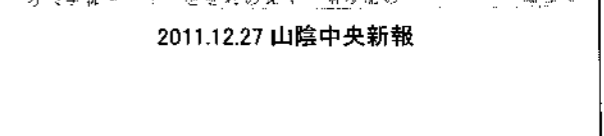
専門図書館の利用増狙い

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

絵本見てクイズに答えて

専門図書館の利用増狙い

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報



「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

「おはなしレストラン」の学生による絵本の読み聞かせを楽しく親子連れ... 山陰中央新報

2011.12.27 山陰中央新報

3. 事業関連制作物

レストランはじまるよ!

おはなしレストラン、はじまるよ!

2011年4月1日、松江キャンパスで「おはなしレストラン」がスタートしました。この日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。

当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。

キャンパスニュース

おはなしレストランの取組内容

松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。

当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。当日は、松江キャンパスの学生、教職員、関係者など約100名が参加しました。

キャンパスニュース

おはなしレストランはじまるよ!

～読み聞かせと絵本ライブラリー～

おはなしレストランは、平成21年度文部科学省大学教育推進プロジェクト選定されました。

大学教育推進プロジェクト(Read Network)とは、大学・短大入学者の学力向上を目的として、読書の推進を図ることを目指す。文部科学省の選定です。

おはなしレストランの目的

読書の推進を図ることを目指す。文部科学省の選定です。

おはなしレストランの目的

読書の推進を図ることを目指す。文部科学省の選定です。

チラシ表

おはなしレストランの取組内容

絵本の読み聞かせ

おはなしレストランライブラリー

出前おはなしカフェ

絵本データベース

おはなしレストランの取組内容

絵本の読み聞かせ

おはなしレストランライブラリー

出前おはなしカフェ

絵本データベース

チラシ裏

図書館だより

平成22年12月

おはなしレストラン

図書館だより

平成22年12月

おはなしレストラン

おはなしレストラン、おはなしまし開話中!

おはなしレストラン、おはなしまし開話中!

おはなしレストラン、おはなしまし開話中!

おはなしレストラン、おはなしまし開話中!

島根県立図書館だより

トライアングル

vol.4

2011年4月オープン! おはなしレストランライブラリー

おはなしレストランライブラリー

2011年4月オープン! おはなしレストランライブラリー

おはなしレストランライブラリー

トライアングル

おはなしレストランライブラリー 図書より

おはなしレストランライブラリー 図書より

おはなしレストランライブラリー 図書より

おはなしレストランライブラリー 図書より

トライアングル

おわりに

大学教育推進選定プログラム「おはなしレストラン、はじまるよ！～読み聞かせによる人間力の育成～」は、本学松江キャンパスにおける従来の読み聞かせの取組内容と規模を拡充し、学生の学びの場を広げながら、地域に根づき、親しまれる取組へと発展させて参りました。

「読み聞かせの実践」は、前・後期開講の3学科共通基礎科目となり、松江キャンパス全体の取組として1年を通し実践する体制が整いました。実践先の幼保園、小学校では読み聞かせが定着し、子どもたちが学生の実践を毎週楽しみにしている、子どもの聴く力が育つ、学校司書だけではできない読書支援になっている、と高い評価を受けています。

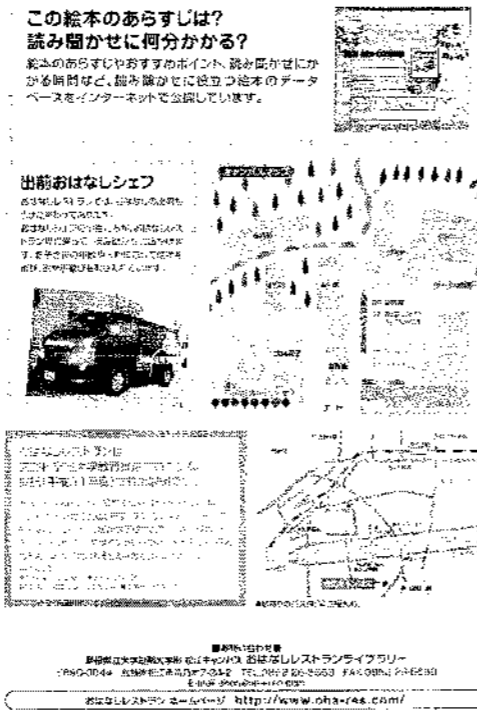
地域の要望を受けて読み聞かせに出かける「出前シェフ」は、絵本ワゴン車「おはなしレストラン号」の導入で機動力が高まり、島根県西部から鳥取県西部までその活動範囲を拡げ、たくさん子どもたちと交流することができました。

新たに設置された念願の絵本文庫「おはなしレストランライブラリー」は、平成23年4月学外に向けてオープンして以来、多くの一般の方に利用されています。ライブラリーでは、絵本を表紙が見えるように配架しており、絵本に囲まれる楽しそうで穏やかな雰囲気は訪れる方にも好評で、絵本の内容の質の高さ、幅の広さとともに地域で広く知られるようになってきました。学生は、このライブラリーで様々な絵本と出会うことが可能になり、実践のための絵本をじっくり選びながら、絵本への理解を深めています。

このように、従来の読み聞かせの取組を大きく進展させた本事業は、ここに報告しました一定の成果をもって終了いたしますが、3学科共通基礎科目「読み聞かせの実践」、絵本ワゴン車を利用した読み聞かせ活動、おはなしレストランライブラリーの整備と地域開放、ホームページと広報は、これまで同様、継続して取り組んで参ります。

おはなしレストランは、学生が絵本に向き合い、子どもに向き合い、そして自分と向き合うことを通して自ら学んでいく取組です。1人ひとりの学生の学びを支え、学生が「好きとおったほんとうのたべもの」を子どもたちに伝えることができるシェフとなるよう、スタッフ一同、一層の努力をしていく所存です。

関係各位の皆さまには、おはなしレストランの取組に対するこれまでのご理解とご協力に深く感謝いたしますとともに、今後も変わらぬご支援を受け賜われますよう、心よりお願い申し上げます。



パンフレット 表



パンフレット 裏

文部科学省選定 大学教育推進プログラム
「おはなしレストラン、はじまるよ! ～読み聞かせによる人間力の育成～」
事業成果報告書

平成 24 年3 月

発行/島根県立大学短期大学部松江キャンパス
〒690-0044 島根県松江市浜乃木 7-24-2
電話 (0852) 26-5525